

青森県立美術館

年報

平成20年度

目次

青森県立美術館の沿革

展覧会

- 006 企画展
- 030 常設展

学芸

- 038 美術資料収集
- 039 美術資料貸出状況
- 041 作品保存修復

教育普及

- 044 普及プログラム
- 048 スクールプログラム
- 051 アートイン三内丸山遺跡プロジェクト
- 053 サポートスタッフ
- 054 メンバーシッププログラム

パフォーマンスアート

- 056 演劇
- 060 ダンス
- 063 音楽
- 065 映画

サービス等

- 068 貸館
- 070 図書室
- 071 キッズルーム・フリーアトリエ
- 072 博物館実習
- 073 情報システム

資料

- 076 広報
- 078 広聴
- 079 入館者数
- 080 運営予算・決算
- 081 組織
- 082 関係規程等
- 086 施設設備概要

青森県立美術館の沿革

1990年3月	美術館の設置について検討を開始することを表明
1991年1月	美術館、音楽・演劇ホール等の複合文化ゾーンである「総合芸術パーク」の検討開始
1996年2月	総合芸術パークの建設場所を三内丸山遺跡に隣接した移転予定の総合運動公園跡地に決定 総合芸術パークの核となる美術館を先行し整備することが決定
1999年度	美術館設計競技を実施、最優秀者に青木淳氏
2000年度	建築基本設計
2001年度	建築実施設計
2002年度	美術館建築工事着工
2003年度	別棟で建築予定であったアトリエとレジデンスを休止、同じく別棟で建築予定であったレストラン、ミュージアムショップを美術館本体に組み込むなどの見直しを行う
2005年9月20日	美術館竣工 総工費 113億円
2006年3月17日	「運営諮問会議」設置
2006年4月1日	青森県立美術館開館準備室設置
2006年10月17日	「青森県立美術館条例」制定
2006年6月13日	開館プレス発表開催
2006年7月13日	開館（館長 三村 申吾）
2007年7月24日	博物館法に基づく博物館相当施設登録（青森県教育委員会告示第11号）
2007年9月13日	「県民のための美術館づくり懇話会」設置
2007年11月10日	「美術館ユビキタスシステム」国内の美術館・博物館の中で初導入
2008年7月19日	あおり犬屋外連絡通路開通
2008年7月20日	青森県立美術館2周年記念シンポジウム開催
2009年1月1日	新館長 鷹山ひばり 就任

展覧会

企画展

寺山修司展

大ナポレオン展

小島一郎展

常設展

春のコレクション展

夏のコレクション展

秋のコレクション展

冬のコレクション展

凡例

- 1 出品作品の項は、出品番号、作家・作品名、制作年、材質技法、寸法（高さ×縦×横、cm）、所蔵先の順に記した。
- 2 掲載記事は新聞記事のみを記載している。

寺山修司◎劇場美術館

併設開催：土方巽と日本のアヴァンギャルド

開催概要

会期：2009年4月1日(火) - 5月11日(日)

開催日数：40日間

主催：寺山修司展実行委員会(青森県立美術館、青森朝日放送株式会社)

特別協力：三沢市寺山修司記念館

企画：テラヤマ・ワールド

協賛：サークルKサンクス、第一プロイラー株式会社、東芝三沢メディア機器株式会社、王子チヨダコンテナ株式会社、株式会社ポスターハリス・カンパニー

観覧料：

一般 1,000円(900円)、高大生 600円(500円)、小中生 300円(200円)

※()内は前売り券及び20名以上の団体料金

※アレコホール以外の常設展観覧料は含まない

入場者数

9,533人

関連企画

ジャグダあおもりデザインキャラバン#3

「寺山修司展をデザインする」

日時：2月2日(土) - 7日(木)

9:30 - 17:00(入館は16:30まで)

会場：コミュニティギャラリー(A-C)

主催：JAGDA青森支部、寺山修司展実行委員会

ワークショップ「寺山修司増殖計画」

日時：3月22日(土)、23日(日) 各：10:00 - 17:00

会場：ワークショップBおよび青森市新町商店街

講師：森崎偏陸(本展監修者)

森山大道講演会

日時：4月6日(日) 14:00 - 15:30

会場：シアター

講師：森山大道(写真家)

聞き手：笹目浩之(テラヤマ・ワールド)

寺山修司監督作品特集上映会+九條今日子×佐々木英明講演会

日時：4月19日(土) 10:00 - 17:00

実験映画特集

「檻囚」1962年 モノクロ11分

「トマトケチャップ皇帝完全版」1971年 モノクロ75分

「書見機」1977年 モノクロ22分

「二頭女—影の映画」1977年 セピアカラー15分

「青少年のための映画入門」1974年 モノクロ3分

※DVD上映となります

「抱瘡譚」1975年 カラー31分

「ローラ」1974年 カラー12分

「審判」1975年 カラー31分

「蝶服記」1974年 カラー12分

「迷宮譚」1975年 モノクロ調色15分

「一寸法師を記述する試み」1977年 カラー19分

「消しゴム」1977年 カラー20分

「マルドロールの歌」1977年 カラー27分

日時：4月20日(日)

劇映画+講演会

「書を捨てよ、町へ出よう」(人力飛行機舎 / ATG)

講演会

講師：九條今日子氏(寺山修司元夫人)、佐々木英明(詩人)

聞き手：笹目浩之(テラヤマ・ワールド)

「田園に死す」(人力飛行機舎 / ATG)

講演会「土方巽の舞踏 -東北から東北へ」

日時：5月5日(月・祝) 14:00 - 16:00

講師：森下隆(慶應義塾大学アートセンター 土方巽アーカイヴ)

ゲスト：雪雄子(舞踏家)

特別映画上映会「シアトリカル 唐十郎と劇団唐組の記録」

日時：5月11日(日) 10:00 -

会場：シアター

「シアトリカル」(2007年 / カラービデオ / 102分 監督：

大島新、出演：唐十郎他)

展示室内演劇「リアカーシアター」

日時：4月27日(日)、5月4日(日)、6日(月・祝)、11日(日)

各14:00 - 15:00

会場：企画展示室内

特別関連イベント「毛皮のマリー」

(演出・主演：川村毅 主催：ティーファクトリー)

日時：5月10日(土) 19:00 -

5月11日(日) 15:30 -

会場：シアター

カタログ

仕様：25.8×18.8×2.4cm、215 頁、オールカラー

監修：寺山編陸

編集：笹目浩之（テラヤマ・ワールド）、高橋賢

装丁・デザイン：東學、西村哲男、中村佳苗（一八八）

発行：株式会社パルコエンタテインメント事業局出版担当

編集：藤本真佐夫

ISBN978 - 4 - 89194 - 778 - 1

内容：

- ・ごあいさつ
- ・工藤健志「寺山修司の現代性」
- ・図版
 - 第 1 章：空には本 — 寺山修司の文学
 - 第 2 章：あゝ、荒野 — 昭和零年、新宿、あしたのジョー、そしてニューヨーク
 - 第 3 章：犬神家の人々 — 寺山修司幻想写真館
 - 第 4 章：世界の涯てへ連れてって — 演劇実験室・天井桟敷
 - 第 5 章：さらば映画よ — 青少年のための映画入門
 - 第 6 章：毛皮のマリー — 寺山修司と美輪明宏
 - 第 7 章：仮面画報 — 寺山修司とアーティストたち
 - 第 8 章：われに五月を — 百年たったら、その意味分かる
- ・菅野洋人「寺山修司の“書物演劇”」
- ・寺山偏陸「あなたにそばにいて欲しい」
- ・掲載作品リスト
- ・寺山修司著作リスト
- ・作家プロフィール
- ・寺山修司略年譜

併設展概要

企画：青森県立美術館、スパンアートギャラリー、慶応義塾大

学アートセンター

会場：コミュニティギャラリー



ポスター



展示風景

本展は、美術館の5つの企画展示室それぞれを寺山の小宇宙と見立て、展示室Aでは代表的な俳句、短歌、詩、アフォリズムや紹介するとともに、全著作、自筆原稿、愛用品等を展示した「空には本—寺山修司の文学」を、展示室Bでは寺山の活動した時代の空気を伝える森山大道の写真（『あゝ、荒野』所収のオリジナルプリント）や、鋤田正義撮影のニューヨーク・ラママでの貴重な写真（初公開）、寺山が愛した競馬、ボクシング等のスポーツに関連する資料を一室で紹介する「あゝ、荒野—昭和零年新宿、あしたのジョー、そしてニューヨーク」を、展示室Cでは荒木経惟からカメラの手ほどきを受けた寺山の撮影した、幻想写真を公開する「犬神家の人々—寺山修司幻想写真館」と、1967年から活動を開始した寺山主宰の「演劇実験室◎天井桟敷」に関連する資料を展示した「世界の涯てへ連れてって—演劇実験室◎天井桟敷」を、映像室では寺山映画作品の映像等を3台のプロジェクターにより上映した「さらば

映画よ—青少年のための映画入門」を、展示室Dでは、美輪明宏版「毛皮のマリー」の8×11mの巨大な舞台美術セットを設置し、照明、音楽を用い、演劇の雰囲気を再現するとともに、舞台上には衣裳の数々も展示した「毛皮のマリー—美輪明宏VS寺山修司」を、展示室E前通路では寺山は寺山の親交の深かった横尾忠則、宇野重喜良、林静一等の作品を展示する「仮面画報—寺山修司とアーティストたち」を、展示室Eでは山の没後に開催された様々なイベントのポスターや資料、没後出版の書籍をはじめ、寺山とゆかりのあった人々のインタビュー映像や、音楽家としての和田誠や湯浅譲二や武満徹といった音楽家とのコラボレーション資料を紹介するとともに、ラジオドラマ、映画サントラ等の視聴コーナーも設けた「われに五月を—百年たったら、その意味わかる」の各コーナーを設置。多岐にわたる寺山の活動が一望でき、その存在の意義が理解できる寺山修司展としては過去最大級の規模の展覧会となった。

出品作品

- 1 寺山修司関連資料（自筆原稿、書籍、愛用品）、作品（写真、絵葉書）
- 2 寺山関連作家の作品（横尾忠則、及川正通、金子國義、森山大道、立木義浩等）
- 3 寺山関連全ポスター、全レコード等
- 4 「現在進行形」資料（美輪明宏「毛皮のマリー」の舞台等）

以上、作品、資料あわせて約 1,000 点を展示

併設企画出品作品

アングラと新宿

- 1 渡辺克巳
寺山修司さん 区役所通り 1972 (昭和 47) 年 3 月 22 日
1972
ゼラチンシルバークラウド
遺族蔵
- 2 渡辺克巳
1973 年
1973
ゼラチンシルバークラウド
遺族蔵
- 3 渡辺克巳
ヌード・スタジオ嬢 1967 (昭和 42) 年
1967
ゼラチンシルバークラウド
遺族蔵
- 4 渡辺克巳
ゲイボーイ 1966 (昭和 41) 年
1966
ゼラチンシルバークラウド
遺族蔵
- 5 渡辺克巳
ヌード・スタジオ 1979 (昭和 54) 年
1979
ゼラチンシルバークラウド
遺族蔵
- 6 渡辺克巳
ディスコ「トラッシュ」 1980 (昭和 55) 年
1980
ゼラチンシルバークラウド
遺族蔵

- 13 松岡正剛
「the high school life」no.18
1968
MAC
個人蔵

土方と東北

- 14 細江英公
少女と土方巽 (『鎌鼬』より)
1965
ゼラチンシルバークラウド
NPO 法人舞踏創造資源蔵
- 15 細江英公
老婆と土方巽 (『鎌鼬』より)
戸板 (『四季のための二十七晩』のための舞台装置)
1965
ゼラチンシルバークラウド
NPO 法人舞踏創造資源蔵
- 16 細江英公
老婆と土方巽 (『鎌鼬』より)
ドラ (『四季のための二十七晩』のための舞台装置)
1965
ゼラチンシルバークラウド
NPO 法人舞踏創造資源蔵

- 17 細江英公
劇団人間座公演「骨鯨身峠死人葛」での土方巽
1970
ゼラチンシルバークラウド
NPO 法人舞踏創造資源蔵

- 18 細江英公
『鎌鼬』
1969
現代思潮社
慶應義塾大学アートセンター蔵
- 19 土方巽 (デザイン)・吉野章郎 (写真)
「四季のための二十七晩」ポスター
1972
オフセット・紙
慶應義塾大学アートセンター蔵

- 20 土方巽 (デザイン)・小野塚誠 (写真)
「四季のための二十七晩」ポスター
1972
オフセット・紙
慶應義塾大学アートセンター蔵

- 21 土方巽 (デザイン)・小野塚誠 (写真)
「四季のための二十七晩」ポスター
1972
オフセット・紙
慶應義塾大学アートセンター蔵

- 22 土方巽 (デザイン)
「四季のための二十七晩」ポスター
1972
オフセット・紙
慶應義塾大学アートセンター蔵

- 23 土方巽 (デザイン)・藤森秀郎 (写真)
「四季のための二十七晩」ちらし
1972
オフセット・紙
慶應義塾大学アートセンター蔵

- 24 土方巽 (デザイン)・藤森秀郎 (写真)
「四季のための二十七晩」ちらし
1972
オフセット・紙
慶應義塾大学アートセンター蔵

- 25 大内田圭弥撮影
「四季のための二十七晩」記録映像 (『瘡癩譚』より「ゴゼ」)
1972
慶應義塾大学アートセンター蔵

土方と美術家

- 26 細江英公
土方巽と大野一雄のデュエット (『バラ色ダンス』より)
1965
インクジェットプリント
NPO 法人舞踏創造資源蔵

- 27 細江英公
土方巽と大野一雄のデュエット (『バラ色ダンス』より)
1965
インクジェットプリント
NPO 法人舞踏創造資源蔵

- 28 細江英公
玉野黄市を振付ける土方巽
1975
ゼラチンシルバークラウド
NPO 法人舞踏創造資源蔵

- 29 中西夏之
ピクターの犬
1965 / 1990 年代
FRP・アクリル
NPO 法人舞踏創造資源蔵

30
中西夏之
理髪店電飾看板（通称：アメン棒）
1967
ミクストメディア
NPO 法人舞踏創造資源蔵

31
中西夏之
男子総カタログ'63
1963
ブループリントフィルム
慶應義塾大学アートセンター蔵

32
赤瀬川原平
易断面相図稿 肋膜判断
1965
墨・布
慶應義塾大学アートセンター蔵

33
池田満寿夫
「あんま」案内状
1963
エッチング・紙
慶應義塾大学アートセンター蔵

34
飯村隆彦撮影
土方巽暗黒舞踏—あんま
1963
慶應義塾大学アートセンター蔵

35
横尾忠則
「土方巽と日本人—肉体の叛乱」ポスター
1968
シルクスクリーン・紙
慶應義塾大学アートセンター蔵

36
横尾忠則
「土方巽燐儀大踏鑑（付）コレクション展示
即売」ポスター
1970
シルクスクリーン・紙
慶應義塾大学アートセンター蔵

37
中村宏撮影
「肉体の叛乱」記録映像
1968
慶應義塾大学アートセンター蔵

38
横尾忠則
「バラ色ダンス」ポスター
1965
シルクスクリーン・紙
慶應義塾大学アートセンター蔵

39
中西夏之
「バラ色ダンス」招待状
1965
オフセット、コラージュ・紙
慶應義塾大学アートセンター蔵

40
中西夏之
詩画集「土方巽舞踏展「あんま」」
1968
アスベスト館
慶應義塾大学アートセンター蔵

41
中西夏之
雑誌「新劇」
1977—78
白水社
慶應義塾大学アートセンター蔵

42
細江英公
写真集「鎌鼬」の芸術選奨文部大臣賞受賞
記念パーティー（前列左から澁澤龍彦、土
方巽、瀧口修造、細江英公、三好豊一郎、
後列左から加藤郁乎、横尾忠則、高橋睦郎、
田中一光、川仁宏、種村季弘）
1970
ゼラチンシルバークラウド
慶應義塾大学アートセンター蔵

43
細江英公
土方巽デスフット
1993
ブロンズ
スパンアートギャラリー蔵

44
細江英公
「アスベスト通信」1—10巻
1986—89
アスベスト館
スパンアートギャラリー蔵

唐十郎

45
合田佐和子・細江英公
「ベンガルの虎 白骨街道魔伝」ポスター
1973
オフセット・紙
劇団唐組蔵

46
横尾忠則
「ジョン・シルバー 新宿恋しや夜鳴篇」ポ
スター
1967
シルクスクリーン・紙
劇団唐組蔵

47
唐十郎
「動物園が消える日」戯曲ノート
1993
劇団唐組蔵

48
唐十郎
「眠り草」戯曲ノート
1998
劇団唐組蔵

49
唐十郎
雑誌「月下の一群」創刊号
1976
海潮社
個人蔵

50
唐十郎
雑誌「月下の一群」2号
1976
海潮社
個人蔵

51
横尾忠則
「唐十郎 河原男爵 愛のリサイタル」ポ
スター
1970
オフセット・紙
個人蔵

52
成田秀彦
状況劇場「吸血姫」
1971
ゼラチンシルバークラウド
作家蔵

53
清水博純
模造柘榴
1996
ハイクオリティデジタルプリント
作家蔵

54
清水博純
糸女郎
2002
ハイクオリティデジタルプリント
作家蔵

55
渡邊晃一
唐十郎の手
2002
石膏
作家蔵

56
赤瀬川原平
「少女都市」ポスター
1969
オフセット・紙
スパンアートギャラリー蔵

57
篠原勝之
「海の牙 黒髪海峡篇」ポスター
1973
オフセット・紙
スパンアートギャラリー蔵

58
篠原勝之
「唐十郎版 風の又三郎」ポスター
1974
オフセット・紙
スパンアートギャラリー蔵

59
篠原勝之
「糸姫」ポスター
1975
オフセット・紙
スパンアートギャラリー蔵

60
篠原勝之
「下町ホフマン」ポスター
1976
オフセット・紙
スパンアートギャラリー蔵

61
篠原勝之
「ユニコン物語台東区篇」ポスター
1978
オフセット・紙
スパンアートギャラリー蔵

62
金子國義
「少女仮面 / あれからのジョンシルバー」
ポスター
1971
オフセット・紙
スパンアートギャラリー蔵

63
中村宏
「ドラキュラ」ポスター
1973
オフセット・紙
スパンアートギャラリー蔵

64
唐十郎
雑誌「ドラキュラ」
1973
新樹書房
スパンアートギャラリー蔵

65
唐十郎
『唐十郎全作品集』1—6（全10巻）
1980—
冬樹社
スパンアートギャラリー蔵

澁澤龍彦

66
澁澤龍彦
草稿「人形愛序説」②（R.ベルヌーリ「鍊
金術」、種村季弘「薔薇十字の魔法」）
1972
遺族蔵

67
澁澤龍彦
未発表草稿「北方への誘惑」
1975
遺族蔵

68 澁澤龍彦 未発表草稿「リリズムの縦師」 1978 遺族蔵	78 中西夏之 コンパクト・オブジェ（澁澤龍彦コレクション） 1968 ポリエステル樹脂、壊れたオブジェ他 遺族蔵	88 土井典 頭蓋骨 個人蔵	97 石内都 種村季弘の手 2001 ゼラチンシルバープリント スパンアートギャラリー蔵
69 澁澤龍彦 未発表草稿「危機に立つ肉体」（土方巽とその周辺展） 1981 遺族蔵	79 澁澤龍彦 『血と薔薇』1－3号 1968－69 天声出版 スパンアートギャラリー蔵	89 細江英公 土方巽と パー・ギボンにて 1965 / 1994 ゼラチンシルバープリント 作家蔵	98 種村季弘 『晴浴雨浴日記』 1989 私家本 スパンアートギャラリー蔵
70 澁澤龍彦 未発表草稿（種村季弘「山師カリオストロの大冒険」） 1978 遺族蔵	80 澁澤龍彦 『澁澤龍彦全集』1－22巻＋別巻2巻 1993－95 河出書房新社 スパンアートギャラリー蔵	90 細江英公 土方巽の葬儀 澁澤龍彦が葬儀委員長を勤める 1986 / 2007 ゼラチンシルバープリント 作家蔵	99 種村季弘、稲垣足穂、野中ユリ 『コリントン卿登場』 1974 美術出版社 スパンアートギャラリー蔵
71 澁澤龍彦 草稿「城と牢獄」①（種村季弘「ザッヘル・マゾッホの世界」） 1978 遺族蔵	81 澁澤龍彦 『澁澤龍彦翻訳全集』1－15巻＋別巻1巻 1996－98 河出書房新社 スパンアートギャラリー蔵	91 細江英公 由比ガ浜で矢川澄子とコイコイをする澁澤龍彦（「知人の肖像」より） 1965 ゼラチンシルバープリント 作家蔵	100 加藤郁乎 種村季弘宛書簡 1977 スパンアートギャラリー蔵
72 澁澤龍彦 草稿「城と牢獄」①（種村季弘「詐欺師の楽園」） 1979 遺族蔵	82 金子国義 O嬢の物語 1966 鉛筆・紙 個人蔵	種村季弘	101 加藤郁乎 種村季弘宛書簡 1978 スパンアートギャラリー蔵
73 澁澤龍彦 草稿「貝殻と頭蓋骨」（『ビブリオテカ』IV所収） 1974 遺族蔵	83 澁澤龍彦 『O嬢の物語』 1966 河出書房新社 個人蔵	92 種村季弘 『種村季弘のネオ・ラビリントス』1－8巻 1998－99 河出書房新社 スパンアートギャラリー蔵	102 加藤郁乎 種村季弘宛書簡 1979 スパンアートギャラリー蔵
74 澁澤龍彦 原稿「華やかな食物誌」（土方巽について） 1983 遺族蔵	84 土井典 ベルメール人形 FRP 個人蔵	93 赤瀬川原平 『絵次元』（『新型千円札』） 1971 大門出版 スパンアートギャラリー蔵	103 中井英夫 種村季弘宛書簡 1967 スパンアートギャラリー蔵
75 澁澤龍彦 デッサン 1972 鉛筆、紙 遺族蔵	85 土井典 ベルメール人形と澁澤龍彦 1961 ゼラチンシルバープリント 作家蔵	94 清水晃 『絵次元』（「虹翅類」） 1971 大門出版 スパンアートギャラリー蔵	104 中井英夫 種村季弘宛書簡 1968 スパンアートギャラリー蔵
76 澁澤龍彦 デッサン 1972 鉛筆、紙 遺族蔵	86 四谷シモン ルネ・マグリットの男 1970 ウレタン樹脂、布 個人蔵	95 谷川晃一 『絵次元』（「焰盛なる時産める児」） 1971 大門出版 スパンアートギャラリー蔵	105 中井英夫 種村季弘宛書簡 1972 スパンアートギャラリー蔵
77 野中ユリ デカルコマニー「a Tasso S.」（澁澤龍彦コレクション） 1966 水彩・紙 遺族蔵	87 土井典 夜会 1999 FRP、ガラス玉、鎖等 作家蔵	96 野中ユリ 『絵次元』（「彷徨引力」） 1971 大門出版 スパンアートギャラリー蔵	106 中井英夫 種村季弘宛書簡 1970 スパンアートギャラリー蔵
			107 中井英夫 種村季弘宛書簡 1972 スパンアートギャラリー蔵

108 中井英夫 種村季弘宛書簡 1976 スパンアートギャラリー蔵	119 瀧口修造 種村季弘宛書簡 1969 スパンアートギャラリー蔵	130 土方巽 種村季弘宛書簡 1985 スパンアートギャラリー蔵	141 稲垣足穂 種村季弘宛書簡 1973 スパンアートギャラリー蔵
109 中井英夫 種村季弘宛書簡 1977 スパンアートギャラリー蔵	120 瀧口修造 種村季弘宛書簡 1977 スパンアートギャラリー蔵	131 澁澤龍彦 種村季弘宛書簡 1966 スパンアートギャラリー蔵	142 稲垣足穂 種村季弘宛書簡 1977 スパンアートギャラリー蔵
110 中井英夫 種村季弘宛書簡 1979 スパンアートギャラリー蔵	121 赤瀬川原平 種村季弘宛書簡 1972 スパンアートギャラリー蔵	132 澁澤龍彦 種村季弘宛書簡 1970 スパンアートギャラリー蔵	143 種村季弘 草稿「留学生今と昔」(久生十蘭『新西遊記』) 執筆年不詳 スパンアートギャラリー蔵
111 中井英夫 種村季弘宛書簡 1985 スパンアートギャラリー蔵	122 赤瀬川原平 種村季弘宛書簡 1992 スパンアートギャラリー蔵	133 澁澤龍彦 種村季弘宛書簡 1971 スパンアートギャラリー蔵	144 種村季弘 タイトル不詳 執筆年不詳 スパンアートギャラリー蔵
112 中井英夫 種村季弘宛書簡 1993 スパンアートギャラリー蔵	123 秋山祐徳太子 種村季弘宛書簡 1976 スパンアートギャラリー蔵	134 澁澤龍彦 種村季弘宛書簡 1981 スパンアートギャラリー蔵	145 井上洋介 地下鉄電車(種村コレクション) 1983 油彩・コンテ・紙 スパンアートギャラリー蔵
113 塚本邦雄 種村季弘宛書簡 1972 スパンアートギャラリー蔵	124 秋山祐徳太子 種村季弘宛書簡 1985 スパンアートギャラリー蔵	135 澁澤龍彦 種村季弘宛書簡 1983 スパンアートギャラリー蔵	146 野中ユリ デカルコマニー(種村コレクション) 1966 水彩・紙 スパンアートギャラリー蔵
114 塚本邦雄 種村季弘宛書簡 1969 スパンアートギャラリー蔵	125 秋山祐徳太子 種村季弘宛書簡 1992 スパンアートギャラリー蔵	136 澁澤龍彦 種村季弘宛書簡 1984 スパンアートギャラリー蔵	147 谷川晃一 満月のグリフィン(種村コレクション) 1972 色鉛筆・紙 スパンアートギャラリー蔵
115 塚本邦雄 種村季弘宛書簡 1971 スパンアートギャラリー蔵	126 中西夏之 種村季弘宛書簡 1979 スパンアートギャラリー蔵	137 稲垣足穂 種村季弘宛書簡 1980 スパンアートギャラリー蔵 稲垣足穂	148 ハンス・ベルメール ドリアーヌ(種村コレクション) 1969 エッチング、ビュラン・紙 スパンアートギャラリー蔵
116 塚本邦雄 種村季弘宛書簡 1974 スパンアートギャラリー蔵	127 中西夏之 種村季弘宛書簡 1984 スパンアートギャラリー蔵	138 種村季弘宛書簡 1970 スパンアートギャラリー蔵	149 種村季弘 『土方巽全集』2巻 1998 河出書房新社 スパンアートギャラリー蔵
117 瀧口修造 種村季弘宛書簡 1971 スパンアートギャラリー蔵	128 中西夏之 種村季弘宛書簡 1981 スパンアートギャラリー蔵	139 稲垣足穂 種村季弘宛書簡 1971 スパンアートギャラリー蔵	150 種村季弘 『澁澤さん家で午後五時にお茶を』 1994 河出書房新社 スパンアートギャラリー蔵
118 瀧口修造 種村季弘宛書簡 1987 スパンアートギャラリー蔵	129 中西夏之 種村季弘宛書簡 1985 スパンアートギャラリー蔵	140 稲垣足穂 種村季弘宛書簡 1972 スパンアートギャラリー蔵	

151
種村季弘
『土方巽の方へ 肉体の60年代』
2001
河出書房新社
スパンアートギャラリー蔵

152
渡邊晃一
種村季弘の手
1998
石膏
作家蔵

掲載記事

デーリー東北

1月8日(火)
「寺山修司の作品関連資料一堂に 青森県立美術館 4月から企画展」

3月23日(日)
「寺山修司“大行進” 県立美術館、イベントPR」

3月26日(水)
「寺山修司劇場美術館開催 多岐にわたる活動の全容紹介」

3月27日(木)
「見せませ鬼才のすべて 来月1日から寺山修司劇場美術館」

4月1日(火)
「寺山ワールド存分に体感して 青森県立美術館できょうから展覧会」

4月19日(土)
ティータイム

6月19日(木)
「寺山修司展の図録刊行」

河北新報

2月10日(日)
「青森県立美術館 寺山修司展のポスター決定」

3月23日(日)
「寺山修司 街に増殖」

4月1日(火)
「寺山ワールド迷宮探訪 青森県立美術館きょう開幕」

4月3日(木)
工藤健志「前衛芸術運動 総体的に探る」

4月15日(火)
フォトあおもり「五感揺さぶる天才の軌跡」

東奥日報

1月31日(木)
「寺山修司のポスターコンペ」

2月9日(土)
「寺山展のポスターの原案 チバさん(青森)に決定」

4月1日(火)
「寺山修司きょう開幕 鬼才の演劇世界広がる」

4月19日(土)
「県内中心街に寺山出沒中 県立美術館が企画展PR」

毎日新聞

3月24日(月) 青森版
矢澤秀範 雑記帳

4月3日(木)
「寺山修司 活動の全容紹介 映像やポスターなど最大規模1000点展示」

陸奥新報

4月1日(火)
「寺山ワールド楽しんで 県立美術館 多彩な仕掛けで魅了」

4月2日(水)
「県美で企画展スタート 魅惑の寺山ワールド」

4月24日(木)
「県美の寺山展ぜひ見に来て 弘前で館員らPR」

聖教新聞

4月8日(火)
工藤健志「寺山修司劇場美術館展 感じ取りたい混沌を生き抜く智慧」(文化)

岩手日報

4月9日(水) 夕刊
「寺山修司没後25年 多彩な活動の軌跡」

4月19日(土) 夕刊
菅原和彦「寺山は今も問いかける」(展望台)

日本経済新聞

4月12日(土)
白木緑「寺山修司没後25年 輝き増す多彩な活動」(文化)

大ナポレオン展－文化の光彩と精神の遺産－

開催概要

会期：2009年7月30日（水）－9月7日（日）

開催日数：40日間

主催：大ナポレオン展実行委員会

（青森県立美術館、東奥日報社、青森テレビ）

後援：青森県教育委員会、青森県日仏協会

協賛：みちのく銀行、弘前航空電子株式会社

企画：東京富士美術館

協力：日本航空、ヤマトロジスティクス

観覧料：

一般 1,000円（900円）、高大生 700円（600円）、小中生 300円（200円）

※（ ）内は前売り券及び20名以上の団体料金

※ アレコホール以外の常設展観覧料は含まない

入場者数

46,609人

関連企画

コンサート

「ナポレオンを讃えて－ロココから古典への華麗なる調べ－」

日時：8月9日（土）14：00－15：00

場所：青森県立美術館 コミュニティーホール

出演：竹澤聡子（フルート）秋田谷宣之（ファゴット）

竹内奈緒美（ピアノ）

ゲスト出演：虎谷亜希子（ソプラノ）

アート入門

「西洋美術史入門」4 大ナポレオン展関連特別講座

「ジャック＝ルイ・ダヴィッド－美術界のナポレオン？」

講師：阿部成樹（山形大学准教授）

日時：8月10日（日）13：30－15：00

場所：青森県立美術館 シアター

ギャラリー・トーク

日時：毎週土日 10：00－、14：00－

場所：展示室内

音声ガイド

解説件数 28件

こども美術館デイ 2008

7月22日（火）－8月3日（日）小中学生の観覧無料

記念撮影コーナー

1階エントランス外にナポレオンの顔出し看板設置

カタログ

「大ナポレオン展－文化の光彩と精神の遺産－」

編集・発行：東京富士美術館

仕様：21×21cm、125頁

※ 巡回展共通

主な展示構成

- 1 絵画・彫刻（ナポレオン、ゆかりの人物らの肖像等）
- 2 工芸品（ナポレオンが復興させた工芸産業：家具、陶磁器、ジュエリー等）
- 3 エジプト遠征関連資料（「エジプト誌」、遠征用ベッド、ラクダ用の鞍等）
- 4 失脚・死去から復活までの資料（セント・ヘレナ島関係資料、死後19年目のパリ凱旋関係資料等）
- 5 ナポレオン関連資料（直筆書類、書籍、愛用品等）



ポスター



展示風景

本展は、軍事の天才、野心的な政治家のイメージが強いナポレオンの文化面での功績に焦点を当て、東京富士美術館の所蔵品や海外のコレクターから借用した作品・資料等による大型展として、首都圏をはじめ国内各地を巡回している。

青森県立美術館では、海外の芸術文化を紹介する展覧会として、また、夏休み期間に大人も子供も楽しむことのできる展覧会として、芸術作品を鑑賞しながら歴史上の英雄の波乱に満ちた生涯を辿ることのできる展示を行った。

ナポレオンは、エジプト遠征に多くの学者を同行し、徹底した学術調査を行って現在のエジプト学の基礎を築いた。また、ヨーロッパ各地の遠征により運び込まれた美術品を収めたルーヴル宮殿を美術館として整備するなどして文化行政にも力を注ぎ、19世紀初頭のフランス文化、芸術の発展に大きな役割を果たしている。

展覧会には、ナポレオンの生涯を辿る数多くの肖像—繊細さ

と野心の双方を併せ持つ青年像から、颯爽と馬にまたがる凛々しい軍人、壮麗な衣装を身にまとった皇帝、やがて栄光に陰りが見えはじめるなかで一人物思いに沈む姿、最後の眠りに就いた際に型取りされたデスマスク、そして人々の思いに答えるように墓所から蘇り、悠然と歩み出す理想の英雄像まで—をはじめ、ナポレオンが復興し、フランスを代表する産業として現在まで続いているセーブル焼きの陶磁器などの工芸品やジュエリー、さらにナポレオン愛用の帽子まで多彩な資料が出品された。

夏休み期間中であつたこともあり、子供美術館ディの開催と合わせて、家族連れを中心に美術館主催の企画展としては開館以降2番目に多い入場者を記録した。関連企画にも多くの参加者があり、展示内容についてもアンケート等で高い満足度を得ることができた。

出品作品

絵画

- 1
聖霊騎士団長の衣装のルイ 16 世の肖像
アントワヌ＝フランソワ・カレ
1786 年
油彩、カンヴァス
146.0×100.0
個人蔵
- 2
フランス王妃マリー＝アントワネットの肖像
エリザベート＝ルイズ・ヴィジェ＝ルブラン
18 世紀
油彩、カンヴァス
92.7×73.7
東京富士美術館
- 3
第一執政ボナパルト
アントワヌ＝ジャン・グロ
1800 - 04 年頃
油彩、カンヴァス
231.0×158.0
東京富士美術館
- 4
エジプト遠征中のナポレオン
ロバート・アレキサンダー・ヒリングフォード
19 世紀
油彩、カンヴァス
49.5×75.0
個人蔵
- 5
タボル山の戦い
ジャック＝フランソワ・スヴェバック
1812 年
油彩、カンヴァス
115.0×200.5
東京富士美術館
- 6
エジプト誌
1822 年
エッチング
個人蔵
- 7
サン＝ベルナル峠を越えるボナパルト
ジャック＝ルイ・ダヴィッドによる
1805 年
油彩、カンヴァス
73.5×59.0
東京富士美術館

- 8
皇帝ナポレオン 1 世と皇后ジョゼフィーヌの戴冠式
ジャック＝ノエル＝マリー・フレミー（ジャック＝ルイ・ダヴィッドの作品による）
19 世紀
油彩、カンヴァス
25.0×35.0
東京富士美術館
- 9
戴冠式の皇帝ナポレオン
ジャック＝ルイ・ダヴィッドの工房
1808 年
油彩、カンヴァス
69.8×50.8
東京富士美術館
- 10
戴冠衣装の皇帝ナポレオン
アンヌ＝ルイ・ジロデ＝トリオゾンと工房
19 世紀初頭
油彩、カンヴァス
86.4×70.5
東京富士美術館
- 11
皇帝ナポレオンの肖像
フランソワ・ジェラルルの工房
19 世紀
油彩、カンヴァス
80.5×65.0
東京富士美術館
- 12
ジョゼフ・ボナパルトの肖像
ロベール・ルフエーヴル
1811 年頃
油彩、カンヴァス
210.0×145.0
東京富士美術館
- 13
ミュラ元帥の肖像（「イエナの戦い」部分）
オラース・ヴェルネ
19 世紀前半
油彩、カンヴァス
116.8×90.2
個人蔵
- 14
ネイ元帥の肖像
フランソワ＝ジョゼフ・キンソンに帰属
19 世紀前半
油彩、カンヴァス
72.5×58.0
個人蔵
- 15
ナント侯アントワヌ・フランセ伯爵の肖像
ジャック＝ルイ・ダヴィッドの工房
1811 年頃
油彩、カンヴァス
116.0×76.5
東京富士美術館

- 16
貴婦人の肖像
フランソワ＝アンリ・ミュラール
1810 年頃
油彩、カンヴァス
112.5×70.3
東京富士美術館
- 17
皇帝ナポレオン
ロベール・ルフエーヴル
19 世紀前半
油彩、カンヴァス
65.0×54.5
東京富士美術館
- 18
月光と蠟燭の灯火で手紙を読む皇帝ナポレオン
ピエトロ・ベンヴェヌーティ
1810 年
油彩、カンヴァス
120.0×96.3
東京富士美術館
- 19
フォンテーヌブローでのナポレオン
ポール・ドラローシュと工房
19 世紀前半
油彩、カンヴァス
68.0×52.1
個人蔵
- 20
ルーヴル宮殿でアテナ像の前に立つナポレオン
アンドレア・アッピアーニ
1814 年頃
油彩、カンヴァス
211.5×131.0
東京富士美術館
- 21
甕の皇帝ナポレオン
オラース・ヴェルネ
1840 年
油彩、カンヴァス
64.1×54.0
個人蔵
- 22
ローマ王の肖像
コンスタンズ・メイエル
19 世紀初頭
油彩、カンヴァス
48.0×38.0
個人蔵
- 23
母レティツィア
作者不詳
制作年不詳
リトグラフ
44.3×30.4
東京富士美術館

- 24
「戴冠式の記録」より テュイルリー宮殿を出発する皇帝と皇后
フランソワ・デクボビリエ（イザベイトフォンテーヌの作品による）
19 世紀彫版、1987 年あと摺り
エッチング、ビュラン
45.0×51.1
東京富士美術館
- 25
「戴冠式の記録」より ノートル＝ダム寺院への皇室馬車の到着
ジャン＝バティスト・デュブレル（イザベイトフォンテーヌの作品による）
19 世紀彫版、1987 年あと摺り
エッチング、ビュラン
45.0×51.1
東京富士美術館
- 26
「戴冠式の記録」より 盛装の皇帝ナポレオン
ピエール＝アレクサンドル・タルデュール、ジョルジュ・マルベストとジャン＝バティスト・デュブレル（イザベイトヘルシエの作品による）
19 世紀彫版、1987 年あと摺り
エッチング、ビュラン、着色
45.0×24.0
東京富士美術館
- 27
「戴冠式の記録」より 盛装の皇后ジョゼフィーヌ
ピエール・オドワン（イザベイトヘルシエの作品による）
19 世紀彫版、1987 年あと摺り
エッチング、ビュラン、着色
45.0×24.0
東京富士美術館
- 28
「戴冠式の記録」より 教皇ピウス 7 世
ルイ＝ジャック・プティ（イザベイトヘルシエの作品による）
19 世紀彫版、1987 年あと摺り
エッチング、ビュラン、着色
45.0×24.0
東京富士美術館
- 29
「戴冠式の記録」より 皇女
レミー・デルボー
19 世紀彫版、1987 年あと摺り
エッチング、ビュラン、着色
45.0×24.0
東京富士美術館
- 30
「戴冠式の記録」より 贈り物をもつ宮廷婦人
ルイ・ボーケ、ジャン・バティスト・デュブレル
19 世紀彫版、1987 年あと摺り
エッチング、ビュラン、着色
45.0×24.0
東京富士美術館

31 「戴冠式の記録」より 軽騎兵大将 ルイ・ボーケ 19世紀彫版、1987年あと摺り エッチング、ビュラン、着色 45.0×24.0 東京富士美術館	39 セント＝ヘレナ島で描かれた版画集より ナポレオンが逝去した部屋 H. ウォード 1851年 リトグラフ、着色 46.8×36.0 東京富士美術館	彫刻 47 若きナポレオン像 ルイ・ロシェの作品にもとづく 制作年不詳 ブロンズ 23.5×23.5×76.8 東京富士美術館	55 ネイ元帥 ジュゼッペ・ドメーニコ・グランディ 19世紀 ブロンズ 12.0×15.0×30.0 東京富士美術館
32 「戴冠式の記録」より 胸甲騎兵大将 ルイ・ボーケ 19世紀彫版、1987年あと摺り エッチング、ビュラン、着色 45.0×24.0 東京富士美術館	40 セント＝ヘレナ島で描かれた版画集より ナポレオンの墓所 H. ウォード 1851年 リトグラフ、着色 46.8×36.0 東京富士美術館	48 右手に本をもって座るレティツィア グロの絵画にもとづく 19世紀 大理石 43.0×26.0×64.0 個人蔵	56 ナポレオンのデスマスク リシャール、ケネルによる鑄造 1833年 ブロンズ 31.0×16.0 東京富士美術館
33 「戴冠式の記録」より 獵騎兵大将 ルイ・ボーケ 19世紀彫版、1987年あと摺り エッチング、ビュラン、着色 45.0×24.0 東京富士美術館	41 セント＝ヘレナでのナポレオンの死 ステューベンの作品による 19世紀 リトグラフ 個人蔵	49 青年ボナパルトの胸像 シャルル＝ルイ・コルベ 1798年 石膏・着色 32.5×40.5×57.0 東京富士美術館	特別出品 ペーターヴェン アルベール＝エルネスト・カリエ＝ペルーズ 19世紀 テラコッタ 東京富士美術館
34 「戴冠式の記録」より 主席紋章官 マッサール・ウルバン（イザベイトヘルシエの作品による） 19世紀彫版、1987年あと摺り エッチング、ビュラン、着色 45.0×24.0 東京富士美術館	42 ナポレオンの二回目の葬儀についての版画集より 19年ぶりに開けられた棺 作者不詳 19世紀 リトグラフ・着色 44.5×36.0 東京富士美術館	50 第一執政ボナパルトの胸像 ルイ＝シモン・ボワゾ 19世紀初頭 大理石 23.7×37.7×60.5 個人蔵	工芸 57 「エジプトからの帰還」と呼ばれる粧いを凝らした寝台 ジャコブ兄弟 1796－1803年 マホガニー、絹 97.0×192.0×176.0 個人蔵
35 戴冠式の記録より 竜騎兵大将 フランソワ・ビジョー 19世紀彫版、1987年あと摺り エッチング、ビュラン、着色 45.0×24.0 東京富士美術館	43 ナポレオンの二回目の葬儀についての版画集より パリ上陸 作者不詳 19世紀 リトグラフ・着色 44.5×36.0 東京富士美術館	51 将軍ボナパルトの騎馬像 アントワーヌ＝ルイ・パリー 1847年 ブロンズ 12.5×25.5×36.0 個人蔵	58 古代風の椅子 シャルル・ベルシエのデザインにもとづく 19世紀前半 木材に金メッキ、布 66.0×41.0×72.0 個人蔵
36 ナポレオン軍の軍服—水彩画集より— A. トレー 19世紀 水彩、紙 30.5×20.1 東京富士美術館	44 ナポレオンの二回目の葬儀についての版画集より パリ入城 作者不詳 19世紀 リトグラフ・着色 44.5×36.0 東京富士美術館	52 ナポレオン騎馬像 ジャン＝ルイ＝エルネスト・メッソニエ 19世紀中頃 ブロンズ 16.5×37.5×39.0 個人蔵	59 肘掛け椅子 ピエール＝ブノワ・マルシオンに帰属 19世紀初頭 マホガニー、ブロンズに金メッキ、布 45.5×67.5×92.0 個人蔵
37 セント＝ヘレナ島で描かれた版画集より セント＝ヘレナ島 H. ウォード 1851年 リトグラフ、着色 46.8×36.0 東京富士美術館	45 ナポレオンの二回目の葬儀についての版画集より アンヴァリッド（廃兵院）に到着 作者不詳 19世紀 リトグラフ・着色 44.5×36.0 東京富士美術館	53 皇帝ナポレオンの胸像 アントニオ・カノーヴァの工房 19世紀 ブロンズ 20.5×20.0×39.0 個人蔵	60 折りたたみ式の遠征用ベッド デズッシュ 1813年 真鍮 198.0×190.0×90.0 個人蔵
38 セント＝ヘレナ島で描かれた版画集より ナポレオンが暮らしたロングウッドの館 H. ウォード 1851年 リトグラフ、着色 46.8×36.0 東京富士美術館	46 ナポレオンの二回目の葬儀についての版画集より アンヴァリッド内の遺体安置所 作者不詳 19世紀 リトグラフ・着色 44.5×36.0 東京富士美術館	54 ナポレオンの胸像 ジャン＝アントワーヌ・ウードンの作品による 19世紀 テラコッタ 46.0×27.0×67.0 東京富士美術館	61 マルメゾン宮殿で使用されていた筆記台 1810年頃 マホガニー、モロッコ革、ブロンズに金メッキ 114.2×64.2×43.5 東京富士美術館

62	セント＝ヘレナ島でナポレオンが使用したと伝えられるインクスタンド 1815－21年頃 木製 24.1×36.2×8.0 東京富士美術館	71	ウーディノ元帥所有の置き時計「ホラティウス兄弟の誓い」 クロード・ガレ、リュシアン＝フランソワ・フシェール 1815年頃 ブロンズに金メッキ、大理石 19.0×57.5×62.0 東京富士美術館	80	胸騎兵部隊の銅鐘 19世紀 はがね、真鍮 30.0×36.0×40.0 東京富士美術館	89	内務大臣に宛てた皇后ジョゼフィーヌの署名入り直筆書簡 1811年4月23日 紙、インク 23.4×18.8 東京富士美術館
63	セント＝ヘレナ島でナポレオンが使用したと伝えられる肘掛け椅子 イギリス製 1818－21年頃 マホガニー、籐 58.0×63.5×44.0 個人蔵	72	皇后ジョゼフィーヌゆかりの振り子時計「眠れぬ夜」 ピエール＝フィリップ・トミール 1809年 ブロンズに金メッキ、大理石 41.0×35.0×22.0 個人蔵	81	皇帝ナポレオンの帽子 ブパール 1814年頃 ビーバーの毛皮 23.0×47.0×23.6 個人蔵	90	ワチエール將軍と女官の結婚契約書【ナポレオン、ジョゼフィーヌ、マリー＝ルイーゼの3人の連署名入り文書】 1812年1月20日/21日 インク、紙、モロッコ筆装丁 34.0×25.0×1.5 東京富士美術館
64	燭台形センターピース ピエール＝フィリップ・トミール 19世紀 ブロンズに金メッキ 68.0×45.0 東京富士美術館	73	ナポレオンのベッドを飾った孔雀の装飾 1805年頃 木に金メッキ 41.0×50.0 個人蔵	82	銀製ティーポットと砂糖入れ マルク・オーギュスタン・ルブラン 1819－1838年 銀に金メッキ 個人蔵	91	ナポレオンの直筆回想録 1819－21年、セント＝ヘレナ島 インク、紙 32.3×20.5 東京富士美術館
65	ナポレオンが妹ポーリーヌに贈ったティーポット シャルル＝ニコラ・オディオ 19世紀初頭 銀に金メッキ 16.5×26.0×16.0 個人蔵	74	第一帝政期の第81歩兵隊の鷲の旗飾り 1804年 ブロンズに金メッキ 70.0×23.0×46.0 個人蔵	83	ティーサービスセット デロッシュの工房 19世紀前半 磁器 個人蔵	92	ナポレオン法典（英訳版） 1811年、ロンドン 紙、装丁本 22.8×14.5×3.3 東京富士美術館
66	帝国様式のセンターピース 19世紀 ブロンズに金メッキ、鏡 62.0×168.5×21.0 個人蔵	75	鷲の装飾 19世紀初頭 木に金メッキ 36.0×58.0×28.8 個人蔵	84	若きウェルテルの悩み（ナポレオン蔵書） ゲーテ著 19世紀初頭 装丁本 20.6×13.4×3.2 東京富士美術館	ジュエリー	
67	皇帝ナポレオンのティーセット アンリ・オーギュスト 19世紀初頭 銀に金メッキ 個人蔵	76	レジオン・ド・ヌール勲章 1804－06年 銀に金メッキ、七宝、絹 4.6（径） 東京富士美術館	85	ネイ元帥が所有していた地図 1812年 紙、革 個人蔵	93	ジョージ4世のインタリオ・ペンダント イギリス製 1820年頃 金、カーネリアン製インタリオ 東京富士美術館
68	旅行用のサービスセット 19世紀初頭 銀に金メッキ、ガラス、革 93.0×63.0×43.0 個人蔵	77	ナポレオン軍の将校が所有していたラクダ用の鞍 1798年頃 木製、鉄、ブロンズ 132.0×43.0×36.0 個人蔵	86	セント＝ヘレナ島におけるナポレオン最期の記録 19世紀 30.0×24.0×2.7 創価大学	94	ウェリントン公爵のインタリオ・ペンダント イギリス製 1820年頃 金、カーネリアン製インタリオ 東京富士美術館
69	「エジプトからの帰還」と呼ばれる食器セットとセンターピース セーヴル窯 19世紀のオリジナルより再現 磁器 個人蔵	78	帝国近衛連隊騎兵用の吊り鞆 18世紀末－19世紀初頭 牛革、ウールの刺繍、ブロンズ 36×29 東京富士美術館	87	イタリア方面軍総司令官当時のナポレオンの直筆書簡 1797年5月30日 インク、紙 35.7×23.1 東京富士美術館	95	ロシア皇室のハット・ピン 1769年 銀、ダイヤモンド、サファイア 東京富士美術館
70	振り子時計「オデュッセイア」 1795－99年頃 ブロンズに金メッキ、鉄、大理石 50×25.5×14.5 個人蔵	79	鷲の紋章のあるタペストリー オービュッソン製 1805年頃 布 53.0×59.5 個人蔵	88	イタリアの信教の自由を支持するナポレオンの直筆書簡 1797年 インク、紙 47.0×38.5 創価大学	96	ナポレオンのインタリオ・ブローチ グラフィス&ウエイゴール 1825年頃 カーネリアン製インタリオ、ルビー、エメラルド、サファイア、ラピス・ラズリ、アメシスト 東京富士美術館

98

ケレスのティアラ

1820年頃

金、銀、ダイヤモンド

個人蔵

協力：アルビオンアートジュエリーインス

ティテュート

99

オンディーヌのティアラ

ロバート・フィリップス、イギリス製

1860年頃

金、珊瑚

個人蔵

協力：アルビオンアートジュエリーインス

ティテュート

100

ローマ皇帝のカメオ付スナッフボックス

1795年頃

金、カルセドニー、アマゾナイト

W9.5×D4.5×H1.9

アルビオンアート・コレクション

101

ゴールドとトパーズのデミ・バリュール

イギリス製（推定）

1825年頃

金、トパーズ

アルビオンアート・コレクション

102

ゴールドとパールのスイート

イギリス製

1810年頃

金、パール

個人蔵

協力：アルビオンアートジュエリーインス

ティテュート

小島一郎展

開催概要

会期：2009年1月10日（土）－3月8日（日）

開催日数：55日間

主催：小島一郎展実行委員会（青森県立美術館、日本放送協会青森放送局）

後援：青森市、青森県写真連盟、北陽会

助成：財団法人ポーラ美術振興財団、財団法人野村国際文化財団

協賛：青森銀行、フォト・ギャラリー・インターナショナル、株式会社堀内カラー

協力：東奥日報社、青森市教育委員会

観覧料：

一般 1,200円（1,000円）、高大生 600円（450円）、小中生 250円（150円）

※（ ）内は前売・団体料金

※ 心身に障がいがある方と付添者1名は無料

※ 小・中・特別支援学校の児童生徒及び引率者が、学校教育活動として観覧する場合は、常設展に準じて無料

※ 常設展の観覧料を含む

特別顧問：小島弘子、鎌田清衛

入場者数

8,660人

関連企画

特別展示 「小島一郎の北海道」

ICANOF（イカノフ） 豊島重之 企画・監修

会期：展覧会会期に同じ

場所：青森県立美術館企画展示室E

オープニングイベント

シンポジウム「小島一郎と北の写真」

日時：2009年1月10日（土）13:00－14:00

場所：青森県立美術館シアター *入場無料

パネラー：露口啓二（写真家・札幌市在住）、豊島重之（ICANOFキュレーター）

モデレーター：高橋しげみ（青森県立美術館学芸員）

特別上映会＋トーク「撮る場所、生きる場所」

特別上映会

「カメラになった男」[小原真史監督作品]（91分）

日時：2009年1月10日（土）14:15－15:46

場所：青森県立美術館シアター

トーク

日時：2009年1月10日（土）16:00－17:00

場所：青森県立美術館シアター

パネラー：小原真史（映像作家）、北島敬三（写真家）、高橋しげみ

モデレーター：豊島重之

参加者数：150名

シアターイベント「写真の声」

企画・監修：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

日時：第1回公演 2009年2月7日（土）14:00－[約30分]

第2回公演 2009年2月22日（日）14:00－[約30分]

場所：青森県立美術館シアター

参加者総数：130名

担当学芸員によるギャラリートーク

開催日：1月10日（土）を除く、会期中の毎土曜日、日曜日、午後1時から、担当学芸員による約30分のギャラリートークを行なった。

記念写真集 / 展覧会カタログ

『小島一郎写真集成』

著者：小島一郎

監修：青森県立美術館

編集：高橋しげみ（青森県立美術館）

中村大吾（インスクリプト）

発行：株式会社インスクリプト

仕様：B5変型判・上製・216頁

発行日：2009年1月10日



ポスター



展示風景

大正13年（1924）、青森市に生まれた小島一郎は、昭和30年代の約十年間、主に郷土、青森の風景や人々を撮り続けた写真家である。戦後の急激な近代化の中、地方の寒村に生きる人々への深い共感を、覆い焼きや複写の技法を駆使しながら、印画紙に刷り込むようにして力強く焼きつけた写真の数々は、日本の写真史に鮮烈な足跡を残している。

平成17年、当館は写真家の遺族から、プリント、アルバムやフィルム等約3000点におよぶ作品、資料の寄託を受けている。これらの資料の調査によって、約十年という短い活動期間に、驚くべき密度でなされた写真家の仕事の全容が浮かび上がってきた。本展では、その濃密な生涯をリアルに立ち上げるさまざまな資料とともに、約200点のオリジナルプリントを、写真家の撮影地 / 活動地となった「津軽」、「東京」、「下北」の地理的区分に基づき展示。小島一郎の強烈な個性に迫る初の大規模な回顧展となった。

関連企画では、青森県八戸市を拠点にアート活動を展開する市民ア

ートサポート集団「ICANOF（イカノフ）」の豊島重之氏の企画・監修に基づき、展覧会の黙示録的終章というべく、小島一郎の写真に潜む北へのパッセージを浮かび上がらせる展示が、市民の参画から生み出された。

また、展覧会初日に行なわれた現在活躍中の写真家や映像作家が参加したシンポジウムやトークによって、郷土が生んだ小島一郎の写真は今に生きる私たちの問題意識の中に蘇生させることに成功した。

こうした試みによって、県内外のメディアが展覧会および同時刊行された写真集に関する記事を掲載した。地域に密着した展覧会であるにもかかわらず、全国的なメディアが数多く取り上げたことは特に注目に値する。このことによって、今まで郷土においてさえも決して知名度が高いとはいえなかったこの写真家の存在を広く知ってもらうことができた。

本展の成果を受けて、今後、小島一郎の写真が、より多くの観点から意義を見い出されていくことが期待される。

出品作品

初期－「津軽」以前

- 1
小島一郎
《立待岬》
北海道函館市
1954
ゼラチン・シルバー・プリント
35.5×43.2
青森県立美術館蔵
- 2
小島一郎
《佛ヶ浦》
下北半島 仏ヶ浦
1954
ゼラチン・シルバー・プリント
35.5×43.7
青森県立美術館蔵
- 3
小島一郎
The way home (帰路)
東津軽郡外ヶ浜町蟹田塩越
1956
ゼラチン・シルバー・プリント
28.0×42.5
青森県立美術館蔵
- 4
小島一郎
《パイプ》
撮影地不詳
1954
(ニュープリント2008 / プリンター: 王子直紀)
ゼラチン・シルバー・プリント
40.5×50.6
青森県立美術館蔵
- 5
小島一郎
《村の半鐘》
下北地方
1956
(ニュープリント2008 / プリンター: 王子直紀)
ゼラチン・シルバー・プリント
35.9×27.8
青森県立美術館蔵
- 6
小島一郎
《海ぞいの家》
下北地方
1956
(ニュープリント2008 / プリンター: 王子直紀)
ゼラチン・シルバー・プリント
27.8×35.9
青森県立美術館蔵

- 7
小島一郎
《雨の日の舟小屋》
下北地方
1956
(ニュープリント2008 / プリンター: 王子直紀)
ゼラチン・シルバー・プリント
27.8×35.9
青森県立美術館蔵

津軽

- 8
小島一郎
つがる市木造一出野里
1960
ゼラチン・シルバー・プリント
21.2×29.6
個人蔵 (青森県立美術館寄託)
- 9
小島一郎
津軽地方南部
1958
ゼラチン・シルバー・プリント
17.1×30.6
個人蔵 (青森県立美術館寄託)
- 10
小島一郎
津軽地方
1957 - 58
ゼラチン・シルバー・プリント
11.5×30.5
個人蔵 (青森県立美術館寄託)
- 11
小島一郎
つがる市木造
1957 - 58
ゼラチン・シルバー・プリント
18.5×30.2
個人蔵 (青森県立美術館寄託)
- 12
小島一郎
津軽地方
1957 - 58
ゼラチン・シルバー・プリント
30.5×17.8
個人蔵 (青森県立美術館寄託)
- 13
小島一郎
つがる市稲垣
1957 - 58
ゼラチン・シルバー・プリント
18.4×30.4
個人蔵 (青森県立美術館寄託)
- 14
小島一郎
つがる市車力
1958
ゼラチン・シルバー・プリント
19.7×30.4
個人蔵 (青森県立美術館寄託)

- 15
小島一郎
つがる市稲垣
c.1960
ゼラチン・シルバー・プリント
29.8×19.2
個人蔵 (青森県立美術館寄託)
- 16
小島一郎
つがる市稲垣
1957 - 58
ゼラチン・シルバー・プリント
18.2×30.3
個人蔵 (青森県立美術館寄託)

- 17
小島一郎
《吹雪の浜》
五所川原市磯松
c.1960
ゼラチン・シルバー・プリント
29.9×19.3
個人蔵 (青森県立美術館寄託)

- 18
小島一郎
《荒天》
五所川原市磯松
c.1960
ゼラチン・シルバー・プリント
30.1×19.4
個人蔵 (青森県立美術館寄託)

- 19
小島一郎
中津軽群西木屋村付近
1959
ゼラチン・シルバー・プリント
29.4×19.5
個人蔵 (青森県立美術館寄託)

- 20
小島一郎
津軽地方
1960
ゼラチン・シルバー・プリント
30.4×21.4
個人蔵 (青森県立美術館寄託)

- 21
小島一郎
《段畑の雪模様》
弘前市国吉付近
1959
ゼラチン・シルバー・プリント
19.6×29.8
個人蔵 (青森県立美術館寄託)

- 22
小島一郎
津軽地方
1957 - 58
ゼラチン・シルバー・プリント
30.4×18.9
個人蔵 (青森県立美術館寄託)

- 23
小島一郎
津軽地方西北部
1957 - 58
ゼラチン・シルバー・プリント
19.3×30.1
個人蔵 (青森県立美術館寄託)

- 24
小島一郎
津軽地方西北部
1957 - 58
ゼラチン・シルバー・プリント
29.6×19.6
個人蔵 (青森県立美術館寄託)

- 25
小島一郎
津軽地方
1957 - 58
ゼラチン・シルバー・プリント
18.9×30.3
個人蔵 (青森県立美術館寄託)

- 26
小島一郎
つがる市車力
1957 - 58
ゼラチン・シルバー・プリント
30.3×18.7
個人蔵 (青森県立美術館寄託)

- 27
小島一郎
《北国の漁村》
五所川原市十三付近
c.1960
ゼラチン・シルバー・プリント
30.1×18.8
個人蔵 (青森県立美術館寄託)

- 28
小島一郎
津軽地方
1958 - 61
ゼラチン・シルバー・プリント
19.2×30.0
個人蔵 (青森県立美術館寄託)

- 29
小島一郎
津軽地方
1957 - 58
ゼラチン・シルバー・プリント
29.8×18.1
個人蔵 (青森県立美術館寄託)

- 30
小島一郎
《百万遍》
つがる市車力
1959
ゼラチン・シルバー・プリント
30.5×19.5
個人蔵 (青森県立美術館寄託)

31 小島一郎 (百万遍) つがる市車力 1959 ゼラチン・シルバー・プリント 30.1×19.4 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	39 小島一郎 《冬が来る》 津軽地方 1957 - 58 ゼラチン・シルバー・プリント 30.1×19.7 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	47 小島一郎 五所川原市磯松 c.1960 ゼラチン・シルバー・プリント 24.2×15.8 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	56 小島一郎 つがる市木造 1958 - 61 ゼラチン・シルバー・プリント 24.5×18.1 個人蔵 (青森県立美術館寄託)
32 小島一郎 (百万遍) つがる市車力 1959 ゼラチン・シルバー・プリント 30.1×19.4 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	40 小島一郎 つがる市木造 1958 ゼラチン・シルバー・プリント 24.3×16.6 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	48 小島一郎 五所川原市十三 1959 ゼラチン・シルバー・プリント 24.5×16.8 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	57 小島一郎 つがる市稲垣付近 1960 ゼラチン・シルバー・プリント 24.3×16.5 個人蔵 (青森県立美術館寄託)
33 小島一郎 (百万遍) つがる市車力 1959 ゼラチン・シルバー・プリント 30.0×19.3 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	41 小島一郎 つがる市稲垣沼崎一車力 1958 ゼラチン・シルバー・プリント 24.2×16.1 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	49 小島一郎 津軽地方 1958 - 61 ゼラチン・シルバー・プリント 16.7×24.6 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	58 小島一郎 弘前市桜庭 (東目屋方面) 1958 - 61 ゼラチン・シルバー・プリント 16.5×24.3 個人蔵 (青森県立美術館寄託)
34 小島一郎 (百万遍) つがる市車力 1959 ゼラチン・シルバー・プリント 30.2×19.5 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	42 小島一郎 津軽地方西北部 1958 ゼラチン・シルバー・プリント 24.3×16.3 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	50 小島一郎 つがる市木造 1958 - 61 ゼラチン・シルバー・プリント 24.7×16.8 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	59 小島一郎 つがる市稲垣沼崎一車力 1958 ゼラチン・シルバー・プリント 24.5×16.8 個人蔵 (青森県立美術館寄託)
35 小島一郎 《地藏さん》 つがる市稲垣 c.1960 ゼラチン・シルバー・プリント 30.1×19.4 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	43 小島一郎 つがる市木造 1958 ゼラチン・シルバー・プリント 16.6×24.2 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	51 小島一郎 津軽地方西北部 1958 - 61 ゼラチン・シルバー・プリント 16.1×24.2 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	60 小島一郎 《北の空》 津軽地方 1957 ゼラチン・シルバー・プリント 24.1×15.8 個人蔵 (青森県立美術館寄託)
36 小島一郎 五所川原市十三 1957 - 58 ゼラチン・シルバー・プリント 30.0×18.4 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	44 小島一郎 津軽地方 1958 - 61 ゼラチン・シルバー・プリント 24.3×16.6 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	52 小島一郎 つがる市木造 1958 ゼラチン・シルバー・プリント 24.4×16.4 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	61 小島一郎 津軽地方 1960 ゼラチン・シルバー・プリント 24.1×16.6 個人蔵 (青森県立美術館寄託)
37 小島一郎 津軽地方 1957 - 58 ゼラチン・シルバー・プリント 30.0×19.5 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	45 小島一郎 津軽地方 1957 - 58 ゼラチン・シルバー・プリント 16.7×25.4 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	53 小島一郎 つがる市稲垣付近 1960 ゼラチン・シルバー・プリント 24.5×16.2 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	62 小島一郎 つがる市木造亀ヶ岡 1958 ゼラチン・シルバー・プリント 24.2×15.9 個人蔵 (青森県立美術館寄託)
38 小島一郎 津軽地方 1957 - 58 ゼラチン・シルバー・プリント 30.4×18.2 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	46 小島一郎 《夕暮れ》 五所川原市十三 c.1957 ゼラチン・シルバー・プリント 16.1×24.6 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	54 小島一郎 つがる市木造柴田 1959 ゼラチン・シルバー・プリント 16.3×24.4 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	63 小島一郎 (岩木山お山参詣) 弘前市百沢 1959 ゼラチン・シルバー・プリント 24.2×16.5 個人蔵 (青森県立美術館寄託)
		55 小島一郎 津軽地方 1958 ゼラチン・シルバー・プリント 24.2×16.0 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	

64 小島一郎 (岩木山お山参詣) 弘前市百沢 1959 ゼラチン・シルバー・プリント 16.1×24.5 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	72 小島一郎 五所川原市十三 1958 ゼラチン・シルバー・プリント 15.9×24.4 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	80 小島一郎 五所川原市十三 1959 ゼラチン・シルバー・プリント 15.4×24.3 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	88 小島一郎 津軽地方 1958 - 61 ゼラチン・シルバー・プリント 16.7×24.6 個人蔵 (青森県立美術館寄託)
65 小島一郎 (岩木山お山参詣) 弘前市百沢 1959 ゼラチン・シルバー・プリント 16.1×23.7 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	73 小島一郎 つがる市稲垣沼崎一車力 1958 ゼラチン・シルバー・プリント 16.5×24.3 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	81 小島一郎 五所川原市十三付近 1958 ゼラチン・シルバー・プリント 24.2×16.5 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	89 小島一郎 つがる市稲垣 c.1960 ゼラチン・シルバー・プリント 16.5×24.3 個人蔵 (青森県立美術館寄託)
66 小島一郎 (岩木山お山参詣) 弘前市百沢 1959 ゼラチン・シルバー・プリント 16×24.4 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	74 小島一郎 《道》 つがる市木造 1960 ゼラチン・シルバー・プリント 25.8×17.2 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	82 小島一郎 竜飛岬付近 1960 ゼラチン・シルバー・プリント 16.3×24.2 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	90 小島一郎 西津軽郡深浦町北金ヶ沢 1957 - 58 ゼラチン・シルバー・プリント 25.0×16.5 個人蔵 (青森県立美術館寄託)
67 小島一郎 津軽地方 1958 - 61 ゼラチン・シルバー・プリント 24.6×17.4 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	75 小島一郎 《寒さにふるえる馬》 つがる市木造 1960 ゼラチン・シルバー・プリント 23.9×16.5 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	83 小島一郎 五所川原市十三一脇元 1960 ゼラチン・シルバー・プリント 24.2×15.9 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	91 小島一郎 五所川原市磯松 1960 ゼラチン・シルバー・プリント 17.3×25.5 個人蔵 (青森県立美術館寄託)
68 小島一郎 《津軽の子》 つがる市木造亀ヶ岡 1958 ゼラチン・シルバー・プリント 24.4×16.2 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	76 小島一郎 つがる市木造一車力 1958 ゼラチン・シルバー・プリント 24.3×16.1 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	84 小島一郎 《津軽の子》 つがる市車力一亀ヶ岡 1957 - 58 ゼラチン・シルバー・プリント 24.5×16.5 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	92 小島一郎 つがる市木造川除 1959 ゼラチン・シルバー・プリント 16.6×25.0 個人蔵 (青森県立美術館寄託)
69 小島一郎 五所川原市十三付近 c.1960 ゼラチン・シルバー・プリント 24.2×16.7 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	77 小島一郎 《破風》 つがる市稲垣沼崎一車力 1958 ゼラチン・シルバー・プリント 24.4×16.8 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	85 小島一郎 つがる市稲垣 1959 ゼラチン・シルバー・プリント 24.5×16.8 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	93 小島一郎 津軽地方 1957 - 58 ゼラチン・シルバー・プリント 16.8×24.6 個人蔵 (青森県立美術館寄託)
70 小島一郎 《辻の大黒さん》 津軽地方 1957 - 58 ゼラチン・シルバー・プリント 24.3×16.4 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	78 小島一郎 五所川原市十三付近 1958 ゼラチン・シルバー・プリント 24×15.9 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	86 小島一郎 つがる市木造 1958 ゼラチン・シルバー・プリント 24.4×16.5 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	94 小島一郎 津軽地方西北部 1959 ゼラチン・シルバー・プリント 10.8×15.7 個人蔵 (青森県立美術館寄託)
71 小島一郎 五所川原市磯松 1958 ゼラチン・シルバー・プリント 16.6×24.4 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	79 小島一郎 五所川原市十三付近 1960 ゼラチン・シルバー・プリント 24.5×16.8 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	87 小島一郎 《農家の片スミ》 つがる市木造 1958 ゼラチン・シルバー・プリント 24.6×16.2 個人蔵 (青森県立美術館寄託)	95 小島一郎 弘前市悪戸 1959 ゼラチン・シルバー・プリント 17.2×11.5 個人蔵 (青森県立美術館寄託)
			96 小島一郎 津軽地方 c.1959 ゼラチン・シルバー・プリント 51.5×33.5 個人蔵

97 小島一郎 津軽地方西北部 c.1959 ゼラチン・シルバー・プリント 51.5×33.5 個人蔵	105 小島一郎 津軽地方西北部 1957 - 58 ゼラチン・シルバー・プリント 24.5×16.7 個人蔵（青森県立美術館寄託）	113 小島一郎 つがる市福垣 1960 ゼラチン・シルバー・プリント 52.3×34.0 青森市教育委員会蔵	122 小島一郎 津軽地方 1960 ゼラチン・シルバー・プリント 52.2×34.0 青森市教育委員会蔵
98 小島一郎 津軽地方 1957 - 58 ゼラチン・シルバー・プリント 30.5×19.0 個人蔵（青森県立美術館寄託）	106 小島一郎 つがる市木造川除 1960 ゼラチン・シルバー・プリント 16.4×24.2 個人蔵（青森県立美術館寄託）	114 小島一郎 五所川原市十三付近 1960 ゼラチン・シルバー・プリント 52.2×25.0 青森市教育委員会蔵	小島一郎の「トランプ」 123 小島一郎 名刺判プリントのアルバムより 55点〔台紙枚数〕 ゼラチン・シルバー・プリント 個人蔵（青森県立美術館寄託）
99 小島一郎 津軽地方西北部 1957 - 58 ゼラチン・シルバー・プリント 30.4×20 個人蔵（青森県立美術館寄託）	107 小島一郎 津軽地方 1957 - 58 ゼラチン・シルバー・プリント 16.3×24.4 個人蔵（青森県立美術館寄託）	115 小島一郎 五所川原市十三-脇元 1960 ゼラチン・シルバー・プリント 52.3×33.8 青森市教育委員会蔵	124 小島一郎 名刺判プリント 12点 125 小島一郎 津軽地方 1958 - 61 ゼラチン・シルバー・プリント 7.7×5.0 個人蔵（青森県立美術館寄託）
100 小島一郎 《石を運ぶ女たち》 中津軽郡西目屋付近 c.1960 ゼラチン・シルバー・プリント 29.9×19.4 個人蔵（青森県立美術館寄託）	108 小島一郎 《吹雪の夕ぐれ》 津軽地方西北部 1958 - 61 ゼラチン・シルバー・プリント 24.0×17.0 個人蔵（青森県立美術館寄託）	116 小島一郎 五所川原市十三付近 1960 ゼラチン・シルバー・プリント 52.1×34.1 青森市教育委員会蔵	126 小島一郎 つがる市福垣 1959 ゼラチン・シルバー・プリント 9.3×5.3 個人蔵（青森県立美術館寄託）
101 小島一郎 津軽地方 1957 - 58 ゼラチン・シルバー・プリント 30.5×18.8 個人蔵（青森県立美術館寄託）	109 小島一郎 竜飛岬付近 1960 ゼラチン・シルバー・プリント 16.2×24.1 個人蔵（青森県立美術館寄託）	117 小島一郎 つがる市木造付近 1960 ゼラチン・シルバー・プリント 52.1×33.9 青森市教育委員会蔵	127 小島一郎 津軽地方 1958 - 61 ゼラチン・シルバー・プリント 5.0×7.7 個人蔵（青森県立美術館寄託）
102 小島一郎 津軽地方西北部 1957 - 58 ゼラチン・シルバー・プリント 18×29.9 個人蔵（青森県立美術館寄託）	110 小島一郎 津軽地方 1960 ゼラチン・シルバー・プリント 8.1×9.1 個人蔵（青森県立美術館寄託）	118 小島一郎 五所川原市磯松付近 1960 ゼラチン・シルバー・プリント 34.0×52.2 青森市教育委員会蔵	128 小島一郎 つがる市車力深沢 1959 ゼラチン・シルバー・プリント 8.5×5.5 個人蔵（青森県立美術館寄託）
103 小島一郎 《野の地藏堂》 つがる市福垣沼崎-車力 1958 ゼラチン・シルバー・プリント 24.3×16.2 個人蔵（青森県立美術館寄託）	111 小島一郎 五所川原市十三-脇元 1960 ゼラチン・シルバー・プリント 52.3×33.9 青森市教育委員会蔵	119 小島一郎 五所川原市十三-脇元 1960 ゼラチン・シルバー・プリント 52.2×34.2 青森市教育委員会蔵	129 小島一郎 津軽地方 c.1959 ゼラチン・シルバー・プリント 8.3×5.5 個人蔵（青森県立美術館寄託）
104 小島一郎 竜飛岬付近 1960 ゼラチン・シルバー・プリント 24.3×17.0 個人蔵（青森県立美術館寄託）	112 小島一郎 五所川原市十三付近 c.1960 ゼラチン・シルバー・プリント 52.3×33.9 青森市教育委員会蔵	120 小島一郎 五所川原市十三付近 1960 ゼラチン・シルバー・プリント 52.2×33.8 青森市教育委員会蔵	130 小島一郎 弘前市宮地付近 1959 ゼラチン・シルバー・プリント 8.5×5.5 個人蔵（青森県立美術館寄託）
		121 小島一郎 つがる市木造付近 1960 ゼラチン・シルバー・プリント 52.1×33.8 青森市教育委員会蔵	

131
小島一郎
津軽地方
1958 - 61
ゼラチン・シルバー・プリント
5.1×7.8
個人蔵（青森県立美術館寄託）

132
小島一郎
弘前市百沢付近
1959
ゼラチン・シルバー・プリント
8.5×5.5
個人蔵（青森県立美術館寄託）

133
小島一郎
つがる市木造
1959
ゼラチン・シルバー・プリント
8.3×5.3
個人蔵（青森県立美術館寄託）

134
小島一郎
津軽地方
1960
ゼラチン・シルバー・プリント
8.3×5.5
個人蔵（青森県立美術館寄託）

135
小島一郎
西津軽郡鯨ヶ沢町付近
1958
ゼラチン・シルバー・プリント
8.2×5.4
個人蔵（青森県立美術館寄託）

136
小島一郎
つがる市木造一出野里
1960
ゼラチン・シルバー・プリント
5.5×8.3
個人蔵（青森県立美術館寄託）

小島一郎と南部地方の農村

137
小島一郎
三戸郡五戸町付近
1958
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×16.6
個人蔵

138
小島一郎
三戸郡五戸町付近
1958
ゼラチン・シルバー・プリント
24.7×16.3
個人蔵

139
小島一郎
三戸郡五戸町付近
1958
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×15.9
個人蔵

140
小島一郎
三戸郡五戸町付近
1958
ゼラチン・シルバー・プリント
24.5×16.3
個人蔵（青森県立美術館寄託）

カラーの試み

141
小島一郎
津軽地方
c.1962（ニュープリント2008）
デジタル銀塩プリント
24.4×16.1
青森県立美術館蔵

142
小島一郎
津軽地方
c.1962（ニュープリント2008）
デジタル銀塩プリント
24.4×16.1
青森県立美術館蔵

143
小島一郎
《奥入瀬の渓流》
奥入瀬渓流（十和田市）
c.1962（ニュープリント2008）
デジタル銀塩プリント
55.8×45.7
青森県立美術館蔵

144
小島一郎
蕨沼（十和田市）
c.1962（ニュープリント2008）
デジタル銀塩プリント
44.7×45.0
青森県立美術館蔵

東京

145
小島一郎
東京都内
1961 - 63
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×16.6
個人蔵（青森県立美術館寄託）

146
小島一郎
東京都内
1961 - 63
ゼラチン・シルバー・プリント
24.3×16.7
個人蔵（青森県立美術館寄託）

147
小島一郎
東京都内
1961 - 63
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×16.7
個人蔵（青森県立美術館寄託）

148
小島一郎
東京都内
1961 - 63
ゼラチン・シルバー・プリント
24.3×16.6
個人蔵（青森県立美術館寄託）

149
小島一郎
東京都内
1961 - 63
ゼラチン・シルバー・プリント
24.3×16.6
個人蔵（青森県立美術館寄託）

150
小島一郎
富士山麓
c.1963
ゼラチン・シルバー・プリント
23.8×15.5
個人蔵（青森県立美術館寄託）

151
小島一郎
富士山麓
c.1963
ゼラチン・シルバー・プリント
24.1×16.8
個人蔵（青森県立美術館寄託）

152
小島一郎
富士山麓
c.1963
ゼラチン・シルバー・プリント
24×15.8
個人蔵（青森県立美術館寄託）

153
小島一郎
丹沢山麓
1962
ゼラチン・シルバー・プリント
25.3×16.2
個人蔵（青森県立美術館寄託）

154
小島一郎
丹沢山麓
1962
ゼラチン・シルバー・プリント
25.7×16.5
個人蔵（青森県立美術館寄託）

155
小島一郎
石部（滋賀県）
c.1963
ゼラチン・シルバー・プリント
8.1×5.5
個人蔵（青森県立美術館寄託）

156
小島一郎
天龍川上流（静岡県）
c.1963
ゼラチン・シルバー・プリント
8.1×5.5
個人蔵（青森県立美術館寄託）

下北

157
小島一郎
《疾走》
下北地方
c.1961
ゼラチン・シルバー・プリント
19.1×28.9
個人蔵（青森県立美術館寄託）

158
小島一郎
むつ市脇沢九艘泊
1961
ゼラチン・シルバー・プリント
30.0×20.1
個人蔵（青森県立美術館寄託）

159
小島一郎
下北郡大間町
c.1961
ゼラチン・シルバー・プリント
19.8×28.9
個人蔵（青森県立美術館寄託）

160
小島一郎
下北郡大間町
1961
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×16.7
個人蔵（青森県立美術館寄託）

161
小島一郎
《墓場》
下北地方
c.1961
ゼラチン・シルバー・プリント
16.1×24.2
個人蔵（青森県立美術館寄託）

162
小島一郎
下北地方
c.1961
ゼラチン・シルバー・プリント
16.1×23.7
個人蔵（青森県立美術館寄託）

163
小島一郎
下北地方
c.1962
ゼラチン・シルバー・プリント
16.5×24.1
個人蔵（青森県立美術館寄託）

164 小島一郎 下北地方 c.1962 ゼラチン・シルバー・プリント 23.9×16.4 個人蔵（青森県立美術館寄託）	172 小島一郎 むつ市脇野沢九艘泊 1961 ゼラチン・シルバー・プリント 24.2×15.7 個人蔵（青森県立美術館寄託）	181 小島一郎 下北地方 c.1962 ゼラチン・シルバー・プリント 24.7×16.0 個人蔵（青森県立美術館寄託）	189 小島一郎 《氷結》 下北郡佐井村長後牛滝 1961 ゼラチン・シルバー・プリント 23.8×16.2 個人蔵（青森県立美術館寄託）
165 小島一郎 下北地方 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 15.7×23.9 個人蔵（青森県立美術館寄託）	173 小島一郎 下北地方 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 15.8×24.6 個人蔵（青森県立美術館寄託）	182 小島一郎 下北地方 c.1962 ゼラチン・シルバー・プリント 24.2×16.3 個人蔵（青森県立美術館寄託）	190 小島一郎 《薄暮》 下北地方 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 10.1×15.2 個人蔵（青森県立美術館寄託）
166 小島一郎 下北地方 c.1962 ゼラチン・シルバー・プリント 24.2×16.0 個人蔵（青森県立美術館寄託）	174 小島一郎 下北地方 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 15.9×23.8 個人蔵（青森県立美術館寄託）	183 小島一郎 むつ市脇野沢九艘泊 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 24.4×16.5 個人蔵（青森県立美術館寄託）	191 小島一郎 下北地方 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 52.3×34.0 青森市教育委員会蔵
167 小島一郎 下北地方 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 24.5×16.0 個人蔵（青森県立美術館寄託）	175 小島一郎 下北地方 c.1962 ゼラチン・シルバー・プリント 25.0×16.1 個人蔵（青森県立美術館寄託）	184 小島一郎 《波浪》 下北地方 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 15.2×10.7 個人蔵（青森県立美術館寄託）	192 小島一郎 撮影地不詳 1958 - 1962 ゼラチン・シルバー・プリント 52.2×33.8 青森市教育委員会蔵
168 小島一郎 下北地方 1958 - 1962 ゼラチン・シルバー・プリント 24.7×17.7 個人蔵（青森県立美術館寄託）	176 小島一郎 下北郡風間浦村付近 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 16.0×24.0 個人蔵（青森県立美術館寄託）	185 小島一郎 《孤独》 むつ市脇野沢九艘泊 1961 ゼラチン・シルバー・プリント 15.0×10.6 個人蔵（青森県立美術館寄託）	193 小島一郎 撮影地不詳 1958 - 1962 ゼラチン・シルバー・プリント 52.2×33.8 青森市教育委員会蔵
169 小島一郎 《寒風》 下北郡大間町 1961 ゼラチン・シルバー・プリント 24.3×16.2 個人蔵（青森県立美術館寄託）	177 小島一郎 下北郡風間浦村付近 1961 ゼラチン・シルバー・プリント 23.6×15.8 個人蔵（青森県立美術館寄託）	186 小島一郎 下北地方 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 86.5×56.0 個人蔵	194 小島一郎 撮影地不詳 1958 - 1962 ゼラチン・シルバー・プリント 52.1×33.8 青森市教育委員会蔵
170 小島一郎 下北地方 c.1962 ゼラチン・シルバー・プリント 24.1×16.0 個人蔵（青森県立美術館寄託）	178 小島一郎 下北地方 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 24.3×16.6 個人蔵（青森県立美術館寄託）	187 小島一郎 下北地方 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 56.0×86.0 個人蔵	195 小島一郎 下北地方 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 52.3×34.0 青森市教育委員会蔵
171 小島一郎 下北地方 c.1962 ゼラチン・シルバー・プリント 24.2×16.4 個人蔵（青森県立美術館寄託）	179 小島一郎 下北地方 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 24.2×16.5 個人蔵（青森県立美術館寄託）	188 小島一郎 北海道 1960 ゼラチン・シルバー・プリント 86.5×56.0 個人蔵	196 小島一郎 下北郡大間町 1961 ゼラチン・シルバー・プリント 86.5×56.2 青森市教育委員会蔵
	180 小島一郎 下北地方 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 24.1×16.1 個人蔵（青森県立美術館寄託）		

197 小島一郎 下北郡佐井村長後福浦 1961 ゼラチン・シルバー・プリント 86.5×56.1 青森市教育委員会蔵	206 小島一郎 撮影地不詳 1958 - 1962 ゼラチン・シルバー・プリント 52.1×33.9 青森市教育委員会蔵	215 小島一郎 撮影地不詳 1958 - 1962 ゼラチン・シルバー・プリント 86.5×56.0 青森市教育委員会蔵	224 小島一郎 下北地方 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 86.5×56.0 青森市教育委員会蔵
198 小島一郎 下北地方 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 86.5×56.1 青森市教育委員会蔵	207 小島一郎 撮影地不詳 1958 - 1962 ゼラチン・シルバー・プリント 51.4×34.0 青森市教育委員会蔵	216 小島一郎 下北地方 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 86.0×56.2 青森市教育委員会蔵	225 小島一郎 北海道 1960 ゼラチン・シルバー・プリント 86.5×56.1 青森市教育委員会蔵
199 小島一郎 下北地方 1961 ゼラチン・シルバー・プリント 86.5×56.0 青森市教育委員会蔵	208 小島一郎 下北地方 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 52.1×33.8 青森市教育委員会蔵	217 小島一郎 下北地方 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 52.1×30.6 青森市教育委員会蔵	226 小島一郎 むつ市脇野沢九艘泊 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 86.5×56.0 青森市教育委員会蔵
200 小島一郎 下北地方 1961 ゼラチン・シルバー・プリント 86.7×56.3 青森市教育委員会蔵	209 小島一郎 下北地方 1961 ゼラチン・シルバー・プリント 52.3×33.8 青森市教育委員会蔵	218 小島一郎 下北地方 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 52.3×33.9 青森市教育委員会蔵	227 小島一郎 下北郡大間町 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 86.5×56.0 青森市教育委員会蔵
201 小島一郎 下北地方 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 86.5×56.0 青森市教育委員会蔵	210 小島一郎 下北地方 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 52.3×33.8 青森市教育委員会蔵	219 小島一郎 下北地方 c.1962 ゼラチン・シルバー・プリント 53.0×35.4 青森市教育委員会蔵	228 小島一郎 下北地方 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 86.5×56.2 青森市教育委員会蔵
202 小島一郎 下北地方 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 86.5×56.0 青森市教育委員会蔵	211 小島一郎 撮影地不詳 1958 - 1962 ゼラチン・シルバー・プリント 86.4×56.0 青森市教育委員会蔵	220 小島一郎 下北地方 c.1962 ゼラチン・シルバー・プリント 52.2×34.9 青森市教育委員会蔵	229 小島一郎 下北地方 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 86.5×56.0 青森市教育委員会蔵
203 小島一郎 下北郡佐井村長後牛滝 1961 ゼラチン・シルバー・プリント 86.5×56.0 青森市教育委員会蔵	212 小島一郎 むつ市脇野沢九艘泊 1961 ゼラチン・シルバー・プリント 86.3×56.0 青森市教育委員会蔵	221 小島一郎 下北地方 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 52.2×34.1 青森市教育委員会蔵	230 小島一郎 下北地方 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 86.5×56.0 青森市教育委員会蔵
204 小島一郎 下北地方 1961 ゼラチン・シルバー・プリント 86.5×56.3 青森市教育委員会蔵	213 小島一郎 撮影地不詳 1958 - 1962 ゼラチン・シルバー・プリント 86.3×56.2 青森市教育委員会蔵	222 小島一郎 下北地方 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 86.5×56.0 青森市教育委員会蔵	
205 小島一郎 下北地方 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 86.3×56.0 青森市教育委員会蔵	214 小島一郎 下北地方 c.1961 ゼラチン・シルバー・プリント 86.5×56.0 青森市教育委員会蔵	223 小島一郎 北海道 1960 ゼラチン・シルバー・プリント 86.5×56.0 青森市教育委員会蔵	

掲載記事

デーリー東北

3月9日(月)
〈天鐘〉(小島一郎展)

河北新報

1月15日(木)
津軽や下北の風土など200点 青森県立美術館 写真家小島一郎展

1月29日(木)
青森県立美術館企画展 小島一郎 北を撮る 学芸員 高橋しげみ

東奥日報

1月8日(木)
〈文化〉北国の風景、人 鮮烈に ◆10日
日から小島一郎展 県立美術館

1月11日(日)
北の風土鮮烈に 写真家・小島一郎県美で
企画展開幕

1月21日(水)
県美「小島一郎」展とタイアップ 角巻き
姿で百人撮影会 津軽地吹雪会 五所川原

1月22日(木)
写真家・小島一郎「回顧展」 県立美術館

1月23日(金)
見聞録「北」の意味 果敢に問う 県立美
術館 小島一郎の大規模回顧展 楠本亜紀

2月12日(木)
小島一郎 北を撮る 県立美術館企画展①
高橋しげみ

2月13日(金)
小島一郎 北を撮る 県立美術館企画展②
高橋しげみ

2月14日(土)
小島一郎 北を撮る 県立美術館企画展③

2月16日(月)
小島一郎 北を撮る 県立美術館企画展④
東京の生活 高橋しげみ

2月17日(火)
小島一郎 北を撮る 県立美術館企画展⑤
高橋しげみ

2月18日(水)
小島一郎 北を撮る 県立美術館企画展⑥
高橋しげみ

2月25日(水)
小島一郎展 入場者5000人 県立美術館

毎日新聞

1月7日(水)
小島一郎初の大回顧展「北を撮る」10日か
ら県立美術館

3月4日(水)
〈書ちゃ食ちゃ寝〉 小島一郎の写真

陸奥新報

12月17日(水)
故郷をとらえた200点 来月10日から県
美で小島一郎回顧展

1月8日(木)
故郷への共感を撮る 県立美術館 10日か
ら「小島一郎展」 高橋しげみ

1月11日(日)
白と黒の対比で魅了 県立美術館で小島一
郎写真展開幕 寒村の人々 鮮烈に写す

1月15日(木)
〈冬夏言〉「小島一郎 北を撮る」

1月23日(金)
場所と格闘する写真家 県立美術館「小島
一郎」展に寄せて 土屋誠一

1月31日(土)
〈土曜エッセー〉上 小島一郎展への思い1
高橋しげみ

2月7日(土)
土曜エッセー ▶中 高橋しげみ「小島一
郎展への思い 2」

2月14日(土)
土曜エッセー ▶下 高橋しげみ「小島一
郎展への思い 3」

2月15日(日)
新刊紹介 胸に響く深遠な光景 県美監修
「小島一郎写真集成」

2月27日(金)
「小島一郎展」 入場者数5000人達成 県
美 橋本さん(東京)に記念品

日経新聞

2月25日(水)
〈文化〉青森のミレーは写真家 ◇早世の小
島一郎、農民と自然の共存・戦いを撮る
高橋しげみ

朝日新聞

2月5日(木)
近年再評価・小島一郎 東北描くモダン写
真 青森・回顧展

2月28日(土)
ゆきのまち考現学53 〈写真展〉小島一郎
北を撮る (佐々木淳一 青森市 企画財
政部長)

読売新聞

1月7日(水)
Wednesday あおもり 小島一郎「北を撮る」

3月2日(月)
語り出した「北の写真」 青森・小島一郎
函館・田本研造

3月6日(金)
ぶらざ 津軽の風景 親子三代の思い

平成 20 年度常設展示

Permanent Exhibition 2008

春のコレクション展：齋藤義重、工藤哲巳、江口隆哉・・・、「時代」を作った芸術家たち
2008年4月15日（火）－6月22日（日）
開催日数：68日間

アレコホール：「マルク・シャガールによるバレエ〈アレコ〉の背景画」（通年展示）

展示室 F 奈良美智インスタレーション（通年展示 * 7 / 19 より一部展示替）

青森県弘前市出身の奈良美智（1959－）は、弘前市の高校を卒業後、東京と名古屋の大学で本格的に美術を学び、1980年代半ばから絵画や立体作品、ドローイングなど、精力的に発表を続けている。当館では、1997年から奈良美智作品の収集をはじめ、現在その数は150点を越える。

《Hula Hula Garden》と《ニュー・ソウルハウス》という2点のインスタレーション（空間設置作品）を中心に、奈良美智の世界を紹介。

棟方志功展示室

棟方志功（1903－1975）は墨一色で摺られた白黒板画の美しさを追求した作家であるが、その一方、「微妙な板画の『姿』」を表すもう一つの方法として、摺った紙の裏から筆で絵の具を染みこませて色を出す「裏彩色」の技法を用いて、数多くの作品を制作した。裏彩色による作品を中心に、幅広い棟方の芸業を16点の作品によって紹介した。また、新たに当館に寄託を受けた棟方の油彩画の一部を展示。

展示室 H XA プロジェクト no.4 江口隆哉：考える身体

青森県上北郡野辺地町に生まれた江口隆哉（1900－1977）は、1929年、高田雅夫・原せいこ舞踊研究所に入所し、2年後の1931年、同門の宮操子とともに渡独。滞在中は、舞踊家、マリー・ヴィグマンのもとで学び、いち早く新しい舞踊〈ノイエ・タンツ〉を日本にもたらした。

また、江口はヴィグマンの舞踊学校で学んだ経験を基に、“モダンダンスとは何か”という理論を教えることを通して、生徒一人一人の個性にあわせた舞踊スタイルを創造させるという指導法を実践して多くの優れた舞踊家を育て、日本におけるモダンダンス普及にも大きく貢献した。

残された映像をはじめとする関係資料を通して、江口隆哉という舞踊家の軌跡を紹介。

協力：宮操子、日本女子体育大学、日本大学芸術学部、渥見利奈、金井英三枝

展示室 I 成田亨の怪獣デザイン：その「構造」と「意外性」

成田亨（1929－2002）が手がけた「ウルトラ」シリーズの怪獣デザイン原画を紹介。彫刻家としての感性、芸術家としての資質が反映されたそのデザインは、放映後40年がたつ現在もなお輝きを失っていない。「ウルトラ」シリーズにおける怪獣デザインの特徴は、自然や動物、過去の文化遺産を引用しつつ、誰も見たことのない形の「意外性」を出していくこと。怪獣イコールけ物というそれまでのイメージをくつがえし、新鮮でありながらもどこか懐かしく愛嬌のあるデザインが次々に生み出されていった。怪獣デザイン原画の中から55点を紹介。

展示室 J 小野忠弘：永遠のアヴァンギャルド

大正2年、青森県弘前市に生まれた小野忠弘（1913－2001）は、東京美術学校彫刻科で本格的に美術を学んだ後、美術教師として福井県三国町に赴任。日本海に臨む丘の上に構えたアトリエで、88歳で命を落とすまで、ひたすら独自の表現世界を追求した。

厚塗りの絵具、樹脂のしたたり、貼り付けられた廃品の数々。絵画でも、彫刻でもない、雑多な素材の無数の絡み合いで作られる小野の造形物は、混沌とした中に、未知の時空を思わせる神秘をたたえている。

当館が有する80点余の小野忠弘コレクションから、創作活動の展開を概観できる6点の代表作を展示。

展示室 K 工藤哲巳：人体からのメッセージ

工藤哲巳（1935－1990）は、1935年に五所川原出身の画家工藤正義の長男として生まれ、戦後の日本美術に新しい流れをつくった「反芸術」のホープとして活躍した。東京芸大卒業後、1962年パリに渡り、晩年、1987年に東京芸術大学教授となり帰国するまでの20数年間、ヨーロッパの閉塞した社会をショッキングな表現方法で挑発し続け、その活動は高く評価された。

1990年に早世するまでの55年という短い生涯、“生きる”ということについて真摯に問い続けた工藤は、自分は美術作品を作っているつもりはないとして、自らの作品を「社会評論の模型」と呼び、1960年代には、過去の栄光にすぎただけで不能化されたヨーロッパ社会を痛烈に批判した作品を、70年代には、「環境汚染」問題をテーマにした作品を多く発表したが、それらの作品には、見る人々を挑発し、嫌悪させるショッキ

ングな表現手段として、人体を変形させたり、鼻やセックスシンボルなど人体の一部を切り取ったりしたモチーフが用いられた。そうした人体をモチーフにした作品 20 点を紹介。

展示室 L 建部寒葉斎：近世津軽の前衛アーティスト

建部綾足（1719 - 1774）は、弘前藩家老喜多村家に生まれ、20歳の時に兄嫁と不倫の末、心中も果たせず、郷里を出奔。以後、俳諧師として諸国を巡り歩き、郷里には戻らなかった。

綾足は、俳諧の他、絵画の分野では、二度にわたり長崎に遊学、沈南蘋の流れを汲む熊代熊斐や、清の画家費漢源に学んだ。また国学を学び、古代の「片歌」の復興を唱道する一方で、読本（小説）にも手をそめる。様々な分野で新しい試みをしたが、大成させることなく次から次へ進み、「生涯酔たるか醒たるかするべからざる人なり」と評された綾足の生き方は、寺山修司をはじめとする本県出身の前衛アーティストの原型ともいえる。

当時高く評価された画人としての綾足をつたえる屏風作品を中心に、画譜類などを展示し、この本県出身のマルチタレントの先駆けともいべき才人の業績の一端を紹介。

展示室 M O 鳥谷幡山と十和田湖奥入瀬をめぐる美術

名勝としての十和田湖・奥入瀬渓流は、これまで多くの画家たちの心をとらえてきた。地元の一部の人々が知るのみであった十和田湖の顕彰につとめ、生涯にわたり十和田湖の風景を描き続けた七戸出身の日本画家、鳥谷幡山（1876 - 1966）、1940年に十和田村を訪れて以来、20年以上にもわたって毎年十和田を訪れ、奥入瀬の風景を描いた佐竹徳（1897 - 1998）、先輩の金山平三と共に繰り返し十和田奥入瀬を訪れている刑部人（1906 - 1978）。

また、十和田湖畔には、高村光太郎による「乙女の像」が設置されているが、その制作にあたり助手をつとめたのが野辺地町出身で東京芸大彫刻科に学んだ彫刻家、小坂圭二（1918 - 1992）であった。鳥谷幡山をはじめ、彼ら美術を通じて十和田・奥入瀬に関わった作家達の作品を展示。

展示室 N 特別史跡三内丸山遺跡出土の重要文化財：縄文の表現（通年展示）

特別史跡三内丸山遺跡は我が国を代表する縄文時代の拠点的な集落跡。縄文時代前期中頃から中期終末（約 5500 年前 - 4000 年前）にかけて長期間にわたって定住生活が営まれた。これまでの発掘調査によって、住居、墓、道路、貯蔵穴など集落を構成する各種の遺構や多彩な遺物が発見され、当時の環境や集落の様子などが明らかとなった。また、他地域との交流、交易を物語るヒスイや黒曜石の出土、DNA 分析によるクリの栽培化などが明らかになるなど、数多くの発見がこれまでの縄文文化のイメージを大きく変えた。遺跡では現在も発掘調査がおこなわれており、更なる解明が進められている。

一方、土器や土偶などの出土品の数々は、美術表現としても重要な意味を持っている。当時の人間が抱いていた生命観や美意識、そして造形や表現に対する考え方など、縄文遺物が放つエネルギーは数千年の時を隔てた今もなお衰えず、私達を魅了

し続けている。

国指定重要文化財の出土品の一部を展示し、三内丸山遺跡の豊かな文化の一端を紹介。

* 展示品はすべて青森県立郷土館所蔵

展示室 P Q 斎藤義重：思考する板（春と夏の 2 期にわたり展示）

絵画や彫刻といったジャンル分けを超えた独自の表現を追求した斎藤義重（1904 - 2001）。1960 年代以降は、電気ドリルを使って合板に線を刻んだ連作を発表することで作品の物質性に重点をおき、1970 年代末からは空間を取り込んだ立体作品へと移行していった。

斎藤作品の中から、後期の重要な素材であった板（主にスプルス材）に着目し、その幾何学的な構成による作品、神話に想を得た作品、実用性に富む作品など、板の自在な組み合わせによって生み出された様々な表現を紹介。いずれも、木の素材感が可能な限り消された板が多様に重なり、また複雑に構成されることで、板と板との緊張感ある関係、そして板と空間との豊かな関わりが追求された作品である。

夏のコレクション展：特集 青森の四季を描く
2008年6月25日（水）－9月21日（日）
開催日数：87日間
※以下、展示替えの行われた展示室のみ記載

展示室 G 寺山修司：寺山修司と青森県（7 / 19より通年展示）

寺山修司（1935－1983）が後年、自身で書き記した自らの出生地については、弘前市、三沢市、五所川原市などがある。寺山修司がなぜこのように自らの出生地を青森県のような地にしたのか？その心情はさだかではないが、そのヒントは著書『誰か故郷を想はざる―自叙伝らしくなく』に述べられている。

私は1935年12月10日に青森県の北海岸の小駅で生まれた。しかし戸籍上では翌36年の1月10日に生まれたことになっている。この20日間のアリバイについて聞き糾すと、私の母は「おまえは走っている汽車の中で生まれたから、出生地があいまいなのだ」と冗談めかして言うのだった。（略）私は「走っている汽車の中で生まれた」という個人的な伝説にひどく執着するようになっていた―

実際に寺山修司が生まれた地は、警官だった父・八郎が勤務していた弘前市、というのが現在の定説になっている。その後父の転勤にともなって、めまぐるしく青森県内を転々とする。そして昭和20年7月の青森空襲によって焼け出され、父の故郷・三沢（古間木）へ。中学2年の時には、母が九州へ働きに行くことになり、親戚が住む青森市に身を寄せる。この青森市で高校3年までをすごし、早稲田大学進学にともなって上京。少年期に別れをつけるのである。

青森での学生時代に寺山修司が残した活動の記録を中心に38点を展示。

企画・展示：テラヤマ・ワールド

棟方志功展示室 棟方志功：故郷への想い

油絵画家を目指して21歳で初めて上京し、翌年本格的に東京で生活を始めた棟方であったが、遠く離れた故郷青森を忘れることはなかった。著書の中でも青森に対する熱い想いを繰り返し綴っており、故郷は常に棟方の心の拠り所となっていたことがうかがえる。八甲田山や十和田の奥入瀬渓流などの風景のほか、晩年には、青森の風土や民謡、民間信仰を題材に数多くの板画作品を制作した。独特の裸婦の姿で表現されたそれらの作品は、大きな手や尖った指先などを特徴とする鋭い線で描かれ、全体的に丸みを帯びた棟方のそれまでの女人画とは明らかに趣が異なっている。

故郷に対する哀しくも愛しい想いと、幸への祈りを込めて制作された作品19点を紹介。

展示室 H 成田亨：怪獣、メカニック、セットのデザイン

成田亨は、新制作展を舞台に彫刻家として活躍する一方、映画「ゴジラ」（1954年）を皮切りに特撮美術の仕事も多数手がけた。代表作となったウルトラシリーズ以外にも、TV「マイティジャック」（1968年）や「突撃！ヒューマン！！」（1972年）に登場するヒーロー、メカニックのデザイン、映画「新幹

線大爆破」（1975年）、「麻雀放浪記」（1984年）などの特撮美術でも広く知られている。

「ウルトラQ」（1965年）、「ウルトラマン」（1966年）、「ウルトラセブン」（1967年）に登場した名怪獣たちと、番組を彩る多彩なメカニックやセットのデザイン原画32点を紹介。

展示室 I 佐野ぬい：雪の中へ

弘前市内の洋菓子店に生まれた佐野ぬい（1932－）は、父親が家業の傍ら同人誌を発行するなど文化人であった関係で、作家や画家が店に出入りするなど文化的な雰囲気の中で成長し、画家としての道を歩むことになった。

女子美術大学卒業後も大学に残り制作活動を続け、50年代後半にはアンフォルメル、60年代には現代アメリカ絵画などの体験を通じて、青を基調とし、色彩の対比で画面構成を行う独自の作風を確立していった。さまざまな色が語りかける佐野ぬいの作品世界を紹介。

展示室 J K L 石井康治：詩・季・彩ーガラスのきらめき

1946年千葉県に生まれた石井康治は、東京芸術大学卒業後、ガラス工芸作家として活動を始め、1991年には三内丸山に念願の工房「石井ガラススタジオ青森工房」を開設。1996年11月19日、青森で急逝するまで、青森の自然は彼の創作の源泉となった。

「色ガラスを用いて自分のイメージを詩のような感じで作りたい」と語っていた石井康治は、こよなく青森を愛し、青森の地で制作し、青森を表現し作品に留めようとした作家であった。

生前、「青森で作った作品を、青森の人たちに見てもらえるスペースを作りたい」と作家本人が語っていた志を御遺族が承けて当館に寄託された150点余の作品のうち、40点余を展示。（＊関連企画として、会期中の8月22－25日の4日間、石井康治ガラススタジオ青森工房見学会を開催した）

展示室 M 工藤甲人：春を待つ心

工藤甲人は、1915（大正4）年、現在の弘前市百田に生まれ、戦後、新しい日本画を創り出そうとした美術団体、創造美術・新制作日本画部・創画会を活動を舞台とし、故郷津軽の風土に根ざし、夢幻の世界と現実の世界のはざまを漂う独特の画風を築き上げた。

1975年から76年にかけて制作された四部作『休息』『渴仰』『化生』『野郷仏心』をメインに、東北の四季をテーマにした作品7点を展示。

展示室 O ×Aプロジェクト No.5 岩井康頼：時と意識の景ー下北尻屋岬、そして津軽追良瀬

岩井康頼は1952年十和田市に生まれ、愛知県立芸術大学で学んだ後、1981年から弘前を拠点に制作活動を行っている。堅実な描写とヴァルールの安定した色調に特徴を持つ絵画や、不可思議な生物が空間に漂う緻密な銅版画、尻屋崎や深浦で採集された流木等を構成したレリーフ、立体など形式の幅は広いものの、一貫して奇をてらうことなく、真摯に自己の表現と向

き合い続けている。中央の美術動向や流行といった移ろいやすいものにきっぱりと背を向け、作家が暮らす津軽の地脈とそこに堆積する記憶や声なき声をすくい上げ、その仮象性を作品として提示する岩井康頼。

本プロジェクトでは、近年岩井が積極的に取り組んでいるレリーフ作品を中心に9点を紹介。

秋のコレクション展：特集 太宰治を取り巻く画家達—太宰生誕100年を前に / 海外版画特集：人間と社会
2007年9月23日（火）—12月24日（水）
開催日数：88日間

※ 以下、展示替えの行われた展示室のみ記載

棟方志功展示室 民芸運動と棟方板画—模様的美

棟方志功の板画作品のなかでも模様化、装飾化が見られる作品を中心に紹介。民芸運動の創始者である柳宗悦は、工芸美の特色のひとつに模様性をあげ、模様的美についても考察しているが、棟方は、花木を模様のように表現した板画「萬葉譜」をはじめとして、点や線を用いて白と黒を効果的に配置し、花鳥を模様化、装飾化するという表現方法で多くの傑作を生み出した。

河井寛次郎、濱田庄司らの陶芸作品も併せて展示し、民芸運動を展開した作家達との交流についても紹介した。

展示室H 戦場カメラマン・澤田教一

1950年代半ばから約20年間におよんだベトナム戦争は、当事国のみならず、世界のさまざまな国を巻き込んで、激しい論争を引き起こした。日本においても、日米安保体制のもとアメリカの政策を支持していた政府を厳しく批判する反戦の声が高まったが、ベトナム戦争に対する世論の形成に大きな役割を果たしたのが、戦地の生の状況取材し、リアルタイムで発信したジャーナリストやカメラマンであった。青森県出身の澤田教一(1936—1970)は、そうした戦場カメラマンの一人であった。

ベトナムやカンボジアなど、銃声と砲火の絶えないインドシナ半島の戦況をひたすらカメラで追いつけた澤田は、短期間に多くの傑作を生み出し、取材中に若くして命を落とした。

1966年のピューリッツァー賞を受賞した「安全への逃避」をはじめ、澤田教一が残した写真の数々を紹介。

展示室IK 太宰治を取り巻く画家達—太宰生誕100年を前に

2009年に生誕100年を迎える太宰治と交流のあった本県の画家達(小館善四郎、阿部合成、関野準一郎など)の作品63点を紹介。太宰治は、三兄の圭二が東京美術学校彫塑科で学んでいたこともあり、若い頃から美術に関心が高く、青森中学校時代には画家を志した時期もあったといわれている。小説家として知られるようになってからも、しばしば酔いにまかせて自ら絵筆をとり、画家の友人達と親しく交流していた。

展示室L 2000年後の青森県立美術館—三内丸山遺跡(アートイン三内丸山関連企画)

イタリアのポンペイ遺跡や広島県福山市の草戸千軒町遺跡に触発され「2000年後から見た現代社会」という壮大なテーマをもとに活躍する美術作家、柴川敏之(1966—)。本プロジェクトでは「41世紀の美術館と遺跡」をテーマに、三内丸山遺跡出土の土器や土偶と、化石化した現代のモノ(柴川作品)を、同じ過去の遺物として併せて展示するという試みをおこなった。

*アートイン三内丸山遺跡プロジェクトとは、隣接する日本最大級の縄文集落跡である特別史跡三内丸山遺跡と一体的な芸術文化の発信地として活動（作品の展示、ワークショップ、イベントなど）を行うアートプロジェクト。

展示室 J M O ×A プロジェクト No.6 相馬貞三生誕 100 年記念 相馬貞三と青森の民芸

青森の民芸品を紹介するとともに、青森県における民芸運動の中心的存在であった相馬貞三（1908 - 1989）の活動に焦点をあてた。相馬は、民芸運動の創始者である柳宗悦からの信頼もあつく、民芸の作家たちと深い交流をもち、また、棟方志功の親しい友人でもあった。

相馬の活動を振り返るとともに、青森の伝統工芸品や民芸運動の作家達の作品約 190 点を展示。

協力：青森県民芸協会

展示室 P Q 海外版画特集：人間と社会

「人間と社会」をテーマに、近代ヨーロッパに生きた 3 人の作家による連作版画を紹介。18 世紀後半から 19 世紀前半、ヨーロッパが大きく変動する時代にロンドンで活動したウィリアム・ブレイク（1757 - 1827）。ドイツに生まれ、19 世紀後半から第一次世界大戦終了までを生きたマックス・クリンガー（1857 - 1920）。そして、二つの世界大戦を経験したケーテ・コルヴィッツ（1867 - 1945）。それぞれの時代に真摯に向き合った作家たちが作品に込めた想いを探った。

冬のコレクション展：特集 色彩の魔術師たちの饗宴—マティス、清宮質文、池田満寿夫—

2009 年 1 月 1 日（木） - 4 月 5 日（日）

開催日数：90 日間

※ 以下、展示替えの行われた展示室のみ記載

棟方志功展示室 海外への旅、風景の発見

棟方志功は 1959 年 1 月、アメリカのロックフェラー財団とジャパン・ソサエティの招きにより初めて渡米、1 年近くに及ぶ海外への旅は棟方にとって非常に印象深く収穫の多いものとなった。その後も 1965 年、1967 年、1974 年と、棟方は生涯で合わせて 4 度アメリカへ旅している。1972 年にはインドへも旅行しており、海外の風景や自身が受けた感動をもとに数々の作品を制作。また、国内においても全国各地を旅しており、旅先の風景を板画や油絵に制作し紀行文も残した。

海外で制作された板画やリトグラフ、国内を旅して描いた風景画を中心に紹介。

展示室 H ×A プロジェクト No.7 鈴木理策 —青森県立美術館をめぐる旅

写真家、鈴木理策（1963 - ）は、青森県立美術館の設計者である青木淳の依頼により、開館前の美術館を計 5 回訪れ、多くのシャッターを切った。それらは単なる「建築写真」や「1 枚の作品」という概念を越え、鈴木理策という作家の存在が強く刻み込まれた、「場」、そして「意識」の連続する物語性を強く持っている。青森という地域と美術館という建築の関係性を鈴木木の視点で表現したロードムービー的な連作とも言えるであろう。

本プロジェクトでは、それら青森県立美術館の写真を、被写体となった空間の中に展示するという入れ子構造的な構成によって、現実と虚構の問題、そして県立美術館とは何か、写真とは何かというメタ的かつ自己言及的な問いかけを行った。

展示室 I J K 今和次郎 船にのる

「考古学」に対して、“人類の現在”を観察・記録する「考現学」を提唱したことで知られる今和次郎（1888 - 1973）。彼が 1930（昭和 5）年 3 月から翌年 1 月にかけておこなった初の海外（ヨーロッパ、アメリカ）視察旅行に関する資料を特集で紹介。

和次郎は約 10 ヶ月間にわたる旅行中、妻とし子夫人に宛てて 370 枚余りの絵葉書を送り、市井の人々の姿を『欧州紳士淑女以外』と題したスケッチに描き、そしてベルリンで購入した最新式のカメラを使って、各都市の表情を膨大な量の写真に残した。

協力：工学院大学図書館、荻原正三

展示室 L 近藤悠三：ペルシャの青

近藤悠三（1902－1985）は京都に生まれ、1977年、染付の技法で無形重要文化財保持者（人間国宝）の認定を受け、日本の陶芸界に大きな足跡を残した。その作風は豪放、雄勁で、自然の草木果実や風景などのモチーフを絵画的な筆致と濃淡の諧調によって表現することを得意とし、まさに器胎の素地をキャンバスにダイナミックな画筆を振るうがごとくである。

当館は、近藤悠三と親交があった八戸市出身の故中村正信氏から、1996年度に94件（150点）に及ぶ寄贈を受けており、近藤悠三の一大コレクションを有している。その中村コレクションの中から、直径70cmを超える大皿「梅染附金彩大皿」をはじめ、花瓶、壺など主要な作品を3期に分けて紹介。

展示室 M P Q 色彩の魔術師たちの饗宴 —マティス、清宮質文、池田満寿夫—

美術作品が「目に見える世界をそのまま描くこと」ことから解放されると、画家たちはそれぞれ個性的な色で自分だけの表現を作り上げていった。今回は、その作品の美しさから「色彩の魔術師」と呼ばれる版画家たちの作品を展示。

アンリ・マティス（1869－1954）の『ジャズ』では、色と形によるリズムカルな世界を、清宮質文（1917－1991）の詩的な雰囲気と、透明感のある色彩を、池田満寿夫（1934－1997）のシュールレアリスティックな雰囲気と、鮮やかな色遣いが織りなすそれぞれの世界を紹介した。

展示室 O 成田亨：未展示作品を中心に

成田亨は新制作展を舞台に彫刻家として活躍する一方、映画「ゴジラ」（1954年）を皮切りに特撮美術の仕事も多数手がけた。代表作となったウルトラシリーズ以外にも、TV「マイティジャック」（1968年）や「突撃！ヒューマン!!」（1972年）に登場するヒーロー、メカニックのデザイン、映画「新幹線大爆破」（1975年）、「麻雀放浪記」（1984年）などの特撮美術でも広く知られている。

「ウルトラQ」（1965年）、「ウルトラマン」（1966年）、「ウルトラセブン」（1967年）に登場した名怪獣たちと、番組を彩る多彩なメカニックのデザイン原画の中から、これまで未展示の作品を中心に紹介。

展示室 O 前室他 石井康治：詩・季・彩 — アンコール

夏のコレクションで好評を博した石井康治の作品を、アンコールに応え、常設展示スペースの随所に再び展示。150点余の寄託作品のうち、未公開作品10点を紹介した。

学芸

美術資料収集

美術資料貸出状況

作品保存修復

凡例

- 1 「美術資料収集」における作品データは、作家名、作品名、制作年、寸法（高さ × 縦 × 横、cm）、技法、収集区分の順に記した。
- 2 「美術資料貸出状況」における作品データは、作家名、作品の順に記した。

美術資料収集

平成 20 年度収集美術資料

小館善四郎
おべんきょう
1945 - 46
53.0×65.0
キャンバス・油彩
寄贈

針生鎮郎
ぼうず(さり)
1962
162.0×130.3
キャンバス・油彩
寄贈

小館善四郎
小寒稲穂
1977
46.0×54.0
キャンバス・油彩
寄贈

針生鎮郎
ぼうず(さた)
1962
162.0×130.3
キャンバス・油彩
寄贈

小館善四郎
俱子像
1948
31.0×40.0
キャンバス・油彩
寄贈

小館善四郎
れもと胡桃
不明
21.0×26.0
キャンバス・油彩
寄贈

小館善四郎
少女
1945 頃
15.0×18.0
紙・鉛筆、水彩
寄贈

小館善四郎
少女
1945 頃
24.0×24.0
紙・鉛筆
寄贈

小館善四郎
すずらん
不明
14.5×6.2
ガラス絵
寄贈

針生鎮郎
ぼうず(かち)
1962
162.0×130.3
キャンバス・油彩
寄贈

- ・成田亨「ゴモラ決定稿」
- ・成田亨「ゴルゴス」
- ・成田亨「ザラブ星人」
- ・成田亨「ザンボラー」
- ・成田亨「ジャミラ」
- ・成田亨「スフラン」
- ・成田亨「セミ人間」
- ・成田亨「セミ人間頭部」
- ・成田亨「ダダ」
- ・成田亨「チブル星人」
- ・成田亨「ドドンゴ」
- ・成田亨「ドラコ決定稿」
- ・成田亨「ドラコ初稿」
- ・成田亨「バゴス」
- ・成田亨「バド星人」
- ・成田亨「バルタン星人決定稿」
- ・成田亨「ピラ星人決定稿」
- ・成田亨「ブラチク星人」
- ・成田亨「ブルトン」
- ・成田亨「ブルトン」
- ・成田亨「ベムラー」
- ・成田亨「ベムラー（ウルトラマン）初稿」
- ・成田亨「ベル星人」
- ・成田亨「ボール星人」
- ・成田亨「ボスタング」
- ・成田亨「ミクラス」
- ・成田亨「メトロン星人」
- ・成田亨「メフィラス星人」
- ・成田亨「ラゴン」
- ・成田亨「レッドキング」
- ・成田亨「ワイルド星人」
- ・成田亨「人工生命 M1 号決定稿」
- ・棟方志功「赤富士の柵」
- ・棟方志功「勝鬘譜善知鳥版画曼陀羅」
- ・棟方志功「摩那那発門多に建立すの柵」
- ・棟方志功「賜顔の柵」
- ・棟方志功「富嶽大観々図」
- ・棟方志功「花矢の柵」
- ・棟方志功「鶯囀の柵」
- ・棟方志功「瘋癲老人日記板画柵屏風」
- ・棟方志功「大印度の花の柵」
- ・棟方志功「青森山之神図」
- ・棟方志功「御吉祥大辨財天御妃尊像図」
- ・棟方志功「angeles (A)」
- ・棟方志功「angeles (B)」
- ・棟方志功「御三尊像図」
- ・棟方志功「円融無碍頌女人觀世音図」
- ・棟方志功「貴理寿渡の柵」
- ・棟方志功「黒富士の柵」
- ・棟方志功「金富士の柵」
- ・棟方志功「幻想板画柵」

冬の展示 文学の世界—文学作品から生 まれた板画

貸出先

- ・財団法人棟方志功記念館

展示施設（会期）

- ・財団法人棟方志功記念館
(09 / 1 / 1 - 09 / 3 / 29)

貸出点数：4

作品名

- ・棟方志功「哀父頌 胸傷の柵」
- ・棟方志功「哀父頌 榊接の柵」
- ・棟方志功「幻想板画柵」
- ・棟方志功「鍵板画柵 全 59 柵」

作品保存修復

保存管理

展示・保管している美術資料の公開と保存を両立させるため、温湿度等の空調や照度の調整、粉塵・有害ガス・虫菌害等の定期的な環境調査の実施などにより展示・収蔵環境を管理している。

また、日常的な点検に基づき、必要に応じて収蔵作品等のマット装や表装・額装の改善、保存箱の作成、専門家による調査・保存処置等を行った。さらに、基本データの整理、写真撮影による画像データの記録をおこなった。

教育普及

普及プログラム

スクールプログラム

アートイン三内丸山遺跡プロジェクト

サポートスタッフ

メンバーシッププログラム

普及プログラム

概要

平成20年度の普及プログラムは、鑑賞支援のためのプログラムとして、夏休みと冬休み期間中の小学生を対象にギャラリートークを行うギャラリートour及び当館学芸員等が西洋美術史をテーマに解説する講義形式の「アート入門」等、また、創作支援のためのプログラムとして、アーティストと交流しながら創作活動を行う「ワークショップ」及び工芸作品に使われる素材に注目した「創作工房」等、そして、鑑賞及び創作支援のためのプログラムとして、当館の所蔵作品に関連したテーマを設定し、作品鑑賞の後に創作活動を実施する「オープンアトリエ」を実施した。

鑑賞支援のためのプログラム

1 夏休み・冬休み子どもギャラリートour

概要：学校の夏休みと冬休み期間中、来館した子どもや親子を対象に、当館ファシリテーター（学校団体の鑑賞指導を主として行う専門スタッフ）による鑑賞ツアーを実施した。

対象：6～12歳 各回15人及びその保護者

場所：常設展示室

(1) 夏休み子どもギャラリートour

日時：2008年7月22日（火）～8月3日（日）（12日間）

11：00～12：00、14：00～15：00

参加者数：285人

※7月28日は休館日のため実施しなかった。

(2) 冬休み子どもギャラリートour

日時：2008年12月20日（土）～24日（水）（5日間）

11：00～12：00、14：00～15：00

参加者数：18人

2 アート入門

概要：「西洋美術史入門」をテーマに、当館学芸員等が映像を交えながら解説する講座。5月から月1回、13：30～14：30（8月のみ13：30～15：00）に開催した。

対象：一般 各日220人

場所：シアター

(1) ギリシア・ローマの美術－西洋美術の源泉

講師：池田亨（当館学芸員）

開催日：2008年5月25日（日）

参加者数：52人

(2) 中世ヨーロッパの美術

講師：高橋しげみ（当館学芸員）

開催日：2008年6月8日（日）

参加者数：67人

(3) ルネサンスの美術

－レオナルド・ダ・ヴィンチの手稿をめぐる

講師：三好徹（当館学芸員）

開催日：2008年7月13日（日）

参加者数：51人

(4) 大ナポレオン展関連特別講座

ジャック＝ルイ・ダヴィットー美術界のナポレオン？

講師：阿部成樹氏（山形大学准教授）

開催日：2008年8月10日（日）

参加者数：66人

(5) 17世紀の美術－フェルメールとレンブラントを中心に

講師：菅野晶（当館学芸員）

開催日：2008年9月23日（火・祝）

参加者数：51人

(6) 印象派からキュビズムへ－色彩から読み解く近代絵画

講師：橋本まゆ（当館エディター）

開催日：2008年10月12日（日）

参加者数：36人

(7) 今和次郎、江口隆哉が見た近代ヨーロッパ

講師：板倉容子（当館学芸員）

開催日：2008年11月9日（日）

参加者数：25人

(8) 芸術の実験物語

－実は分かりやすく面白く、現代美術の世界

講師：工藤健志（当館学芸員）

開催日：2008年12月14日（日）

参加者数：33人

3 建築の見方

概要：当館を設計した青木淳の建築の魅力についてのスライドレクチャー及び当館の建築の見どころを講師と共にまわる美術館見学ツアーを実施した。

(1)「建築×アート＝青木淳」

講師：保坂健二郎氏（東京国立近代美術館研究員）

日時：2009年2月28日（土）13：00－14：30

場所：シアター

対象：高校生以上 120人

参加者数：65人

(2)「美術館見学ツアー」

講師：保坂健二郎氏（東京国立近代美術館研究員）

日時：2009年2月28日（土）15：00－16：00

場所：美術館内

対象：高校生以上 15人

参加者数：15人

創作支援のためのプログラム

1 ワークショップ

(1)「ダンスワークショップ」

コンテンポラリーダンスの演習を通して、日常的な動きが身体表現に変容する面白さを体験する機会を提供した。

講師：近藤良平氏（コンドルズ主宰、振付家、ダンサー）

日時：2008年7月3日（木）19：00－21：00

場所：コミュニティギャラリー

対象：高校生以上 30人

参加者数：30人

(2)「天の川をつくる－綿棒建築ワークショップ－」

「綿棒」の構成による表現を通して、立体造形の創作活動を実施し、後日、完成作品を「天の川」に見立てて展示した。

講師：斎藤麗氏（アーティスト）

日時：2008年7月5日（土）10：00－16：00

場所：ワークショップA

対象：高校生以上 20人

参加者数：17人

展示期間：2008年7月7日（月）－7月13日（日）

展示場所：コミュニティギャラリー

展示入場者数：一般 400人

(3)「木とゴムで小屋を作ろう」

細長い棒状の杉の木をゴムにより固定し、参加者が共同で大きな小屋を制作する機会を提供した。

講師：あおもり木製玩具研究会わらはんど

日時：2008年8月2日（土）13：00－15：00

場所：屋外創作ヤード、ワークショップB

対象：6歳以上 20人

参加者数：37人

(4)「怪獣箱をつくろうー箱式ワークショップ」

立方体の箱に怪獣を描いて、オリジナルの箱型アートの創作活動を実施した。

講師：オオクラテツヒロ（アートユニット箱式）

日時：2008年8月17日（日）13：00－15：00

場所：コミュニティギャラリー

対象：4歳以上 40人

参加者数：75人

(5)「NEBUTOLOGY－紙と針金を使った照明作り」

ねぶたの制作技術を応用した、紙と針金による照明の創作活動を実施し、完成作品を展示した。

講師：nosigner氏（プロダクトデザイナー）

協力：内山龍星氏（ねぶた師）

日時：2009年1月10日（土）13：00－16：00

場所：ワークショップA、コミュニティギャラリー

対象：小学4年生以上 30人

参加者数：38人

展示期間：2009年1月11日（日）－1月20日（火）

展示場所：コミュニティギャラリー

(6)「ちぎって、作ろう！青い森と海のいきものたち」

約20種類のカラーパターンの印刷された紙をちぎり動物等を制作後、完成作品を一枚の大きなパネルに貼り付け作品に仕上げる活動を実施した。

講師：きむらだいすけ氏（イラストレーター、絵本作家）

日時：2009年2月1日（日）10：00－15：00

場所：コミュニティギャラリー

対象：3歳以上 80人

参加者数：60人

(7)「窓のあるお家ーカーテンハウスを作ろう」

1枚の大きなシートに、好きなように窓や入口を設け、「カーテンハウス」を制作する活動を実施した。

講師：寶神尚史氏（建築家）

日時：2009年3月1日（日）13：00－17：00

場所：ワークショップA

対象：子どもー大人 20人

参加者数：25人

2 創作工房

美術や工芸作品に使われる素材に注目し、その基礎的な知識や創作技法について学ぶ「創作工房」を開催した。

(1)「陶芸ーガラスを使って①」

土とガラスという性質の異なる素材を用いた創作活動を通して、素材と表現の密接なつながりについて考察した。

講師：鶴見弥生氏、坂本羊子氏、高橋由佳氏（陶芸作家）

日時：2008年7月27日（日）10：00－16：00

場所：三内丸山遺跡体験学習室

対象：中学生以上 20人

参加者数：18人

(2) 「陶芸ーガラスを使って②」

講師：鶴見弥生氏、坂本羊子氏、高橋由佳氏（陶芸作家）

日時：2008年8月3日（日）10：00－12：00

場所：三内丸山遺跡体験学習室

対象：中学生以上 20人

参加者数：18人

(3) 「津軽塗ーいろんなものに漆を塗ってみよう①」

身のまわりにある津軽塗にしたいものを持ち寄り、職人の指導のもと、漆塗の創作体験の機会を提供した。

講師：Tsugaru Urushi Spirit 合同会社

日時：2008年10月4日（土）10：00－15：00

場所：ワークショップB

対象：一般 20人

参加者数：16人

(4) 「津軽塗ーいろんなものに漆を塗ってみよう②」

講師：Tsugaru Urushi Spirit 合同会社

日時：2008年10月11日（土）10：00－15：00

場所：ワークショップB

対象：一般 20人

参加者数：15人

(5) 「津軽塗ーいろんなものに漆を塗ってみよう③」

講師：Tsugaru Urushi Spirit 合同会社

日時：2008年10月18日（土）10：00－15：00

場所：ワークショップB

対象：一般 20人

参加者数：15人

3 学校連携プログラム

1 大学連携

「親子で挑戦ー夏の風物詩！灯籠作り」

竹ひご、紙など身近な素材を使って、色や光の動きや変化を楽しむ回り灯籠作りを実施し、完成後、灯籠を点灯した。

講師：木戸永二氏（青森中央短期大学幼児保育学科助手）

日時：2008年7月26日（土）、7月27日（日）

各日 13：00－15：00

場所：ワークショップA

対象：3歳以上の親子 60人

参加者数：66人

2 スクールプログラム関連

(1) 「nosigner お出かけ講座戸山高校」

「名を名乗らぬ者」「目に見えない物をデザインする者」という意味を持つ nosigner（ノサインナー）として活動を行う講師が、美術科の学生に対してレクチャーを行った。

講師：nosigner 氏（プロダクトデザイナー）

日時：2008年7月8日（火）13：40－15：40

場所：青森県立戸山高等学校

対象：高校3年生

参加者数：25人

(2) 「お出かけ講座弘前高校」

講師のアーティストとの交流のあと、「匂い、音、雰囲気」をキーワードに、A4の紙1枚を用いた制作活動を実施した。

講師：斎藤麗氏（アーティスト）

日時：2008年7月19日（土）9：00－12：00

場所：青森県立弘前高等学校

対象：青森県立弘前高等学校美術部

参加者数：8人

鑑賞及び創作支援のためのプログラム

オープンアトリエ

(1) 「あおり犬とともだちになろう」

奈良美智によるコミッションワーク「あおり犬」を鑑賞後、その友達をイメージさせ、紙粘土や木の枝などを素材とした創作活動を実施した。

日時：2008年4月27日（日）10：30－12：30

場所：ワークショップA、常設展示室

対象：4歳以上 30人

参加者数：35人

(2) 「大きな絵をかこう」

シャガールの舞台背景画「アレコ」を鑑賞後、刷毛やローラー等を用いて、大きな絵の共同制作を実施した。

日時：2008年5月18日（日）10：30－12：30

場所：ワークショップB、常設展示室

対象：4歳以上 30人

参加者数：51人

(3) 「怪獣デザインを考えよう」

成田亨が手がけた「ウルトラマン」シリーズの怪獣デザイン原画を鑑賞後、自分だけの怪獣のデザインする活動を実施した。

日時：2008年6月15日（日）10：30－12：30

場所：ワークショップA、常設展示室

対象：4歳以上 30人

参加者数：35人

(4) 「あおり犬とともだちになろう」

日時：2008年7月20日（日）10：30－12：30

場所：ワークショップA、常設展示室

対象：4歳以上 30人

参加者数：17人

(5) 「大きな絵をかこう」

日時：2008年8月24日（日）10：30－12：30

場所：ワークショップA、常設展示室

対象：4歳以上 30人

参加者数：52人

(6) 「怪獣デザインを考えよう」

日時：2008年9月21日（日）10：30－12：30

場所：ワークショップB、常設展示室

対象：4歳以上 30人

参加者数：15人

(7)「あおり犬とともだちになろう」

日時：2008年10月5日(日) 10:30 - 12:30

場所：ワークショップA、常設展示室

対象：4歳以上 30人

参加者数：11人

(8)「大きな絵をかこう」

日時：2008年11月16日(日) 13:00 - 16:00

場所：ワークショップA、常設展示室

対象：4歳以上 20人

参加者数：38人

(9)「素材のふしぎ」

素材の特性に注目しながら常設展示作品を鑑賞した後、油絵具を使って絵の具の質感など、素材の面白さの発見を促した。

日時：2008年12月14日(日) 13:00 - 16:00

場所：ワークショップA、常設展示室

対象：4歳以上 20人

参加者数：33人

(10)「あおり犬とともだちになろう」

日時：2009年1月18日(日) 13:00 - 15:00

場所：ワークショップA、常設展示室

対象：4歳以上 30人

参加者数：21人

(11)「文字をつくる」

本や看板など、様々な場所にある文字を観察し、形の違いなどに着目し、オリジナルの文字を制作する活動を実施した。

日時：2009年2月15日(日) 13:00 - 16:00

場所：ワークショップA、常設展示室

対象：4歳以上 20人

参加者数：19人

(12)「大きな絵をかこう」

日時：2009年3月8日(日) 13:00 - 16:00

場所：ワークショップA、常設展示室

対象：4歳以上 20人

参加者数：34人



p44 夏休み子どもギャラリーツアー



p45 建築の見方 (1)「建築 × アート=青木淳」



p45 ワークショップ (2)「天の川をつくる-綿棒建築ワークショップ-」



p45 ワークショップ (3)「木とゴムで小屋を作ろう」

スクールプログラム

概要

未来の青森県を担う感性豊かな人材を育成するためには、多くの子どもたちに対して、優れた美術作品に出会い本物が持つ素晴らしさを体験し、ふるさと青森の芸術文化や先人を学ぶ機会を提供することで、郷土に対する誇りが持てる鑑賞指導を行うことが極めて重要である。

このため、子どもたちが居住地域や家庭環境の違いの影響を受けずに、級友と語り合いながら発達段階に応じた深さで等しく学ぶ機会を提供する学校教育の場を活用して、児童・生徒、教育関係者を対象に、鑑賞指導、研修会、鑑賞教材開発等の多様な事業を行うスクールプログラムを実施した。

鑑賞プログラム（学校団体の受入れ）

多くの子どもたちが優れた美術作品に接し、豊かな感性や能力を伸ばす機会として、学校団体の来館を積極的に受け入れている。特に、作品を見て子どもたちが感じたことや考えたことを大切に、言葉で伝え合うことを通して、主体的に鑑賞する能力を育むことを重視したギャラリートークに力を入れている。また、作品鑑賞から感じたことを創作を通じて表現してもらう「鑑賞＋創作プログラム」を新設した。

鑑賞プログラムのメニュー：

ギャラリートークコース、自由鑑賞コース、鑑賞＋遺跡見学プログラム、鑑賞＋創作プログラム、オリジナルプログラム（学校の自主企画）

月	常設展 (人数)	企画展 (人数)	団体数					
			合計	幼	小	中	高	特
4月	487	31	9	0	4	5	0	0
5月	1,044	160	19	0	7	7	4	1
6月	1,895	0	38	1	28	6	3	0
7月	990	22	20	0	6	10	1	3
8月	340	285	7	0	3	3	1	0
9月	1,821	544	23	0	13	7	3	0
10月	1,174	542	22	0	13	6	2	1
11月	262	0	11	0	6	4	0	1
12月	288	0	3	0	2	1	0	0
1月			0					
2月			0					
3月			0					
合計	8,301	1,584	152	1	82	49	14	6

合計 152 団体 9,885 人

お出かけ講座

県内各地の学校に出向き、当館の特徴やコレクション作品にまつわるエピソードの紹介、鑑賞教材「アートカード」を使ったゲームによる鑑賞体験を行ったほか、アーティストによるワークショップも行うなど、来館の難しい学校の児童生徒等に対して美術に親しむ機会を提供した。

実施日	学校名	人数
7月8日	青森戸山高等学校	25
7月19日	弘前高等学校	8
9月5日	五所川原市立五所川原小学校	87
9月5日	弘前市立弘前北小学校	116
10月16日	五戸町立五戸小学校	96
11月5日	十和田市立三本木小学校	116
11月11日	青森市立戸山西小学校	94
11月12日	三沢市立淋代小学校	22
11月19日	南部町立向小学校	76
11月20日	青森市立浪岡北小学校	69
11月27日	鯉ヶ沢町立鯉ヶ沢第二中学校	34
12月1日	青森市立篠田小学校	57
12月2日	西目屋村立西目屋中学校	40
12月4日	板柳町立小阿弥小学校	50
1月16日	大鰐町立大鰐小学校	50
1月22日	五所川原市立飯詰小学校	52
2月6日	青森市立野内小学校	36
2月9日	八戸市立鯨中学校	94

合計 1,122 人

アートカード

図工・美術の授業及びクラブ活動などの学校教育活動で気軽に使用できる鑑賞教材として、棟方志功、奈良美智、鷹山宇一、豊島弘尚等、本県ゆかりの作家の作品や三内丸山遺跡出土遺物などを50点にまとめた「アートカード」を制作し、平成19年度から県内9施設において学校への貸出しを行っている。

また、利用促進を図るため、当館主催の教職員研修会、県総合学校教育センターや市町村教育委員会主催の教員研修会において、アートカードを使ったゲームを体験する演習を行った。

貸出し実績：17校

貸出し窓口	所在地	電話番号
青森県立美術館	青森市安田字近野 185	017-782-1919 fax 783-5244
青森市教育研修センター	青森市栄町 1-10-10	017-743-4900 fax 743-4919
つがる市生涯学習交流センター「松の館」	つがる市木造若緑 52 (つがる市教育委員会指導課)	0173-42-5532 fax 42-5542
五所川原市立図書館	五所川原市字栄町 119	0173-34-4334 fax 34-3256
弘前市教育研究所	弘前市末広 4-10-1	0172-26-4802 fax 26-2250
十和田市民図書館	十和田市西 13 番町 2-8	0176-23-7808 fax 25-3838
むつ市立図書館	むつ市中央 2 丁目 3-10	0175-28-3500 fax 28-3400
北通り総合文化センター「ウイング」	大間町大字大間字内山 48-164	0175-32-1111 fax 37-5110
八戸市美術館	八戸市番町 10-4	0178-45-8338 fax 24-4531

教員研修

美術館と連携した鑑賞教育について教員の理解を深めるため、当館のコレクションや鑑賞指導法（アートカードの活用等）などをテーマに、当館主催の研修会、県総合学校教育センター及び市町村教育委員会との連携講座、並びに図工美術等教科研究団体や学校の要請による出前講座等を実施した。

主催	月日	研修講座の名称	会場	人数
県立美術館	7月29日(火)	教職員「ティーチャーズ・デイ」 (スクールプログラム概要、ギャラリートーク、夏のコレクション展、大ナポレオン展鑑賞)	県立美術館	15
	7月30日(水)			32
	1月8日(木)	教職員「ティーチャーズ・デイ」 文科省奥村調査官講演+作品鑑賞		13
	1月9日(金)	教職員「ティーチャーズ・デイ」 アートカード演習+作品鑑賞		8
県・市町村教育委員会と連携	7月31日(木)	青森県総合学校教育センターと共催 初任者研修(小・中学校) 教職一般研修講座	◇	66
	8月12日(火)	青森市教育委員会と共催 (教職員初任者研修講座)	◇	14
	10月9日(木) -10日(金)	青森県総合学校教育センターと共催 図画工作・美術科教育講座【鑑賞】 -美術館と連携した鑑賞指導の在り方-	県立美術館と 県総合学校教育センター	24
教育研究団体等と共催	6月30日(月)	東津軽郡小中学校教頭研修会 (美術館の活用方策等)	県総合社会教育センター	20
	8月5日(火)	青森市小学校図画工作科研究会 (夏季講習会)	県立美術館	110
	8月12日(火)	青森市長島小学校現職教育研修会	◇	18
	8月21日(木)	青森市立後潟小学校現職教育研修会	◇	14
	9月10日(水)	下北教育事務所館内教員研修会	むつ市菜さい館	35
	11月14日(金)	お出かけ教員研修(鶴田中学校)	鶴田中学校	40
	11月26日(水)	東津軽郡小中学校教頭研修会 (美術館の活用方策等)	県立美術館	13
	1月6日(火)	青森市小学校教員研修会	青森市内小学校	66

合計 488人

学校連携プログラム推進委員会

スクールプログラムを円滑に進め、児童生徒の鑑賞を効果的に進める観点から、プログラムの企画・運営・鑑賞教材の作成、学校への周知・鑑賞ツアー促進等について検討し協力する「学校連携プログラム推進委員会」を設置し、運営した。

日時：2008年5月21日(水) 13:00 - 15:30

場所：青森県立美術館会議室

次第：1 平成19年度活動実績について

2 平成20年度事業概要について

教育普及事業の体系、美術館スケジュール、スクールプログラム改善点、アートカードを利用した鑑賞授業案等

3 その他

委員：中村泰子(県学校教育課主任指導主事)

成田昌造(県学校教育課主任指導主事)

横山修(県文化財保護課総括主幹)

杉本光世(県総合学校教育センター指導主事)

木村優(青森市教育委員会主任指導主事)

藤田澄生(弘前市教育委員会指導主事)

戸来忠雄(八戸市総合教育センター副所長)

丹野隆之(八戸市教育委員会指導主事)

中谷則子(青森市立西田沢小学校長)

小塚紀子(青森市立浪打小学校教諭)

佐々木健(弘前市立第一中学校長)

山内久(つがる市立稲垣中学校教頭)

奈良佳彦(青森市立造道中学校教諭)

川口克徳(県立青森戸山高等学校長)

前田留実(県立青森戸山高等学校教諭)

菊谷哲(県立黒石商業高等学校教諭)

大島光子(八戸工業大学第二高等学校長)

岩淵宏子(県立青森第二高等養護学校教諭)

鷹山ひばり(七戸町立鷹山宇一記念美術館長)

中野渡一耕(十和田市現代美術館館長補佐)

山内智(青森県立郷土館副参事)

山田泰子(八戸市美術館副参事)

日沼禎子(国際芸術センター青森学芸員)

佐藤直樹(青森県立美術館事務局長)

ファシリテーターの育成

学校団体鑑賞ツアーで来館した児童・生徒の鑑賞指導に当たるファシリテーター(観る人自身の理解を促す人)を配置・養成し、多くの学校団体の受入・指導を行った。

平成20年度3月末現在：11人

県教育委員会との連携

県教育委員会と連携して「アレコレドキドキ体験事業：こども美術館体験事業」を実施した。

事業主体：県教育委員会学校教育課

実施期間：平成19年度から平成20年度までの2年間

事業概要：

子どもたちの情操を養い、郷土への愛着や歴史への理解を深めるとともに、豊かな人間性を育むため、本物の芸術作品や文化遺産に触れる機会を提供することが重要であるとし、「こども美術館体験事業研究指定校」6校を指定し、地域や学校、児童の実態を踏まえ、他の学校のモデルとなる、県立美術館等を利用した体験活動を行った。

平成20年度活動事例

学校名	学年	児童数	活動概要
青森市立造道小学校	2	99	9月16日来館：美術館にてギャラリートークと創作活動「怪獣を考えよう」、三内丸山遺跡にてまが玉作り体験
五所川原市立五所川原小学校	1	87	9月5日「お出かけ講座」：美術館紹介、あもり犬について、創作活動「あもり犬と遊んでいる自分」 9月25日来館：ギャラリートーク、創作活動「ともだちいっぱいあもり犬」
弘前市立北小学校	4	116	9月5日「お出かけ講座」：アレコについて、舞台背景画を考える 9月26日来館：ギャラリートーク、創作活動「舞台背景幕を描こう」
十和田市立三本木小学校	4	116	11月5日「お出かけ講座」：美術館紹介、奈良美智について 11月18日来館：ギャラリートーク、スケッチ帰校後に、創作活動「自分たちのおもり犬」
むつ市立第一田名部小学校	5	90	アートカードによる事前学習 9月11日来館：美術館にてギャラリートーク、三内丸山遺跡にてまが玉とミニ土偶作り体験
五戸町立五戸小学校	6	96	10月16日「お出かけ講座」：美術館紹介、アートカード 10月30日来館：ギャラリートーク、創作活動(鑑賞した作品の特徴を生かして絵を描く)帰校後に、友達作品の鑑賞

印刷物

スクールプログラムの周知及び活用促進のため、また、児童生徒配付用鑑賞補助資料として、以下のものを作成した。

- 1 教員用スクールプログラム利用ガイドブック
- 2 館内マップ（小学校低中学年向け）
- 3 青森県立美術館ガイドブック（小学校高学年・中学生向け）

アートイン三内丸山遺跡プロジェクト

概要

2010年の東北新幹線新青森駅開業、県内縄文遺跡群の世界遺産登録を目指す運動を踏まえ、隣接する三内丸山遺跡と県立美術館が一体的な魅力ある芸術・文化・観光の拠点であるとアピールすることを目的としたアートプロジェクト。事業期間は平成19年度から2年間。

平成20年度は、「2000年後から見た現代」をテーマに制作活動が続いている柴川敏之氏（美術作家・福山市立女子短期大学准教授）を招き、美術館と三内丸山遺跡一帯を「41世紀の美術館と遺跡」に見立てて、柴川作品と三内丸山遺跡出土品とを関連づけた展示やワークショップ等を中心にプロジェクトを展開した。

タイトル：

柴川敏之 | 2000年後の未来遺跡 | 三内まるごとミュージアム
2000年後の青森県立美術館—三内丸山遺跡

会期：2008年9月23日（火・祝）—12月24日（水）

会場：青森県立美術館、三内丸山遺跡（縄文時遊館、三内丸山遺跡展示室）

展示

青森県立美術館と三内丸山遺跡の一体的なイメージを創り出すため、柴川敏之制作の「2000年後の発掘現場（ストーンサークル）」を想起させる作品や、現代の日用品を2000年後の遺物に見立てて制作された作品の数々を、美術館、縄文時遊館及び三内丸山遺跡展示室において縄文遺物やコレクション展展示作品等とともに展示した。また、美術館と遺跡をつなぐ園路沿いにノボリ150本を設置した。

入場者数：青森県立美術館 17,639人、縄文時遊館 66,932人、三内丸山遺跡展示室 18,109人

ワークショップ、イベント等

(1) キャンプ・ワークショップ+ナイト・ミュージアム〈2000年後の縄文キャンプと夜の美術館探検ツアー〉

日時：2008年9月27日（土）13:00—28日（日）13:00（1泊2日）

会場：青森県立美術館、縄文時遊館、三内丸山遺跡

講師：柴川敏之、小笠原雅行（青森県教育庁文化財保護課三内丸山遺跡保存活用推進室文化財保護主幹）、浅田智晴（同文化財保護主査）

参加者：小学5年生—中学生 35人

(2) ワークショップ〈2000年後のステンドグラスを作ろう！〉

日時：2008年10月11日（土）13:00—16:30

会場：青森県立美術館ワークショップA、棟方志功展示室

講師：柴川敏之

参加者：3歳—中学生 23人

(3) ワークショップ〈2000年後の未来遺跡を発掘しよう！〉

日時：2008年10月13日（月・祝）13:00—16:00

会場：青森県立美術館展示室、三内丸山遺跡復元大型竪穴住居前

講師：柴川敏之

参加者：3歳—大人 17人

(4) ミニ・ワークショップ〈2000年後のストーンサークルをうつしとろう！〉

日時：会期中の第2・第4日曜日、10月25日（土）、12月23日（火・祝）各10:00—15:00

会場：青森県立美術館チケット売り場

指導：プロジェクト・サポーター

参加者：子ども—大人 346人

(5) ミニ・ワークショップ〈2000年後の未来遺跡を発掘しよう！〉

日時：2008年10月25日（土）、26日（日）各10:00—15:00

会場：三内丸山遺跡（雨天時は縄文時遊館）

指導：プロジェクト・サポーター

参加者：子ども—大人 175人

(6) 公開制作〈2000年後の未来遺跡の制作〉

日時：2008年9月9日（火）—9月26日（金）

会場：青森県立美術館

(7) アーティスト・トーク〈ようこそ、2000年後の美術館へ！〉

日時：2008年9月28日（日）14:00—、10月12日（日）①10:00—②14:00—③17:00—

会場：青森県立美術館

参加者：25人

(8) 公開コラボレーション〈2000年後の相撲ねぶた制作〉

日時：2008年11月23日（日）13:00—17:00、11月24日（月・振休）9:30—17:00

会場：青森県立美術館展示室B

実演：柴川敏之、立田健太（ねぶた師弟子）

見学者：240人

(9) アレコとコラボ〈2000年後のアレコと未来遺跡〉

日時：2008年12月21日（日）—23日（火・祝）

会場：青森県立美術館アレコホール

見学者：254人

(10) ワークシートの配付〈2000年後の探検ワークシート〉
期間：2008年10月25日（土）－12月23日（火・祝）の
土日祝日

参加者：157人

(11) クリスマス特別企画〈2000年後の記念撮影コーナー〉

日時：2008年12月20日（土）－24日（水）

場所：青森県立美術館チケット売り場・棟方志功展示室

(12) 映画上映会〈ちゃんこ〉

日時：2008年11月24日（月・振休）①10：00－②14：00－

会場：青森県立美術館シアター

入場者数：58人

(13) 縄文秋祭りクイズラリー（クイズ付きノボリ作品の活用）

日時：2008年10月25日（土）、26日（日）

参加者：320人

プロジェクト・サポーター（ボランティアスタッフ）の協力

プロジェクト・サポーター：

総計76人（一般：72人、高校生：4人）

内訳（青森県立美術館サポートスタッフ等：20人、三内丸山

応援隊：21人、近隣住民：19人、その他：12人）

延べ人数：約257人（1日約7人参加）



サポートスタッフ

概要

青森県立美術館では、県民が美術館の活動に積極的に参加できるように常に工夫し、「県民と共に活動する」ことを目指している。

その取組の一つとして、美術館の様々な事業等の運営に参加、協力するボランティアを「サポートスタッフ」として募集し、各種イベント運営や、管理事務の補助、環境安全整備等、幅広いボランティア活動の展開を図っている。

(5) 環境安全整備（県立美術館・三内丸山遺跡周辺の草刈等）

活動日数：38日

参加人数：延べ438人

(6) 自主企画イベント実施（おはなし会、自主企画コンサート等）

活動日数：20日

参加人数：延べ92人

募集・登録

募集概要

募集期間：2008年2月22日－3月25日

募集人数：50人程度

応募条件：

- ・満18歳以上（2008年4月1日現在）。未成年は保護者の承諾が必要。
- ・美術館活動に関心があり、積極的に学び、活動する意欲のあること。
- ・美術館に通勤可能なこと。

登録者数：83人（年度末現在）

活動内容

1 研修

基礎研修 4月20日（日）10：00－15：00

内容：平成20年度事業概要及び活動内容説明

「寺山修司劇場美術館展」鑑賞

「九條今日子 × 佐々木英明講演会」聴講

2 サポート活動

(1) 学芸（企画展関連イベント補助）

活動日数：6日

参加人数：延べ25人

(2) 教育普及（アート入門、ワークショップ及びアートプロジェクトの運営補助）

活動日数：47日

参加人数：延べ189人

(3) 舞台芸術（映画上映会、コンサート及び演劇公演補助）

活動日数：31日

参加人数：延べ134人

(4) 運営管理（資料整理等）

活動日数：30日

参加人数：延べ121人

メンバーシッププログラム

概要

当館では、芸術を、より多くの人に身近に楽しんでいただけるような環境づくりを進めるため、会員制度「青森県立美術館メンバーシッププログラム」を設けている。

入会した会員に対して、当館で開催する展覧会やパフォーミングアーツ事業への招待・優待などの特典付与、会員への情報提供などを行うものであり、本年度展開した事業内容は以下のとおりである。

会員証は奈良美智氏と、当美術館のシンボルマーク、ロゴタイプなど、ヴィジュアル・アイデンティティ（VI）を考案した菊地敦己氏のコラボレーションによるもの。

会員カテゴリ

一般会員：3,000円

学生会員：2,000円（学生のためのプログラム）

特別会員：10,000円（一般会員をさらにすすめたプログラム）

コーポレート会員A：50,000円

コーポレート会員B：30,000円

会員数

（2009年3月31日現在）

一般会員：159人

学生会員：9人

特別会員：9人

コーポレート会員B：1人

計 178人

事業内容

（一般会員・学生会員）

美術館事業への優待

- ・常設展観覧料 いつでも無料観覧可
- ・企画展観覧料 企画展無料招待券を2枚配付するほか、いつでも前売料金にて観覧可
- ・上記以外の館内実施プログラム 無料または割引価格で優待（特別会員）

美術館事業への優待

- ・常設展観覧料 いつでも無料観覧可
- ・企画展観覧料 企画展無料招待券を6枚配付するほか、いつでも前売料金にて観覧可
- ・企画展の内覧・開会レセプション等に招待
- ・上記以外の館内実施プログラム 無料または割引価格で優待

（コーポレート会員）

美術館事業への優待

- ・常設展観覧料 会員証の提示により5名（B会員については3名）まで無料観覧可
- ・企画展観覧料 企画展無料招待券を20枚配付
- ・館内及びホームページに法人名を掲示（A会員のみ）
- ・企画展の内覧・開会レセプション等に招待（A会員のみ）

会員への情報提供

- ・年に3-4回、美術館スケジュール等のご案内を送付

特典

- ・館内ミュージアムショップでの商品購入 5%割引（一部商品を除く）
- ・館内カフェでの飲食代 5%割引（一部商品を除く）

各種行事の企画・実施

museum lounge（ミュージアムラウンジ）

会員限定のプログラム。学芸員による鑑賞ツアーや展覧会オープニングセレモニーへの招待など、会員との交流を行うもの。

- ・「夏のコレクション展 鑑賞ツアー」
2008年7月23日（水）、26日（土）
- ・「大ナポレオン展 オープニングセレモニー招待・鑑賞ツアー」
2008年7月30日（水）
- ・「秋のコレクション展 鑑賞ツアー」
2008年9月24日（水）、27日（土）
- ・「小島一郎展 オープニングセレモニー招待・鑑賞ツアー」
2009年1月10日（土）
- ・「冬のコレクション展 鑑賞ツアー」
2009年1月20日（火）、24日（土）

パフォーミングアーツ

演劇

ダンス

音楽

映画

演劇

日韓演劇交流事業 「青森の雨」

概要

1 事業概要

平成19年度に引き続き、今年度は韓国で現在、最も注目を集める劇作家であるパク・グニョン氏（劇団コルモッキル）が脚本を担当し、日韓両国から俳優が出演する。演出は、前出のパク・グニョン氏となり、プロデューサーとして長谷川孝治青森県立美術館舞台芸術総監督が参加。制作された作品は青森、東京、ソウルの3都市で上演し、ソウル公演はソウル公演芸術祭参加となる。上演に際しては「字幕付き」とし、韓国語・津軽弁・英語・共通語など様々な言語が使用された。

また、プレイベントとして劇団コルモッキルが制作する演劇作品（「青春礼讃」）を青森県立美術館シアターにて、上演した。

- ・脚本・演出：パク・グニョン（劇団コルモッキル）
- ・プロデュース
長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）
- ・主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会・青森県立美術館
- ・助成：財団法人 地域創造（青森公演のみ）
財団法人むつ小川原地域・産業振興財団
- ・後援：在日本大韓国民団青森県地方本部、大韓航空青森支店

2 制作概要

日本側の俳優を選考するため、県内から出演者を募り、青森県立美術館においてワークショップ・オーディションを開催し、出演者を選考。青森市で、日韓両国の合同稽古を行った。

(1) ワークショップ・オーディション

①資格

- ・全公演（青森・東京・ソウル公演）に出演可能な方・青森市内で行われる稽古に参加できる方
（稽古日程予定：6月・7月（月2回程度）、8月11日より公演まで毎日の日韓合同稽古、平日は夜間（19時～22時頃まで）、休日は昼間を予定。）

- ※ 稽古会場までの旅費等稽古にかかる諸経費は各自の負担。
- ・18歳以上の方（高等学校在学者を除く）
- ・本公演に関する著作権・肖像権を青森県立美術館に帰属させることに同意する者

②審査員：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

③開催日程：2008年5月17日（土）、18日（日）

④受験者：21名

⑤合格者：5名

(2) 稽古

期間：2008年8月11日（月）～8月29日（金）

場所：8月11日～8月24日：青森市浪岡中世の館

8月24日～8月29日：青森県立美術館シアター

参加者：

日本側：オーディション合格者5名

（木村くに、秋山由美子、長尾秋人、田邊克彦、柴山大樹）

パク・グニョン氏の指名俳優3名

（福士賢治、小笠原真理子、濱野有希）

韓国側：劇団コルモッキル俳優6名

（イ・ギュフェ、キム・ヨンピル、パク・ミンギョ、キム・ジュワン、コ・スヒ、チュ・イニョン）

ほかスタッフ全員

内容：

- ・発声・ストレッチなど基礎練習を通して、参加者に自分の声、体の動きの癖などを自覚してもらうとともに、舞台上立つためのノウハウを習得し、青森県日韓演劇交流事業「青森の雨」に出演する際の参考としてもらう。
- ・翻訳台本を使用し日英韓それぞれの言語を用いての場面ごとの稽古、発音練習。
- ・台本は口立て形式で1日毎に増加・変化する。（作・演出のパク・グニョン氏は、稽古を行う度に口立てを行う。その場で通訳・翻訳の石川樹里氏が翻訳。それを基に稽古を行う。）
- ・本番同様の通し稽古

3 公演概要

（あらすじ）

青森から函館のフェリー待合室。外は嵐。それぞれの理由から出港を待つ人々。彼らは様々な問題を抱えている。その彼らの心が様々な出会いによって変化していく物語。

日時・場所：

・青森公演（青森県立美術館シアター）

2008年8月30日（土）14：00～、19：00～
31日（日）14：00～

・東京公演（ザ・スズナリ）

2008年9月6日（土）14：00～、19：00～
7日（日）14：00～

- ・ソウル公演 (Small hall of Arko Art Theater)
2008年9月23日(火) 16:00 -、19:30 -
24日(水) 16:00 -、アフタートーク
出演：オーディション合格者5名
(木村くに、秋山由美子、長尾秋人、田邊克彦、柴山大樹)
パク・グニョン氏の指名俳優3名
(福士賢治、小笠原真理子、濱野有希)
劇団コルモッキル俳優6名
(イ・ギユフェ、キム・ヨンピル、パク・ミンギユ、キム・
ジュワン、コ・スヒ、チュ・イニョン)

スタッフ：

プロデューサー 長谷川孝治
脚本・演出 パク・グニョン
翻訳 石川樹里
舞台監督 野村眞仁、キム・ヘヨン
照明 中村昭一郎、アン・ソンイル
音響 野村眞仁、ユン・ジョング
舞台美術 鈴木徳人
字幕 イ・ホヨル

料金：

青森公演

一般：2,000円(当日2,500円)
学生：1,000円(当日1,500円)
ペア：3,600円(当日4,000円)

東京公演

一般：3,000円(当日3,200円)
学生：1,500円(当日1,800円)
ペア：5,000円(当日5,500円)

ソウル公演

the 8th soul Performing Arts Festival にて販売

一般：30,000ウォン
学生：20,000ウォン

来場者サービス：

- ・託児サービス
青森公演の開場から終演までの間、子ども1名につき200円で託児サービスを実施。
- ・シャトルバス
夜20時以降終演の公演に限り、1名につき300円で青森県立美術館から青森駅までのシャトルバスの運行を実施。

入場者数

- ・青森公演
8月30日(土) 14:00 - 137人
19:00 - 116人
8月31日(日) 14:00 - 127人
計 380人

- ・東京公演
9月6日(土) 14:00 - 73人
19:00 - 100人
9月7日(日) 14:00 - 74人
計 247人

- ・ソウル公演
9月23日(火) 16:00 - 約80人
19:30 - 約120人
9月24日(水) 16:00 - 約100人
計 約400人

広報宣伝、営業等概要

宣材物として、チラシ、ポスターを作成し、県内文化施設、教育機関等、各商店街等を中心に配布、掲示を依頼した。また、県内各地の舞台芸術イベント等への折り込み、ダイレクトメールの配布を実施した。

東京公演に関しては、チラシ・ポスターを作成し、都内劇場、教育機関、飲食店などに配布。また、都内で開催される舞台芸術イベント等への折込、関係団体顧客へのダイレクトメールの送付を実施した。

また、新聞各社への告知・公演開催の様子の取材依頼、テレビ・ラジオへの告知依頼、県内各広報誌において告知依頼を行ったほか、マスコミ公開稽古及び公開リハーサルを行った。

・宣材物作成枚数：

青森公演用
チラシ(A4版) 15,000枚
東京公演用
チラシ(A4版) 45,000枚
両公演用
チラシ(B3版) 300枚
ポスター(B2版) 100枚

・宣材物配布先：

県内文化施設、県内公立中・高等学校、県内大学・専門学校、青森市・弘前市の中心市街地商店街各店舗、県内大手スーパー、県内各書店へ掲示を依頼。都内劇場、都内飲食店へ掲示を依頼。

・記録：

各公演とも、記録写真撮影、記録映像収録、DVD制作を実施。

・チケット販売：

各公演とも、全国展開としてローソンチケット、チケットぴあに販売を委託。

県内は主要プレイガイド11箇所に販売を委託。

紀伊國屋書店、弘前大学生協、日弘楽器、サンロード青森、さくら野青森店、成田本店しんまち店、青森演劇鑑賞協会、青森県民生協、三春屋、長崎屋、青森県立美術館ミュージアムショップ

プレイベント

青森県日韓演劇交流「青森の雨」のプレイベントとして、劇団コルモッキルの単独公演「青春礼讃」を開催。日頃観ることの少ない韓国の舞台芸術に親しんでもらう機会を作った。

日時：2008年8月7日（木）14：00－

8日（金）14：00－、19：00－

9日（土）14：00－、19：00－

会場：青森県立美術館シアター

料金：一般ペア 3,600円（当日4,000円）

一般 2,000円（当日2,500円）

学生 1,000円（当日1,500円）

入場者数：362人



p56 「青森の雨」上演



p56 「青森の雨」上演

県民参加型演劇事業

「チェーホフさんこんにちは」

概要

1 事業概要

観覧するだけでなく演劇との出会い・感動を体験してもらうことなどを目的として、平成17年度より行っている事業。今年度は俳優のみならず脚本などのスタッフ部門でも参加者を募り、県民と美術館がともに1つの演劇作品を制作した。

- ・脚本：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）
- ・一部脚本：長尾秋人（劇作オーディション合格者）
平間宏忠（劇作オーディション合格者）
- ・構成・演出：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）
- ・舞台美術：ニシザワテツオ（建築家）
- ・主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会・
青森県立美術館
- ・助成：財団法人 地域創造
- ・後援：国立大学法人弘前大学

2 制作概要

県内から出演者を募り、青森市でのワークショップ・オーディションを開催し、劇作家・出演俳優を選考。弘前市・青森市での稽古・リハーサルを行った。

(1) ワークショップ・オーディション

<劇作家の部>

資格：高校生以上（※18歳未満は、保護者の承諾が必要）

選考方法：長谷川孝治青森県立美術館舞台芸術総監督とのディスカッション及びシチュエーションドラマの創作。

開催日程：2008年11月30日

受験者：7名

第1次合格者：3名

第2次合格者：2名

<出演者の部>

資格：高校生以上（※18歳未満は、保護者の承諾が必要）

全公演に参加できる。

弘前市・青森市で行う稽古に参加できる。

選考方法：ワークショップ形式

【舞台上での歩行】

2人一組となり、1人が目をつぶり、もう1人が目的地まで声のみで誘導する。誘導の間に、相手にインタビューをし、誘導後、その相手の良い所などを、プレゼンテーションする。

【身体表現】

帰宅してから、テレビを見始めるまでをマイムで表現。

【ディスカッション】

舞台芸術に関する様々なテーマのもと、オーディション参加者全員でディスカッションを実施。

開催日程：2008年12月6日、7日

受験者：12名

合格者：7名

(2) 稽古

期日：2009年1月18日－2009年3月13日

場所：青森県立美術館、青森市中世の館

内容：舞台稽古

発声・ストレッチなどの基礎練習

台本に基づいて、台詞覚え演出家の指導の下、舞台に立つ

(3) リハーサル

期日：2009年3月14日（土）

場所：弘前大学創立50周年記念会館

内容：音楽・照明も入った稽古

全体リハーサル(本番と同様のタイムテーブルでの稽古)

3 公演概要

(あらすじ)

ロシア出身のアントン・チェーホフの4大戯曲の一つである「かもめ」という作品を上演しようとしている地域劇団の稽古場を舞台に、一つの演劇作品を創る「過程」を見せる演劇。

期日：弘前公演－2009年3月15日（日）

青森公演－2009年3月20日（金・祝）、21日（土）

会場：弘前公演－弘前大学創立50周年記念会館

青森公演－青森県立美術館シアター

時間：両公演とも

13:00 受付開始 13:30 開場 14:00 開演

出演：太田歩、小笠原真理子、齊藤知代子、佐藤玲奈、永井浩仁、長谷川等、濱野有希、林久志、平塚麻似子、福士賢治、藤島和弘、本間正子、三浦成喜、三明智顕

脚本・総合演出：長谷川孝治青森県立美術館舞台芸術総監督

一部脚本：長尾秋人・平間宏忠

料金：ペア 3,600円（当日4,500円）

一般 2,000円（当日2,500円）

学生 1,000円（当日1,500円）

来場者サービス：託児サービス

青森公演の開場から終演までの間、子ども1名につき200円で託児サービスを実施。

入場者数：弘前公演 145人

青森公演 150人

広報宣伝、営業等概要

宣材物として、チラシ、ポスターを作成し、県内文化施設、教育機関等、各商店街等を中心に配布、掲示を依頼した。また、県内各地の舞台芸術イベント等への折込、ダイレクトメールの配布を実施した。

また、新聞各社への告知・公演開催の様子の取材依頼、テレビ・ラジオへの告知依頼、県内各広報誌において告知依頼を行ったほか、マスコミ公開稽古及び公開リハーサルを行った。

・宣材物作成枚数：

チラシ（A4版） 15,000枚

（B3版） 250枚

ポスター（B2版） 250枚

・宣材物配布先：

県内文化施設、県内公立高等学校、県内大学・専門学校、青森市・弘前市の中心市街地商店街各店舗、県内大手スーパー、県内各書店

・チケット販売：

各公演とも、全国展開としてローソンチケットに販売を委託。県内は主要プレイガイド10箇所に販売を委託。

紀伊國屋書店、弘前大学生協、日弘楽器、弘前市民劇場、サンロード青森、さくら野青森店、成田本店しんまち店、青森演劇鑑賞協会、三春屋、青森県立美術館ミュージアムショップ

・記録：

各公演とも、記録写真撮影、記録映像収録、DVD制作を実施。



p58 「チェーホフさんこんにちは」上演



p59 「チェーホフさんこんにちは」上演

ダンス

ダンスアレコ青森バージョン制作事業

概要

新幹線開業時である平成 22 年度に青森県立美術館の恒久的な演目として『Dance Aleko AOMORI』を制作し且つ長期的に上演することを目的に、県内のダンスカンパニー 6 団体と長谷川孝治青森県立美術館舞台芸術総監督が、本館が所蔵するバレエの背景画「アレコ」の原作であるアレクサンドル・プーシキン作「ジブシー」をテーマに実験的なダンス作品を計 6 本上演するプロジェクト。

今年度は 3 団体のカンパニーと制作を行ったほか、作品制作及び上演の過程で、随時適材を選抜し、22 年度に向けた出演交渉を行った。

- ・脚本：アレクサンドル・プーシキン「ジブシー」
- ・構成・演出：長谷川孝治（県立美術館舞台芸術総監督）
※ ダンスアレコ青森Lab#3については監修
- ・主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会・青森県立美術館
- ・助成：財団法人 地域創造

1 Dance Aleko Aamori Lab' # 1

シャガールの舞台背景画「アレコ」の原作である『ジブシー』を、県内で活躍する若手実力派のストリートダンサー 7 名が、舞台を現代の street に移し、『その後のアレコ』と『現代版アレコ』の物語を展開し、大胆な脚色で上演した。

日時：2008 年 6 月 28 日（土）・6 月 29 日（日）

両日とも ① 13：30 開場 14：00 開演

② 18：30 開場 19：00 開演

（上演時間 90 分）

会場：青森県立美術館シアター

構成・演出：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

振付：“wandere” from FUNKY STADIUM

出演：NOBUO（スタイル：POP）、MAKOTO（スタイル：HIP HOP）、YUKITOMO（スタイル：HIP HOP）、YU-SUKE（スタイル：HIP HOP/Krap）、MASAKI（スタイル：HOUSE）、TAKA（スタイル：HIP HOP/REGGAE）、NAO（スタイル：LOCK）

ナレーション：福士賢治、田邊克彦、小笠原真理子

料金（前売り）：

ペア 4,000 円 / 親子 2 名 3,000 円

一般 2,300 円 / 学生 1,000 円

小・中学生 800 円

※ 当日券は小・中学生を除き全て 500 円増し

来場者サービス：

・託児サービス

各公演の開場から終演までの間、お子様 1 名につき 200 円で託児サービスを実施。

・シャトルバス

夜 20 時以降終演の公演に限り、お一人様 300 円で青森県立美術館から青森駅までのシャトルバスの運行を実施。

入場者数

2008 年 6 月 28 日（土）14：00 - 178 人

19：00 - 188 人

2008 年 6 月 29 日（日）14：00 - 181 人

19：00 - 149 人

計 696 人

2 Dance Aleko Aamori Lab' # 2

青森県立八戸東高等学校 表現科 1 年生 25 名とプロのモダンバレエダンサーと一緒にアレコの原作ジブシーの世界を、朗読とダンスで表現した。

また、八戸東高等学校 表現科 1 年生 4 名をプロの舞台スタッフのもとで、舞台監督・照明・音響等の指導を受けさせ、公演の裏方として育成し、公演を実施した。

日時：2008 年 12 月 20 日（土）18：30 開場 19：00 開演

12 月 21 日（日）13：30 開場 14：00 開演

（上演時間 80 分）

会場：青森県立美術館シアター

構成・演出：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

振付：昆賀子モダンダンススタジオ

出演ダンサー：

〈昆賀子モダンダンススタジオ 5 名〉

橋本寛子、昆真千子、矢吹唯、前田一葉、高橋郁

〈青森県立八戸東高等学校表現科第 1 学年 10 名〉

石橋奨也、加藤千尋、工藤麗加、小林彩乃、下館美晴、鈴木彩乃、庭千裕、古川怜奈、三浦ひかる、吉田千秋

出演俳優：

〈青森県立八戸東高等学校表現科 第1学年 15名〉
久慈瑛介、工藤正熙、高屋勇柁、上野由香子、太田智美、大村琴美、小村りさこ、坂本玲菜、清水ひかる、高橋愛理沙、中村那美、福岡五洋、水野奈々実、山岸真維、山田真子

舞台スタッフ：

〈青森県立八戸東高等学校表現科 第1学年 4名〉
鹿野愛里未、高杉紗苗、野崎由衣、藤川京子

料金（前売り）：

ペア 4,000円 / 一般 2,300円
学生 1,000円 / 高校生以下 800円
※ 当日は全て 500円増し

来場者サービス：

・託児サービス

各公演の開場から終演までの間、お子様1名につき200円で託児サービスを実施。

・シャトルバス

夜20時以降終演の公演に限り、お一人様300円で青森県立美術館から青森駅までのシャトルバスの運行を実施。

入場者数

2008年12月20日（土）19：00－ 175人
2008年12月21日（日）14：00－ 185人
計 360人

3 Dance Aleko Aamori Lab' # 3

国内外で活躍する県内在住のプロのフラメンコダンサーと、ギター・ヴァイオリン・パーカッションの生演奏、生のボーカル（カンタオーラ）が、シャガールの舞台背景画「アレコ」の原作である『ジブシー』の登場人物が繰り広げる、恋・喜び・嫉妬・狂気・悲壮を表現した。

日時：2009年1月31日（土）18：30開場 19：00開演
2月1日（日）13：30開場 14：00開演
（上演時間 70分）

監修：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

振付：津島美代子、ベニート・ガルシア

出演：バイラオーラ：津島美代子

バイラオール：ベニート・ガルシア

カンタオーラ：森薫里

ギター：鈴木淳弘

ヴァイオリン：三木重人

パーカッション：今村直人

料金：ダンスアレコ青森 Lab # 2 と同様

来場者サービス：

・託児サービス

各公演の開場から終演までの間、お子様1名につき200円で託児サービスを実施。

・シャトルバス

夜20時以降終演の公演に限り、お一人様300円で青森県立美術館から青森駅までのシャトルバスの運行を実施。

入場者数

2009年1月30日（土）19：00－ 175名
2月1日（日）14：00－ 203名
計 378名

広報宣伝、営業概要等

宣材物として、チラシ、ポスターを作成し、県内文化施設、教育機関等、各商店街等を中心に配布、掲示を依頼した。また、県内各地の舞台芸術イベント等への折込、ダイレクトメールの配布を実施した。

また、新聞各社への告知・公演開催の模様の取材依頼、テレビ・ラジオへの告知依頼、県内各広報誌において告知依頼を行ったほか、マスコミ公開稽古及び公開リハーサルを行った。

・宣材物作成枚数

Lab # 1 チラシ（A4版） 12,500枚
（B3版） 200枚
ポスター（B2版） 100枚
Lab # 2、3 チラシ（A4版） 15,000枚
（B3版） 300枚
ポスター（B2版） 100枚

・宣材物配布先

県内文化施設、県内公私立小中高등학교、県内大学・専門学校、青森市・弘前市・八戸市の中心市街地商店街各店舗、県内大手スーパー、県内各書店、各ダンス教室

・チケット販売：

各公演とも、全国展開としてローソンチケットに販売を委託。県内は主要プレイガイド9箇所に販売を委託。

サンロード青森、さくら野青森店、成田本店しんまち店、紀伊國屋書店、弘前大学生協、日弘楽器、三春屋、長崎屋、青森県立美術館ミュージアムショップ

・記録：

各公演とも、記録写真撮影、記録映像収録、DVD制作を実施。



p60 「Lab' #1」 上演



p60 「Lab' #2」 上演



p61 「Lab' #3」 上演

音楽

概要

青森県立美術館アレコホールに於いて、青森県内外の12人のピアニストによる10回のコンサートを開催した。

当初10回の予定であったが、入場者多数への感謝として、別途「+ a」コンサートを企画、開催した。

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会・青森県立美術館

助成：財団法人むつ小川原地域産業振興財団

日時：期日は下記公演詳細のとおり

各回とも18:30開場 19:00開演

会場：青森県立美術館アレコホール

料金（前売り）：

全公演パス	12,000円
ペア	2,500円（3,000円）
一般	1,500円（1,800円）
大学・高校	1,000円
中学・小学	800円

※（ ）内は当日料金

+ a コンサート料金（前売り）：

一般	1,500円（1,800円）
ペア	2,500円（3,000円）
大学・高校	1,000円
中学・小学	800円

※12人のピアニストによるコンサートチケット及び半券を持っている方には特別料金を設定。

来場者サービス等：

- ・各回とも青森県内の小中学生を先着60名まで招待。
- ・託児サービス
各公演の開場から終演までの間、お子様1名につき200円で託児サービスを実施。
- ・シャトルバス
お一人様300円で青森県立美術館から青森駅までのシャトルバスの運行を実施。

公演詳細・入場者数

期日	演奏家 内容	入場者数
6月21日	今田匡彦 「サティのある空間」 E. サティ「3つのジムノペディ」他	172
7月19日	竹内奈緒美・鈴木愛 「アンサンブルの喜び」 C. ドビュッシー「小組曲」、G. ガーシュイン「3つの前奏曲」他	114
8月16日	宮本香織 「ピアノの叙情詩」 F. シューベルト「ソナタ第10番 イ長調 作品120 (D664)」他	169
9月20日	村田恵理 「秋の夜に漂う音の彩り」 M. ムソルグスキー「展覧会の絵」他	134
10月18日	工藤里砂子 「もう一つのピアニスト」(Sop. 西田典子) A. ベルク「7つの初期の歌」	92
11月15日	内田智子 「晩秋によせて」 R. シューマン「アラベスク 作品18」、C. ドビュッシー「月の光」他	183
12月6日	友田恭子 「モーツァルトのタベ」 W.A. モーツァルト「ソナタ変口長調 KV570」「ソナタニ長調 KV576」他	183
1月17日	佐藤慎悟、由井暁子 「ヴィルトゥオーゾの饗宴」 M. ラヴェル「スペイン狂詩曲」他	127
2月21日	前田美樹 「ドビュッシーの光と影と色彩」 C. ドビュッシー「前奏曲集 第一巻」全曲	139
3月14日	堀内亮 「浪漫の香りを音にのせて」 F. シューベルト「ピアノ・ソナタ第13番 ハ短調 D958(遺作)」	63
2月28日	浅野清、矢野吉晴、佐藤慎悟、由井暁子 + a コンサート 【独奏】 L.V. ベートーヴェン「ソナタ 作品27-2 月光」、F. ショパン「バラード第4番 作品52 ヘ短調」、G. ガーシュイン「ラブソディー・イン・ブルー」 【ピアノ2台】 M. ラヴェル「スペイン狂詩曲」、S. ラフマニノフ「組曲第2番 作品17」	207

合計 1,583人

広報宣伝、営業概要

宣材物として、チラシ、ポスターを作成し、県内文化施設、教育機関等、各商店街等を中心に配布、掲示を依頼した。また、県内各地の舞台芸術イベント等への折込、ダイレクトメールの配布を実施した。

また、新聞各社への告知・公演開催の様子の取材依頼、テレビ・ラジオへの告知依頼、県内各広報誌において告知依頼を行った。

・宣材物作成枚数

<コンサート告知>

チラシ (A4版) 2,600枚

ポスター (B3版) 100枚

(B2版) 200枚

<小・中学生招待告知>

チラシ 20,000枚

・宣材物配布先

県内文化施設、県内公私立小中高等学校、県内大学・専門学校、青森市・弘前市・八戸市の中心市街地商店街各店舗、県内大手スーパー、県内各書店、各音楽教室

・チケット販売

各公演とも、全国展開としてローソンチケットに販売を委託。県内は主要プレイガイド10箇所に販売を委託。

紀伊國屋書店、弘前大学生協、日弘楽器、サンロード青森、さくら野青森店、成田本店しんまち店、三春屋、長崎屋、青森県立美術館ミュージアムシップ、東京堂

・記録：

各公演とも、記録写真撮影、記録映像収録、DVD制作を実施。



コンサート開催

映画

概要

美術館シアター等の施設を活用等を目的として、美術館所蔵のライブラリー（著作権処理済み DVD）の中から月一回の頻度で開催する定期上映会を実施した。上映する作品の選定においては、企画展・常設展等美術館の事業に関係する作品や、日ごろ目にする機会の少ない作品を中心に選定した。

会場：青森県立美術館シアター

料金：無料

上映内容詳細・入場者数

期日	上映作品・監督	入場者数
4月12日	『新学期、操行ゼロ』 (1933 フランス モノクロ 42min) 『アタラント号』 (1934 フランス モノクロ 85min) 両作品ともジャン・ヴィゴ	84
5月24日	『ラルジャン』 (1983 フランス・スイス合作 カラー 84min) ロペール・ブレッソン	83
6月14日	『スラム誓の伝説』 (1984 グルジア カラー 82min) セルゲイ・パラジャーノフ	103
7月12日	『アシク・ケリブ』 (1988 グルジア カラー 74min) セルゲイ・パラジャーノフ	67
8月2日	『オリンピア』第1部『民俗の祭典』 (1938 ドイツ モノクロ 110min) レニ・リーフェンシュタール	56
9月13日	『オリンピア』第2部『美の祭典』 (1938 ドイツ モノクロ 89min) レニ・リーフェンシュタール	40
10月11日	『ローラーとバイオリン』 (1960 旧ソ連 モノクロ 46min) アンドレイ・タルコフスキー	50
11月8日	『僕の村は戦場だった』 (1962 旧ソ連 モノクロ 91min) アンドレイ・タルコフスキー	73
12月13日	『アンドレイ・ルブリョフ』 (1967 旧ソ連 モノクロ・一部カラー 174min) アンドレイ・タルコフスキー	50
1月17日	『惑星ソラリス』 (1972 旧ソ連 カラー 160min) アンドレイ・タルコフスキー	61
2月14日	『鏡』 (1974 旧ソ連 カラー 102min) アンドレイ・タルコフスキー	70
3月7日	『ストーリーカー』 (1979 旧ソ連 カラー 155min) アンドレイ・タルコフスキー	85

合計 822人

サービス等

貸館

図書室

キッズルーム・フリーアトリエ

博物館実習

情報システム

貸館

使用施設について

(1) 使用目的

美術館施設を展覧会や作品の創作活動、映像、演劇及び音楽などの芸術活動の発表、練習の場として本県の芸術振興に資する使用であること。

(2) 使用料

① 展示施設を使用する場合

■ コミュニティギャラリー

室名 (面積)	使用料		
	9:30 - 12:00	13:00 - 17:00	左記以外の時間帯
A (148.76 m ²)	2,130 円	3,400 円	1 時間 850 円
B (60.47 m ²)	880 円	1,400 円	1 時間 350 円
C (131.30 m ²)	1,880 円	3,000 円	1 時間 750 円

※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の 2 倍とする。
 ※ 2 コミュニティギャラリーの 1 室が使用されている場合、他のコミュニティギャラリーが使用できない場合がある。

■ 企画展示室

室名 (面積)	使用料		
	9:30 - 12:00	13:00 - 17:00	左記以外の時間帯
A (182.70 m ²)	2,500 円	4,000 円	1 時間 1,000 円
B (140.39 m ²)	2,000 円	3,200 円	1 時間 800 円
C (389.51 m ²)	5,500 円	8,800 円	1 時間 2,200 円
D (228.06 m ²)	3,250 円	5,200 円	1 時間 1,300 円
E (105.91 m ²)	1,500 円	2,400 円	1 時間 600 円
映像室 (70.38 m ²)	1,000 円	1,600 円	1 時間 400 円

※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の 2 倍とする。

② シアター等を使用する場合

室名 (面積)	使用料
シアター [220 席] (348.20 m ²)	1 時間 2,400 円
映写室 (36.36 m ²)	1 時間 260 円
アナウンスブース (6.35 m ²)	1 時間 50 円
ワークショップ A (124.38 m ²)	1 時間 900 円
ワークショップ B (185.28 m ²)	1 時間 1,300 円
暗室 (22.45 m ²)	1 時間 160 円
スタジオ (100.98 m ²)	1 時間 720 円
映像編集室 (24.77 m ²)	1 時間 180 円
スタジオ映写室 (28.88 m ²)	1 時間 210 円

※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の 2 倍とする。
 ※ 2 暗室は、ワークショップ A を利用する場合、又はワークショップ A が利用されていないとき使用できる。
 ※ 3 映写室、アナウンスブースは、シアターを利用する場合、使用できる。
 ※ 4 映像編集室、スタジオ映写室は、スタジオを利用する場合、使用できる。

(3) 使用期間

① 展示施設

- ・コミュニティギャラリーは、原則として月曜日始まり、日曜日終わりの 1 週間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き 5 週間を超えることはできない。
- ・企画展示室については、1 週間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き 5 週間を超えることはできない。

② シアター等

- ・ 1 日単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き 10 日を超えることはできない。

※ 美術館のすべての施設において

- ・ 美術館の休館日は、使用できない。(準備、撤去作業の場合は除く。)
- ・ 毎年度日数を定めて開催している展覧会や上記使用期間では開催目的が達成されない場合において、必要と認められるときは、使用期間を変更できるものとする。

(4) 使用時間

使用時間は、美術館の開始時間 [9 時 30 分から 17 時まで (6 月 - 9 月は、9 時から 18 時)] とし、各施設の取扱は以下のとおりとする。

① 展示施設

9 時 30 分から 12 時、13 時から 17 時の使用区分とし、それ以外は 1 時間単位での使用とする。

② シアター等

1 時間単位での使用とする。

■企画展示室

使用	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
5 / 19 - 7 / 23	人体の不思議展実行委員会	人体の不思議展	A B C D E 映像室	170,474
9 / 11 - 11 / 9	(株) 青森テレビ	プラモデルパッケージ原画と戦後日本文化	A B C D E 映像室	9,734

■コミュニティーギャラリー

使用	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
5 / 22 - 5 / 25	青森工芸美術家協会	くれない會青森工芸美術家展	A C	700
5 / 22 - 5 / 25	川口良子	組紐の世界ー川口良子の百人一首	B	
5 / 28 - 6 / 1	福地裕明	写真展「どこかある どこにでもあること」	B	200
6 / 21	ブルーフォレストアーツ 加藤 明	「青森の自然」写真展・スライドショーリハーサル	A	10
6 / 22 - 7 / 1	高谷 芳男	夏の風物詩宵宮祭の写真展	A B C	0
7 / 18 - 20	(株) 阿部重組	第4回未来をのぞく住宅展	A B C	261
7 / 23 - 7 / 27	日本表象芸術協会青森支部 支部長 岩谷 勇	第12回日象青森展	A B	350
8 / 10	塚田晴可講演会実行委員会 代表 石戸谷 英子	塚田晴可氏講演会	C	130
8 / 30 - 8 / 31	住友生命青森支社	第32回スミセイこども絵画コンクール	A B C	1,500
9 / 1 - 9 / 7	モダンアート協会青森県支部長 神山 忠幸	現代美術、明日への展望 北東北展	A C	708
9 / 10 - 9 / 16	「青森の自然」音楽・写真展実行委員会 委員長 加藤 明	「青森の自然」音楽・写真展	A B C スタジオ	700
9 / 18 - 9 / 21 9 / 24 - 9 / 29	(社) 青森県文化振興会議 会長 塩越 隆雄	第49回青森県美術展覧会	A B C	2,910
10 / 3 - 10 / 5	MOA美術館青森児童作品展実行委員会 実行委員長 岸里フミエ	MOA美術館青森児童作品展	A B C シアター 映写室	1,660
10 / 10 - 10 / 20	青函交流展青森実行委員会 委員長 首藤 晃	若手作家による青函交流美術展	A B C	577
10 / 24 - 10 / 25	(株) オフィスフジムラ	FUJIMURA CONTEMPORARY ART.in 青森	A	30
10 / 24 - 10 / 26	カワイ楽器青森店 鈴木文子	2008 カワイこども絵画造形教室さくひんでん	C	92
11 / 7 - 11 / 17	越谷喜隆	Yoshitaka Koshiya photo Exhibition	A B C	400
11 / 18	かもめ苑 施設長 川村浩二	Gallery かもめ2008	B	70
11 / 21 - 11 / 23	(株) 阿部重組	第5回未来をのぞく住宅展	A B C	325
11 / 29 - 11 / 30	青森県環境パートナーシップセンター	ストップ温暖化大作戦 2008 青森県大会	A B C	300
12 / 5 - 12 / 6	青森中央短期大学	青森中央短期大学幼児保育学科「38期生卒業記念公演」	A B C スタジオ	150
3 / 13 - 3 / 16	(株) 阿部重組	第6回未来をのぞく住宅展	A B C	287
3 / 19 - 3 / 26	津軽白神森林環境保全ふれあいセンター	津軽白神森林環境保全ふれあいセンター「活動展」	A	70

■シアター・映写室

使用	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
4 / 26	CSS Nite in Aomori 実行委員会	CSS Nite in AOMORI	シアター	175
5 / 10 - 5 / 11	(株) ティーフクトリー	寺山修司没後25年特別公演「毛皮のマリー」	シアター	400
6 / 22、7 / 6	@ff あおもり映画祭実行委員会 青森事務局	@ff 第17回あおもり映画祭	シアター 映写室	1,340
7 / 10	(株) ノースロードミュージック	BEATCRUSADERS コンサート	シアター 映写室	227
7 / 14 - 7 / 18	(財) 地域創造	ステージラボ・アートミュージアムラボ青森セッション	シアター 映写室 スタジオ ワークショップB	100
10 / 4	(財) MOA 美術文化財団青森支部	美術セミナー「国宝・紅白梅図屏風について」	シアター 映写室	83
11 / 1 - 11 / 3	(有) 弘前劇場	弘前劇場公演「いつか見る青い空」	シアター 映写室	115
1 / 23 - 1 / 24	(株) リトルモア	「ウルトラミラクルラブストーリー」完成報告試写会	シアター 映写室 コミュニティーギャラリーB	297

■ワークショップ

使用	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
5 / 11	カワイ楽器青森店	「きょうのおはなし なあに？」	B	17
8 / 8、8 / 21	B-Plains 代表 蒔苗正樹	B-Plains ワークショップ	A	30
8 / 9 - 8 / 10	北村会 会長 小池幸雄	ねぶた面製作講習会	A	120
9 / 13、 10 / 13、10 / 25、 11 / 8、11 / 22	B-Plains 代表 蒔苗正樹	B-Plains ワークショップ	A	75
11 / 9	木戸永二	美術鑑賞ワークショップ	B	20
12 / 6、12 / 20、 1 / 24、2 / 7、 2 / 21、3 / 14	B-Plains 代表 蒔苗正樹	B-Plains ワークショップ	A	90

■スタジオ

使用	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
7 / 19	THE STABLES 川村 伸	ogurusu norihide ライヴ	スタジオ	30
12 / 12	津軽地吹雪会 代表 角田周	小島一郎を知る講座	スタジオ	50

合計 194,807 人

図書室

概要

図書室は、館の美術情報センターとしての機能を担い、その機能のうち美術に関する図書資料情報を収集、整理、保存、提供することで美術の普及を図ることを目的として、一般開放している。

具体的には、美術に関する専門ライブラリとして、来館者に対し、当館所蔵作品・作家に関するものをはじめ、美術に関する知識を深める図書資料情報の提供、閲覧、美術及び図書資料に関する相談受付（レファレンス）、他美術館等の展覧会情報の提供等を行っている。

また、図書室所蔵の絵本を利用し、当館キッズルームでおはなしかいを開催するなど、当館の美術教育普及事業の支援機関としての機能も担っている。

設備：来館者用パソコン端末 2台、図書閲覧席 20席

開館日・開室時間：美術館開館日の10:00 - 16:00

図書資料の収集方針

「青森県立美術館作品収蔵基本方針」に準じ、1) 近・現代の青森県出身作家及びゆかりのある作家に関するもの、2) 青森県以外の近・現代の美術状況に対応するために必要な優れた美術作品に関するもの、3) 今に生きる県民の心の原点に関わり、未来に資するもの、4) 1-3を理解するために必要なものを購入及び寄贈により収集した。

蔵書数

(平成19年度3月末現在)

- ・美術図書 918冊
- ・デザイン・建築関係図書 158冊
- ・写真関係図書 91冊
- ・絵本・イラスト関係図書 693冊
- ・展覧会カタログ 2,394冊
- ・雑誌(18タイトル) 1,948冊

(平成20年度収集分)

- ・美術図書 560冊
- ・デザイン・建築関係図書 143冊
- ・写真関係図書 31冊
- ・絵本・イラスト関係図書 26冊
- ・展覧会カタログ 560冊
- ・雑誌(23タイトル) 260冊

(平成20年度3月末現在)

- ・美術図書 1,478冊
- ・デザイン・建築関係図書 301冊

- ・写真関係図書 122冊
- ・絵本・イラスト関係図書 719冊
- ・展覧会カタログ 2,954冊
- ・雑誌(23タイトル) 2,208冊

サービス

図書資料閲覧

所蔵美術作品、蔵書のデータベース検索

美術に関する映像ソフトの鑑賞

美術に関する図書資料に係る相談受付（レファレンス）

美術に関するポスターやチラシの設置

当館に関する情報の掲載誌の閲覧

実績

開室日数：342日

利用者数：12,910人

レファレンス利用件数：29件

図書室利用統計表

	開室日数(日)		入室者数(人)		レファレンス	
	月計	月計	1日平均	月計	1日平均	
4月	29	769	26.5	4	0.1	
5月	30	1,488	49.6	3	0.1	
6月	30	2,320	77.3	3	0.1	
7月	30	1,493	49.8	4	0.1	
8月	31	1,982	63.9	2	0.1	
9月	27	1,214	45.0	3	0.1	
10月	29	710	24.5	2	0.1	
11月	28	866	30.9	3	0.1	
12月	23	371	16.1	3	0.1	
1月	30	506	16.9	1	0.0	
2月	26	482	18.5	0	0.0	
3月	29	709	24.4	1	0.0	
計	342	12,910	37.7	29	0.1	

事業

美術館事業への支援・事業との連携

1 展示・教育普及事業との連携

当館で行う常設展示及び企画展示と連携し、開催期間中、所蔵図書資料のうち展示に関連する資料を展示用書架にて紹介した。

また、当館キッズルームで行ったおはなしかいに所蔵絵本を活用した。

他の美術館・関係団体等との連携

1 展覧会カタログコーナーの設置

「新着カタログコーナー」にて、新しく受け入れた展覧会カタログを継続的に紹介した。

キッズルーム・フリーアトリエ

概要

絵本やお絵かき、積み木などを親子で楽しむことを通じて、子どもたちの美術への関心を高めることを目的として、地下1階「キッズルーム」及びワークショップ前廊下のスペースを利用した「フリーアトリエ」を、来館者の多い土日祝日と企画展開催時の平日に無料で開放している。

「キッズルーム」は、800冊以上の絵本をはじめとして、スイスのnaef（ネフ）社製やおもりの木製玩具研究会「わらはんど」製作の色や形の美しい積み木などを楽しめる空間で、また、「フリーアトリエ」は、紙や粘土などを常置し、お絵かきやものづくりを自由に楽しめる空間となっている。

また、当館サポートスタッフによる「おはなしかい」を定期的に開催し、絵本や工作などを通じて美術や美術館への関心を高める活動を行っている。

- (5) 2009年12月20日（土）14：00－15：00
参加者数：20人
- (6) 2009年1月24日（土）14：00－15：00
参加者数：12人
- (7) 2009年2月28日（土）14：00－15：00
参加者数：8人

利用実績

開室時間：土日祝日及び企画展開催時の平日 10:00－15:00

平成20年度 キッズルーム利用実績

	開室日数（日）		入室者数（人）		月計	平均
	月計		こども	おとな		
4月	29	111	119	230	7.9	
5月	21	248	257	505	24.0	
6月	29	302	308	610	21.0	
7月	30	256	310	566	18.9	
8月	31	347	380	727	23.5	
9月	20	119	154	273	13.7	
10月	29	99	107	206	7.1	
11月	12	77	84	161	13.4	
12月	7	38	45	83	11.9	
1月	25	53	59	112	4.5	
2月	26	60	60	120	4.6	
3月	15	65	83	148	9.9	
計	274	1,775	1,966	3,741	13.7	

「キッズルームおはなしかい」実施状況

未就学児とその保護者を主な対象に、美術や美術館に親しみを持つきっかけ作りの場として、絵本読み聞かせ、工作、お絵かき、手遊びなどを行う「おはなしかい」を開催した。企画運営は当館サポートスタッフが担当した。

- (1) 2008年7月26日（土）10：00－12：00
参加者数：8人
- (2) 2008年9月27日（土）10：00－11：00
参加者数：4人
- (3) 2008年10月25日（土）10：00－11：00
参加者数：0人
- (4) 2008年11月22日（土）14：00－15：00
参加者数：0人

博物館実習

概要

博物館法施行規則第1条に定められた学芸員資格取得に関する博物館実習を実施した。

実施内容：美術館における諸活動（展示・収蔵・教育普及等）

期間：2008年8月21日（木）－8月25日（月）

実習指導：青森県立美術館職員

実習生：14名

東北生活文化大学家政学部（3名）、宇都宮大学 国際学部（2名）、横浜美術短期大学（1名）、京都精華大学芸術学部（2名）、弘前学院大学文学部（1名）、青山学院大学（1名）、東北学院大学文学部（1名）、愛知県立芸術大学（1名）、都留文科大学文学部（1名）、東京女子大学文理学部（1名）

プログラム

平成20年度 博物館（美術館）学芸員実習日程

第1日目 8月21日（木）

①オリエンテーション

- ・青森県立美術館の施設及び事業概要について
- ・美術館のコレクションと常設展について

②事業概要2

- ・パフォーミングアーツ
- ・教育普及

③館内見学

- ・展示室、WS、シアター、ショップ、カフェ、時遊館

④実習日誌作成

第2日目 8月22日（金）

①作品の保存管理について

②教育普及について

- ・スクールプログラムについて
- ・普及プログラムについて

③展示・収蔵

- ・企画展1 海外展 シャガール展
- ・企画展2 共同展：棟方・崔展

④展示・収蔵

- ・自主企画展 縄文と現代展・Boxart展
- ・巡回展 舞台芸術の世界展

⑤実習日誌作成

第3日目 8月23日（土）

①展示・収蔵 作品の取り扱い

- ・扱いの基本と調書の取り方

- ・作品の貸し借りにともなうチェックについて

- ・一部ギャラリートーク参加

②展示・収蔵 作品の取り扱い

- ・調書 油彩作品

③展示・収蔵 作品の取り扱い

- ・調書

- ・軸物・立体作品

- ・一部ギャラリートーク参加

④展示・収蔵 作品の取り扱い

- ・調書 紙作品・写真作品

⑤実習日誌作成

第4日目 8月24日（日）

①－②各専門別実習・教育普及WS参加・石井康治見学会参加

③展示・収蔵：常設展示（ユビキタス体験）

④展示・収蔵：常設展

- ・常設展示プラン作成とユビキタスの活用について→レポート

⑤実習日誌作成

第5日目 8月25日（月）

①－②各専門別実習・石井康治見学会参加・展覧会の広報とヴィジュアルデザインについて

③レポート作成

- ・三内丸山遺跡と美術館を関連した展示・企画・広報を考える→企画書をつくる。（意見交換）

④実習日誌作成

情報システム

青森県立美術館ユビキタスシステム

当館は、来館者が固定された順路にとらわれることなく、大小様々の展示空間を探索しながら自由に作品を鑑賞することを特徴としているため、展示室は縦横につながっており、複雑な構造となっているものであるが、効率よく観覧したい、また、作品や作家についてもっと知りたい、といったニーズがあり、これに応えるものとして、「ユビキタスコミュニケーター」と呼ばれる情報端末を使って、展示室順路情報、作家・作品等の解説、館内案内等の各種情報を、音声・画像などにより受け取ることができるサービスを2007年11月より行っている。

利用者は当該システムの使用により、端末画面に自動的に表示される順路情報にそって展示室を進むことができるほか、端末操作により、各展示室における作家・作品の情報や美術館のイベント日程、カフェやショップの情報、周辺の交通案内等各種の情報を得ることができるものである。

1 システム概要

ユビキタスシステムは、場所やものを識別する「uコード」(東京大学教授坂村健氏が提唱するコード規格)を用いて、展示室や通路の場所やモノに情報をくくりつける「ユビキタス空間場所情報システム」を活用している。

場所の識別には天井に設置した赤外線 / 無線マーカを、モノの識別にはRFIDタグを使用してuコードを発信する。情報端末は、そのuコードを受信して現在地やモノを識別し、そのときに適切な情報が、情報端末の画面及びヘッドホンを通じて、静止画・動画・音声またはテキストにより提供される、という仕組みとなっている。

2 システムの機能概要

- ・通路や展示室の出入口エリアをカバーした赤外線を端末が受信すると、順路及び展示室名が自動的に案内される。
- ・画面メニューに触れると、展示室情報や現在地、作家・作品の解説、美術館情報などのコンテンツを選択取得することができる
- ・RFIDタグを端末が受信すると、端末の画面がアンケート用に切り替わる。
- ・回答したアンケート内容は無線LANによってサーバに送信される。

3 システム仕様等

- ・ヘッドホン付情報端末：50台(予備含む)
- ・赤外線マーカ設置数(uコード)：70ヶ所

・アンケート用無線LAN：1ヶ所

・アンケート用RFIDタグ(13.56MHz uコード)：1ヶ所

4 利用実績

延べ 1,357 件

資料

広報

広聴

入館者数

運営予算・決算

組織

関係規程等

施設設備概要

広報

概要

県の広報媒体を活用しての広報活動を中心とした広報活動を柱としつつ、県政記者クラブ等のメディアとの連携にも注力し、パブリシティの有効活用をしながらの広報活動を行った。

その他、道の駅等の他分野施設や地域の商店街などへのポスター・チラシの設置等、県内での浸透を図るための広報活動も積極的に行った。

また、今年度は携帯用 Web サイトのリリースを行うなど、インターネット社会への対応も積極的に行った。

広告・宣伝等

- ・屋外看板による当月イベントカレンダーの設置
- ・観光キャンペーンやイベント会場でのPRブース設置 等

印刷物等

- ・施設パンフレット
 - ・施設概要
 - ・年間スケジュールパンフレット
- ※ これらの印刷物については、ビジュアル・アイデンティティ (VI) の観点から、全てのデザインを菊地敦巳氏に依頼、制作している。
- ・「無料ゾーンを楽しむ」パンフレット
 - ・広報誌「青森県立美術館通信A-ism (エー・イズム)」 vol.12,13

Web サイト

- ・携帯用Webサイトリリース

他分野との連携

- ・道の駅・文化施設・他の美術館等へのポスター・チラシの設置
- ・教育旅行説明会への参加
- ・県内小中高への情報提供
- ・県外事務所への情報提供 等

放映・掲載等実績 (当館把握分)

新聞掲載：315 件

雑誌等掲載 (スケジュール掲載のものを除く)：407 件

取材撮影等 (投げ込みによるものを除く)：122 件

Web サイト ヒット数：12,652,770 件

アクセス数：353,683 件

テレビ・ラジオ：

- ・NHK 青森「情報ランチ」、「あっぷるワイド」
- ・NHK 東北「情報テラス」
- ・NHK 教育「高校講座『第2回絵を描こう』」、「新日曜美術館」
- ・青森テレビ「おしゃべりハウス」、「ATV ニュースワイド」
- ・青森放送「あっと なまてれ」、「RAB ニュースレーダー」
- ・青森朝日放送「スーパー J チャンネル aba」
- ・青森ケーブルテレビ 情報番組
- ・札幌テレビ放送「どさんこワイド 180」
- ・TBS「はなまるマーケット」
- ・NHK 国際放送「OUT & ABOUT」
- ・韓国国営放送「歩いて世界の中へ」
- ・エフエム青森「It's My Radio」、「DAY DREAM BELIEVER」
- ・青森放送「あおもり TODAY」 等

新聞：

東奥日報、陸奥新報、デーリー東北、河北新報、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞、新美術新聞、聖教新聞、東奥こども新聞 等

書籍等：

書籍

今日もがんばるわんこたち、「日本の美術館名品展」ガイドブック、2009 年版 美術名典、PORT CATAROG (ポートカタログ)、観光バス業者・観光関連施設名簿、菊地敦巳作品集 PLAY、逆説の日本史・ビジュアル版、現代アート事典、写真年鑑 2008、新・美術の窓年鑑 2009、知識ゼロからの名画に出会う美術館、デザイン物産展ニッポン (イベント広報 / 書籍)、トーキングヘッズ叢書 (TH series)、日本三十六景の旅、初めて学ぶ建築コンペ・卒業設計、美術年鑑 (平成 21 年版)、文化庁メディア芸術プラザ、平成 21 年度用 高等学校美術 3 教授資料、ユビキタスガイドブック、よくわかる青森県、レジャーランド & レクパーク総覧 2009、日本映画年鑑 APANESE FILM2009、来て見てあおもりーあおもりグリーン・ツーリズムガイド

雑誌

AERA with Baby (夏号)、BRUTUS (ブルータス) (5/1 号、11/15 号、1/10 号)、CasaBRUTUS (7 月号、11 月号)、Clubism (8 月号)、CONFORT (コンフォルト) (インテリア・デザイン・建築雑誌) (冬・春)、Domani (1 月号)、FUDGE (3 月号)、GOETHE (12 月号) 付録「GOETHE WOMAN」、

nina's (ニナーズ) (2月号)、Numero TOKYO (9月号 7/28 発売)、Precious (1月号)、rakra (ラ・クラ) (8・9・10・1・3月号)、Real Design (8月号 7/16 発行)、SHORTCOCO、UOMO (1月号) (12/24 発売)、Wallpaper City Guide 札幌、Zipper (1月号)、アーハウス No.7、あおもり草子各号、アサヒカメラ (1月号)、あんふぁん 東北版 (10/10号、4/10号)、一枚の繪 (8月号)、季刊 ユニバーサルデザイン、北の街各号、着物と和の生活マガジン Sakura (12月号)、ギャラリー (5・1月号)、キュリオマガジン (1・5月号)、キルトジャパン (5月号)、グラフ青森各号、芸術新潮 (3月号)、月刊クーヨン (11月号)、月刊美術各号、月刊美術 (韓国雑誌)、コンセンサス (11 - 12月号)、雑貨カタログ (4月号)、サライ (7/17号)、週刊 西洋絵画の巨匠、週刊 SPA! (9/30号)、週刊金曜日 (12/19号)、週刊金曜日 (2/13号)、週刊新潮 (1/7号)、週刊ポスト (10/24号)、白い国の詩 (冬号) (1/1 発行)、旅鶴各号、てのひら (1・3月号)、都道府県展望 (1月号)、七緒 (夏号)、日本カメラ (2月号)、美術手帖 (5・2月号)、美術の窓各号、フォトテックデジタル (1月号)、婦人画報 (12月号)、ベビカム (2008 冬号)、ぼびとぴあ (1月号)、みすず (1・3月号)、ミセス (8月号)、メンズノンノ (2月号) (1/10 発売) 等

情報誌・ペーパー等

arch「全国主要美術館スケジュール」各号、ATV ホームニュース (9/1号)、TOYOTA クレジットカード会員向け月刊誌 CUBIC NEWS (1月号)、HIGHWAY WALKER (7月号、3月号)、JCB カード会員情報誌「THE GOLD」(12月号)、JOB プレス各号、Nozacc(ノザック)各号、PLASMA(11月号)、VIVA 弘前 (12/19号、3/27号)、ユニリーバ・ジャパン (株) 広報誌 with U vol.6、アーティクル、青森ケーブルテレビ番組表各号、青森市勤労者互助会 会報 no.12、秋田タウン情報 (2月号)、アキュート (12/25号、3/27号)、アミューズ (8・12・1・4月号)、出光クレジット会員誌 MOCO(4月号)、インサイダー (8・12・1・2・4月発行分)、東北電力生活協同組合情報誌ウィズニュース、教育家庭新聞 (6/28号、12/13号)、共同通信、クリッパー (7/29号)、月刊 Ken×Kem (ケンケン) 各号、青森ヤクルト会員誌健腸 (8・9月号)、広報あおもり (12/15 発行)、公明新聞 (3/10号)、コミュニケーション季刊誌「まりもノ風」、自治あおもり (7・3月号)、新鮮生活情報誌 マ・シェリ (7/10、3/26号)、新美術新聞 (8・1・11号、1/1・11号、3/11号)、染織新報 (1/16、1/26、2/6、2/21、2/26、3/6号)、地域創造レター (11月号)、地方共済 (11月号)、トヨタ ロードナビ東北'09、日刊協同組合通信誌 (6/19号)、ノジュール (7月号)、美協連ニュース (11月号)、美連協ニュース (2月号)、ふい〜らあ各号、フリー情報誌「ふたりの時間」vol.8、日専連会員情報誌プレス (9月号)、私学共済加入者配布広報誌レター (9月号)、広告ワールド 等

旅行・観光関係雑誌・情報誌・ペーパー等

TABIMO 東北、「五能線の旅」パンフレット各号、まっぶるマガジン各種、Weekend Weekly (香港の旅行・文化等情報誌)、青森ガイドブック・観光手形 2009 年版、あおもり紀行 09 夏・秋号、冬・春号、あおもり市観光ガイドマップ 2009 - 2010、あおもり時感旅行 (テーマ別観光モデルルートパンフレット)、青森ツアーパンフレット、青森まるかじりガイド 2008 - 2009 年版、エース JTB パンフレット各種、特別版エースオリジナル るるぶ東北'09 春夏版、大人の休日倶楽部ミドル (3月号)、太宰治生誕 100 年記念パンフレット 太宰治と旅する津軽、たびえーる関東版 (8月号)、冬季観光パンフレット (1 - 3月)、東北じゃらん (2・4月号)、日本旅行 赤い風船 2009 春版 (4/1 - 10/31) 北東北へ行く、マップル情報 汎用 DB (昭文社関係各種媒体用 DB)、まっぶるマガジン ことりっぶ、まっぶるマガジン青森 2009 年度版、マップルマガジンシリーズ 2009 年版 7 種、楽楽「十和田湖・奥入瀬・白神山地」、旅行読売 (12/25 発売)、るるぶ青森 2009、JAL STAGE スペシャル ふらりスペシャル 東北・北陸、JAL トラベルカフェ、JTB パンフレット旅百話青森、08 秋版フリープラン東北 (JTB ツアーパンフ)、MAPPLE 観光ガイド おでかけニュース 等

その他

Audi カレンダー 2009、CR'ES (クレス) 総合カタログ、修学旅行誘致ビデオ

Web サイト :

記事掲載

CONTEMPORARY ART [mobile]、Numero TOKYO Web、アートナビ (「美術手帳」連携携帯 Web サイト) (4 件)、情報通信ネットワーク産業協会デザイン委員会 WG、日本美術倶楽部、まだある。昭和ナビ、Web 雑誌 SooK (7/18 号)、web マガジン artscape (アートスケープ)、津軽芸術・工芸情報 Web サイト アートワークスタイル、カーナビマップ及び関連 Web サイト (JR、NTTgo、ゼンリン等)、会員制 Web サイト LUX KNOWLEDGE、携帯 Web サイト ザ☆懸賞、携帯 Web サイト (au) 東北オススメ情報、ジャパンデザインネット、イベントエース (3 件)、ぶらり美術館 (2 件)、文化総合研究所 Web、月刊 Web マガジン Colla:(コラージ) 5月号、日韓文化交流カレンダー ほか

リンク

日本美術倶楽部、Art inn Premium「インプレ」、Art inn、ぶらり美術館、ルームフレーバー、Yahoo! 地域情報、シフトマガジン、ベビカム、Art&Craft FAN、アーチストナビ、インターネットミュージアム、マナビゲート、Museum-Café、Club Air Artisan、アーティクル Web、JOB プレス Web、アートフェア東京、NEC ソリューションサービス事例紹介、フォトカルチャー倶楽部、BIGLOBE 全国美術館ガイド、思い出+スタンププロジェクト、TravelUSB (香港経済新聞旅行サイト)、106 街 (登録街)、bizloop (ビズループ)、青森市役所、十和田市立三本木小学校 ほか

広聴

青森県立美術館開館2周年記念シンポジウム

開館2周年を記念するイベントとして、美術館の最大の使命である、「県民に開かれた美術館」「県民が参加できる美術館」を実現するとともに、県民をはじめ多くの方々にとって魅力ある美術館づくりを推進するため、これまでの運営を振り返り、今後の運営を展望することを目的に開館2周年記念シンポジウムを開催した。

開催日：平成20年7月20日（日）

会場：青森県立美術館シアター

コーディネーター：南條史生氏（森美術館館長）

パネリスト：青木淳氏（株式会社青木淳建築計画事務所代表取締役）
奈良美智氏（美術家）

小林央子氏（十和田市現代美術館特任館長）

テーマ：「美術館と地域との共生とは」

青森県立美術館運営諮問会議

青森県立美術館の使命に基づく運営の実現に向けて、芸術文化に造詣のある者から指導及び協力を受けるため設置。

知事の諮問に応じて美術館の運営に関する重要事項について審議し、意見を述べるほか、美術館の運営に関する助言を行う。

青森県立美術館運営諮問会議委員：青木淳氏（県立美術館設計者）、奈良美智氏（本県出身アーティスト）、逢坂恵理子氏（森美術館プログラムディレクター）

会議開催状況：

・第6回

開催日：平成20年10月29日（水）

会場：青森県立美術館

・第7回

開催日：平成21年3月24日（火）

会場：都道府県会館（東京都千代田区）

県民のための美術館づくり懇話会

県民に親しまれ、愛される美術館づくりを推進するため、県民の意見・要望を美術館づくりに反映させることを目的に設置。

平成20年度

懇話会委員：

座長：塚原隆市（コミュニティ放送局 BeFM 代表取締役専務）

副座長：日沼禎子（ARTizan 世話人（ACAC 学芸員））

委員：佐々木健（弘前市立第一中学校長（青森県中学校教育研究会美術部会長））

委員：手塚治（西近野町会長）

委員：橋本由貴子（フリーアナウンサー）

委員：佐伯知美（鷹山宇一記念美術館エデュケーター）

委員：藤川あきつ（青森県立美術館ファシリテーター）

委員：長崎恵理子（青森県立美術館サポートスタッフ（メンバーシップ会員））

委員：鷹山ひばり（（第2回委員）青森県立美術館館長）

委員：佐藤直樹（（第1回委員）青森県立美術館事務局長）

開催状況

・第1回

開催日：平成20年10月20日（月）

会場：青森県立美術館会議室

・第2回

開催日：平成21年3月4日（水）

会場：青森県立美術館会議室

入館者数

(単位：人)

		18年度	19年度 ①	20年度 ②	増減 (②-①)
常設展	一般観覧者	193,501	89,229	109,609	20,380
	スクールプログラム	12,685	6,968	6,668	△ 300
	常設展計	206,186	96,197	116,277	20,080
企画展	シャガール展	192,918			
	縄文と現代展	14,894			
	工藤甲人展	1,680	10,950		
	旅順博物館展		30,065		
	舞台芸術の世界展		6,282		
	榎方志功・崔榮林展		4,156		
	寺山修司展			9,533	
	大ナポレオン展			46,609	
	小島一郎展			8,660	
	企画展計	209,492	51,453	64,802	13,349
教育普及	スクールプログラム	18,775	9,905	9,242	△ 663
	普及プログラム	2,300	2,148	2,873	725
	お出かけ講座	1,196	1,587	1,122	△ 465
	展示関係プログラム			625	625
	その他	500		464	464
		教育普及計	22,771	13,640	14,326
パフォーマンスアート	演劇	2,170	1,821	1,516	△ 305
	ダンス			1,419	1,419
	音楽	1,559	471	1,583	1,112
	映画	975	1,954	1,584	△ 370
		パフォーマンスアート計	4,704	4,246	6,102
貸館		10,268	26,481	194,807	168,326
図書館		2,552	7,727	12,910	5,183
キッズルーム			2,850	3,690	840
	合 計	455,973	202,594	412,914	210,320

※ キッズルームは 2007 年 4 月 28 日からオープン

運営予算・決算

平成 20 年度 一般会計予算額

(単位：千円)

事業名	収入	科目	支出	細目	説明
美術館費	39,061	使用料及び手数料	189,863	職員費	人件費
	6,602	財産収入			
	46,790	繰入金	467,318	美術館運営管理費	管理運営費、調査研究費、美術資料収集費、美術資料保存管理費、展示費、教育普及費、情報事業費、パフォーマンスアーツ事業費 他
	63,962	諸収入			
	612,143	一般財源	111,377	公園管理費	青森県総合運動公園管理費、芸術パーク管理費
合計	768,558		768,558		

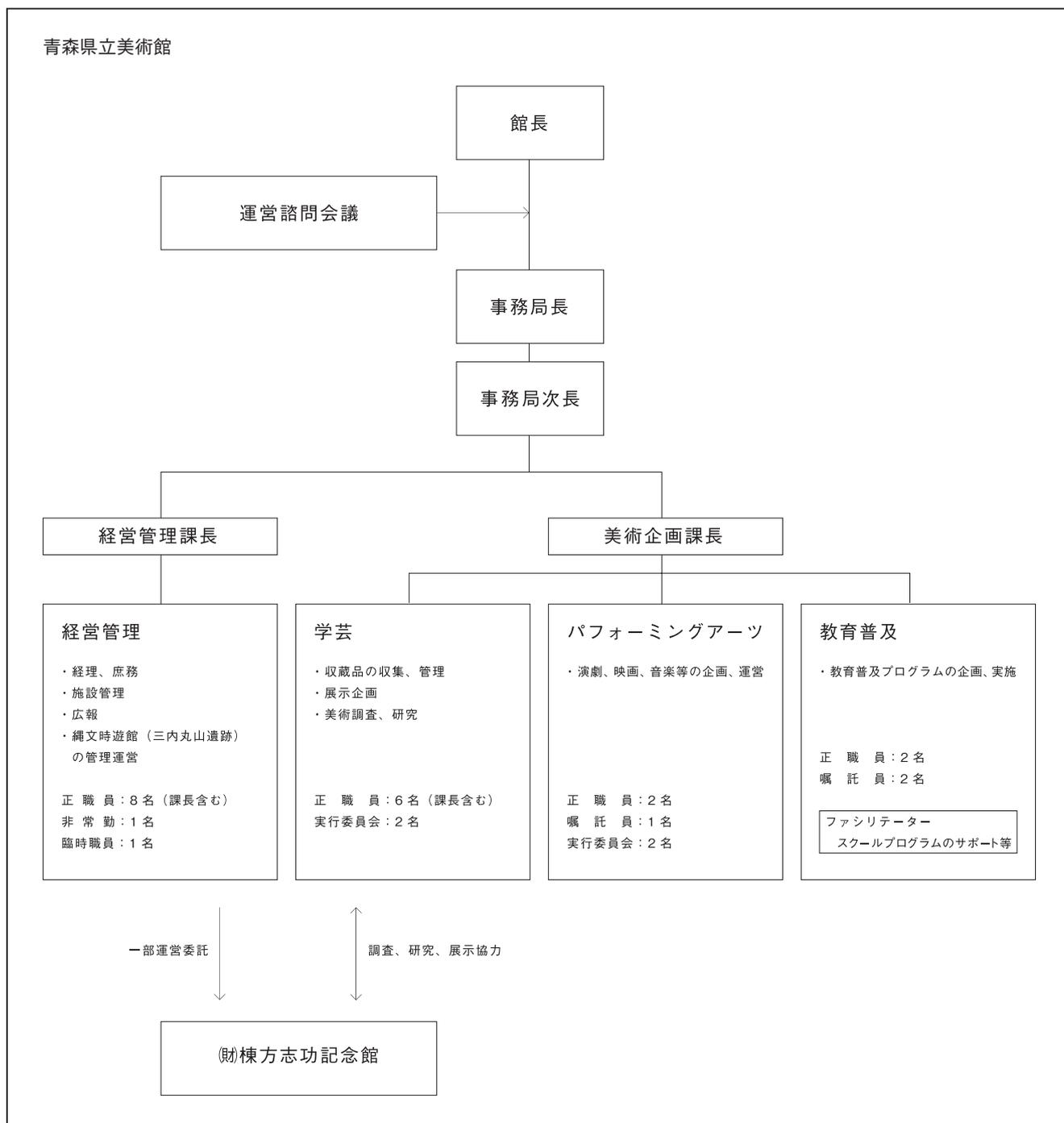
平成 20 年度 一般会計決算額

(単位：千円)

事業名	収入	科目	支出	細目	説明
美術館費	40,389	使用料及び手数料	188,834	職員費	人件費
	6,601	財産収入			
	41,477	繰入金	462,842	美術館運営管理費	管理運営費、調査研究費、美術資料収集費、美術資料保存管理費、展示費、教育普及費、情報事業費、パフォーマンスアーツ事業費 他
	70,079	諸収入			
	592,196	一般財源	99,066	公園管理費	青森県総合運動公園管理費、芸術パーク管理費
合計	750,742		750,742		

組織

- 県立美術館の運営は、運営諮問会議からの助言を得ながら行っている。
- 文化観光の拠点形成を図る観点から、三内丸山遺跡（縄文時遊館）との一体運営を行っている。
- このために館長の下、県職員 20 人、嘱託員及び臨時職員 5 人の計 26 人が美術館運営にあっている。このほか、企画展実行委員会職員 2 名、パフォーミングアーツ部門の実行委員会職員 2 名が配置されている。



関係規程等

青森県立美術館条例

(設置)

第一条 美術その他の芸術の鑑賞及び学習の機会並びに創作活動の場の提供を行うことにより、県民の芸術に関する活動への参画を支援し、もって文化の振興を図るため、青森市に青森県立美術館（以下「美術館」という。）を設置する。

(業務)

第二条 美術館は、次に掲げる業務を行う。

- 一 美術品その他の芸術に関する資料（以下「美術品等」という。）の収集、保管及び展示に関すること。
- 二 美術品等の利用に関し必要な説明、助言及び指導に関すること。
- 三 美術品等に関する専門的、技術的な調査研究に関すること。
- 四 美術品等に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等の作成及び配布に関すること。
- 五 美術その他の芸術に関する講演会、講習会、映写会、研究会、公演会等の開催に関すること。
- 六 美術その他の芸術に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 七 美術その他の芸術に関する創作活動の場の提供に関すること。
- 八 その他県民の芸術に関する活動への参画を支援するために必要な業務

(使用の承認)

第三条 別表第二号又は第三号に掲げる場合において、美術館の施設を使用しようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

(使用料)

第四条 美術館の施設を使用する者（以下「使用者」という。）は、別表に定める使用料を納入しなければならない。

2 知事は、特別の理由があると認めるときは、前項の使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用の制限等)

第五条 知事は、使用者が次の各号のいずれかに該当する場合は、当該使用者の美術館の使用を拒み、その使用の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

- 一 他の使用者に迷惑をかけ、又はそのおそれがあるとき。
- 二 美術館の施設、設備等をき損し、若しくは汚損し、又はそれらのおそれがあるとき。
- 三 この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

2 知事は、前項に規定する場合のほか、美術館の管理運営上支障があると認めるときは、美術館の使用を制限することができる。

(委任)

第六条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

附則

この条例は、規則で定める日から施行する。

別表（第三条、第四条関係）

一 美術品等の観覧のための使用の場合

区分	金額（一回につき）
常設展の観覧	一人につき 千円を超えない範囲内で知事が定める額
企画展の観覧	知事がその都度定める額

二 展示施設の使用の場合

イ 入場料その他これに類する料金を徴収しないで使用する場合

区分	九時三十分から 十二時まで	十三時から 十七時まで	九時三十分以前、 十二時から十三時 まで及び十七時以降 (一時間につき)
コミュニティギャラリーA	二千三百円	三千四百円	八百五十円
コミュニティギャラリーB	八百八十円	千四百円	三百五十円
コミュニティギャラリーC	千八百八十円	三千円	七百五十円
展示室A	二千五百円	四千円	千円
展示室B	二千円	三千二百円	八百円
展示室C	五千五百円	八千八百円	二千二百円
展示室D	三千二百五十円	五千二百円	千三百円
展示室E	千五百円	二千四百円	六百円
映像室	千円	千六百円	四百円

ロ 入場料その他これに類する料金を徴収して使用する場合は、この場合の使用料の額の二倍に相当する額

三 シアター等の使用の場合

イ 入場料その他これに類する料金を徴収しないで使用する場合

区分	金額（一時間につき）
シアター	二千四百円
映写室	二百六十円
アナウンスブース	五十円
ワークショップA	九百円
ワークショップB	千三百円
暗室	百六十円
スタジオ	七百二十円
映像編集室	百八十円
スタジオ映写室	二百十円

ロ 入場料その他これに類する料金を徴収して使用する場合は、この場合の使用料の額の二倍に相当する額

四 食堂施設又は売店施設の使用の場合

知事が定める額

青森県告示第 五百二十五 号

青森県立美術館条例（平成十七年十月青森県条例第六十九号）別表第四号の規定により、青森県立美術館の食堂施設及び売店施設の使用料の額を次のとおり定める。

平成十八年七月十二日

青森県知事 三村申吾

区分	金額（一年につき）
食堂施設	八十三万四千八百円
売店施設	六十六万五千六百円

備考 使用期間が一年に満たないとき、又は使用期間に一年に満たない端数があるときは、その全期間又は端数部分について日割で計算する。

青森県立美術館規則

（趣旨）

第一条 この規則は、青森県立美術館条例（平成十七年十月青森県条例第六十九号。以下「条例」という。）第六条の規定に基づき、青森県立美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（開館時間）

第二条 美術館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時まで（六月一日から九月三十日までの期間にあっては、午前九時から午後六時まで）とする。

2 美術館の事務局長は（以下「事務局長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の開館時間を変更することができる。

（休館日等）

第三条 美術館の休館日は、次のとおりとする。

一 毎月第二、第四月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法律第七十八号）に規定する休日にあたるときは、その翌日）

二 十二月二十七日から同月三十一日までの日

2 事務局長は、必要があると認めるときは、前項の休館日に開館し、又は同項の休館日以外に休館することができる。

（使用の承認の手続）

第四条 条例第三条の規定による使用の承認（以下「使用の承認」という。）を受けようとする者は、使用申込書を知事に提出しなければならない。

2 知事は、使用の承認をしたときは、当該申込者に使用承認書を交付するものとする。

（使用料の免除の申請）

第五条 条例第四条第二項の規定による使用料の免除を受けようとする者は、免除申請書を知事に提出しなければならない。

（使用の承認の取消し等）

第六条 事務局長は、美術館を使用する者（以下「使用者」という。）が不正な手段により使用の承認を受けたと認めるときは、その使用の承認を取り消し、又はその使用を制限する

ことができる。

（原状回復等）

第七条 使用者は、故意又は重大な過失により美術館の施設、設備、美術品その他の芸術に関する資料等をき損し、又は汚損したときは、原状に復し、又は現品若しくはそれに相当する代価をもって弁償しなければならない。

附則

この規則は、平成十八年七月十三日から施行する。

青森県立美術館管理規程

（趣旨）

第1条 この規程は、青森県立美術館条例（平成17年10月青森県条例第69号。以下「条例」という。）及び青森県立美術館規則（平成18年7月青森県規則第72号。以下「規則」という。）に定めるもののほか、青森県立美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（観覧券の交付）

第2条 条例別表第1号に定める使用料を納入した者に対し、観覧券を交付するものとする。

（使用の承認）

第3条 規則第4条第1項に規定する使用申込書の様式は、第1号様式とする。

2 規則第4条第2項に規定する使用承認書の様式は、第2号様式とする。

3 規則第4条に規定する使用承認の手続きに関し必要な事項は、事務局長が別に定める。

（使用料の納付）

第4条 使用の許可を受けた者は、納入通知書により指定する日までに使用料を納入しなければならない。

（使用料の還付）

第5条 納付された使用料は、還付しない。ただし、天災その他利用者の責めによらない理由により美術館を使用できなくなった場合は、この限りではない。

2 前項ただし書きにより使用料の還付を受けようとする者は、使用料還付請求書（第3号様式）を事務局長に提出しなければならない。

（使用料等の免除）

第6条 事務局長は、条例別表第1号に規定する常設展の観覧が次の各号のいずれかに該当するときは、規則第5条の規定により使用料の全部又は一部を免除するものとし、その免除の額は、当該各号に定める額とする。

一 教育課程に基づく学習活動として観覧する小学校、中学校、中等教育学校前期課程及び特殊教育諸学校の児童、生徒及び引率する教職員が観覧するとき 使用料の全部の額

二 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設に入所している少年及び引率する当該施設の職員が観覧するとき 使用料の全部の額

三 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条

第4項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人が観覧するとき（ただし、免除する付添人は、当該障害者一人につき一人までとする。）使用料の全部の額

四 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律123号）第45条第2項の規定による精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者、療育手帳の交付を受けている知的障害者及びこれらの付添人が観覧するとき（ただし、免除する付添人は、当該障害者一人につき一人までとする。）

使用料の全部の額

五 前各号に掲げるもののほか、事務局長が特別の理由があると認めるとき 使用料の全部の額又は一部の額

2 前項第1号、第2号及び第5号に規定する常設展の使用料の免除を受けようとする者は、常設展の観覧使用料免除申請書（第4号様式）を事務局長に提出しなければならない。

3 事務局長は、条例別表第2号又は第3号に掲げる施設の使用が美術館の目的にふさわしい資料展示、講習会、研究会等のためであり、かつ、次の各号のいずれかに該当するときは使用料の全部又は一部を免除するものとし、その免除の額は、当該各号に定める額とする。

一 学校教育法（昭和22年法律26号）第1条に規定する学校が教育課程に基づく学習活動として使用するとき 使用料の全部の額

二 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設に入所している少年を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

三 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

四 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律123号）第45条第2項の規定による精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及び療育手帳の交付を受けている知的障害者とこれらの付添人を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

五 美術館を構成員とする実行委員会等が主催して使用するとき 事務局長が事案に即して相当と認める額又は使用料の全額

六 芸術の振興を目的として活動している団体が主体となつて、美術館と共催し使用するとき 使用料の2分の1に相当する額を基本として事務局長が事案に即して相当と認める額

七 前各号に掲げる場合のほか、事務局長が特別の理由があると認めるとき 事務局長が定める額

4 前項に規定する施設の使用料の免除を受けようとする者は、施設使用料免除申請書（第5号様式）を事務局長に提出しなければならない。

（美術品等の貸出）

第7条 事務局長は、別に定めるところにより美術館の資料を貸し出すことができる。

（美術品等の寄託又は寄贈）

第8条 事務局長は、別に定めるところにより美術資料の寄託又は寄贈を受けることができる。

（美術資料の特別観覧）

第9条 事務局長は、美術館に収蔵されている美術資料について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該美術資料の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をさせることができる。

2 前項に規定する特別観覧をしようとする者は、特別観覧承認申請書（第6号様式）を事務局長に提出しなければならない。

附則

この規程は、平成18年7月13日から施行する。

この規程は、平成19年6月25日から施行する。

青森県立美術館運営諮問会議設置要綱

（趣旨）

第1 青森県立美術館（以下「美術館」という。）の使命に基づく運営の実現に向けて、芸術文化に造詣のある者から指導及び協力を受けるため、青森県立美術館運営諮問会議（以下「諮問会議」という。）を置く。

（所掌事務）

第2 諮問会議は、次に掲げる事項を所掌する。

（1）知事の諮問に応じて、美術館の運営に関する重要事項について審議し、意見を述べること。

（2）その他美術館の運営に関して助言を行うこと。

（組織等）

第3 諮問会議は、委員をもって組織する。

2 委員は、所掌事務に関して学識経験を有する者その他適当と認められる者から知事が委嘱する。

（任期）

第4 委員の任期は、委嘱をした日から当該委嘱をした日の属する年度の3月31日までとする。ただし、委員が欠けた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任することができる。

（会議）

第5 諮問会議は、知事が招集する。

2 知事は、諮問会議の議長となり、会議を主宰する。

3 知事は、必要に応じて委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

（庶務）

第6 諮問会議の庶務は、青森県立美術館経営管理課において処理する。

（その他）

第7 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、議長が別に定める。

附則

1 この要綱は、平成17年12月1日から施行する。

2 第4第1項の規定にかかわらず、当初の委員の任期は、委嘱をした日から平成19年3月31日までとする。

県民のための美術館づくり懇話会設置要綱

(趣旨)

第1 県民に親しまれ、愛される美術館づくりを推進するため、県民の意見・要望を美術館づくりに反映させることを目的とし、県民のための美術館づくり懇話会（以下、「懇話会」という。）を設置する。

(構成)

第2 懇話会は、10名以内の委員をもって構成する。

(任期)

第3 委員の任期は、年度最初の懇話会開催から1年とする。ただし、再任を妨げない。

(会議)

第4 懇話会には、座長及び副座長を置く。

2 懇話会は、座長が招集する。

3 座長は、会議の進行を行う。

4 副座長は、座長を補佐し、座長が会議に出席できないときは、座長の職務を代理する。

5 座長は、必要に応じ委員以外の者を出席させることができる。

(報酬等)

第5 委員の報酬は無償とする。

(庶務)

第6 会議の庶務は、青森県立美術館が行う。

(補則)

第7 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、座長が別に定める。

附則

この要綱は、平成19年9月13日から施行する。

施設設備概要

建設概要

施設名称 青森県立美術館
所在地 青森市大字安田字近野 185
主用途 美術館
事業主体 青森県
設計管理 青木淳建築計画事務所
構造 金箱構造設計事務所
設備 森村設計
音響 永田音響設計
土系素材 I N A X
施工 竹中・西松・奥村・北斗特定建設工事共同企業体
強電 きんでん・五十嵐・野呂特定建設工事共同企業体
弱電 奈良・高田特定建設工事共同企業体
空調 高砂・青木・佐藤設備特定建設工事共同企業体
衛生 芝管・五戸特定建設工事共同企業体
昇降機 三菱電機株式会社
面積 敷地面積：129,536.37 m²
 建築面積：7,223.07 m²
 延床面積：21,222.19 m²
 地下2階：4,736.15 m²
 地下1階：3,965.11 m²
 1階：5,339.02 m²
 2階：2,403.81 m²
 3階（機械エリア）：4,778.10 m²
 建ぺい率：5.58%
 容積率：16.38%
階数 地下2階 地上3階
寸法 最高高：16,160mm
 軒高：15,150mm
 階高：地下2階 2,300－19,000mm
 地下1階 2,500－7,500mm
 1階 2,700－11,000mm
 2階 2,500－4,000mm
 主なスパン：3,000mm×3,000mm
地域・地区 都市計画区域内 市街化区域
構造 鉄骨鉄筋コンクリート造（地下1・2階）
 鉄骨造（地上1－3階）
 杭・基礎：杭基礎（PHC-ST 杭）600φ・700φ、
 （PHC）600φ

空調設備 A H U ・ 定風量単一ダクト方式、一部 F C U、
 空冷パッケージ方式
 熱源：冷温水発生機（320USRt、280USRt）、
 加湿用蒸気ボイラ
照明設備 スポットライト及び蛍光灯（調光設備・紫外線
 カット付）
消火設備 屋内消火栓、スプリンクラー、不活性ガス（窒
 素）消火、加圧式粉末 ABC 消火器
 設備項目：自火報・防排煙設備、屋内消火栓設備、
 スプリンクラー設備（開放型、予作
 動型）、窒素ガス消火設備（一部展
 示室、収蔵庫、熱源機械室）
排煙設備 機械排煙設備（3系統）
防犯設備 開館時、常時警備員巡回。展覧会開催中は会場
 内に監視員を置く。展示室内には監視カメラを
 設置し、監視室にて監視。
衛生設備 給水：受水槽（50t）＋加圧給水ポンプユニ
 ト方式
 給湯：局所式（電気温水器）、ガス湯沸器（厨房）
 排水：ポンプアップ排水
電気設備 受電方式：高圧電力 3φ3W 6,600 V 1回
 線受電（業務用電力＋融雪電力）
 設備容量：2,650kVA
 契約電力：700kW
 予備電源：非常用発電設備 500kVA、直流電
 源設備（非常照明用）
 設備項目：受変電設備、自家発電設備、幹線設
 備、動力設備、電灯設備、展示調光
 設備、避雷設備、外構設備、電話設備、
 情報設備、インターホン設備、誘導
 支援設備、テレビ共同受信設備、監
 視カメラ設備、機械警備設備、放送
 設備、中央監視設備、外構設備、演
 出照明設備（シアター、スタジオ）、
 演出音響設備、映写設備（シアター）
昇降機 荷物用エレベータ1台 乗用エレベータ8台
設計期間 1999年12月－2002年3月
施工期間 2002年12月－2005年9月
外部仕上げ 屋根：ウレタン塗膜防水
 外壁：煉瓦＋アクリルシリコン塗装
 外構：コンクリート舗装ほうき目仕上げ

内部仕上げ

展示室（白）

床：カラーモルタル金こて押え t=20mm + 防塵防汚塗装

壁：合板 t=15mm×2 + プラスターボード t=12mm + 全面寒冷紗パテ処理 + EP

天井：合板 t=12mm + プラスターボード t=9mm + EP

展示室（土）

床：タタキ t=50mm

壁：版築 t=200mm

天井：合板 t=12mm + プラスターボード t=9mm + EP

コミュニティホール

床：クリフローリング t=15mm

壁：プラスターボード 12mm×2 + スタッコ

天井：人工木材ローズウッド練り付けシアター

床：フェルト t=8mm + カーベット t=7mm

壁：プラスターボード t=15mm + グラスウールボード + エキスパンダメタル t=6mm (樹脂コーティング処理)

天井：グラスウール + プラスターボード t=15mm + エキスパンダメタル t=6mm (樹脂コーティング処理)

オフィス

床：システム根太ユニット 600mm×600mm + コンパネ t=12mm + クリフローリング t=15mm

壁：プラスターボード t=12mm×2 + EP

天井：プラスターボード t=12mm + 吸音板 t=12mm + EP

アクセス

JR 青森駅から車で約 20 分

青森空港から車で約 20 分

東北縦貫自動車道青森 I.C. から車で約 5 分

市営バス青森駅前 2 番バス停から免許センター行き

「県立美術館前」下車（所要時間約 20 分）



青森県立美術館年報

平成 20 年度

編集・発行：青森県立美術館

青森市安田字近野 185 038-0021

017-783-3000

表紙デザイン：菊地敦己（Bluemark）

印刷：青森オフセット印刷株式会社

発行日：2009 年 12 月